

SIEMENS

Information Server - イン
ストールの注記

1

Information Server - リ
リースノート

2

SIMATIC

SIMATIC Information Server

3




Information Server SIMATIC Information Server

システムマニュアル

法律上の注意

警告事項

本書には、ユーザーの安全性を確保し製品の損傷を防止するうえ守るべき注意事項が記載されています。ユーザーの安全性に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損傷に関する注意事項には表示されません。以下に表示された注意事項は、危険度によって等級分けされています。

 危険
回避しなければ、直接的な死または重傷に至る危険状態を示します。
 警告
回避しなければ、死または重傷に至るおそれのある危険な状況を示します。
 注意
回避しなければ、軽度または中度の人身傷害を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。
通知
回避しなければ、物的損傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。


複数の危険レベルに相当する場合は、通常、最も危険度の高い事項が表示されることになっています。安全警告サイン付きの人身傷害に関する注意事項があれば、物的損傷に関する警告が付加されます。

有資格者

本書が対象とする製品/システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意及び警告が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練内容及び経験に基づきながら当該製品/システムの取り扱いに伴う危険性を認識し、発生し得る危害を事前に回避できる者をいいます。

シーメンス製品を正しくお使いいただくために

以下の事項に注意してください。

 警告
シーメンス製品は、カタログおよび付属の技術説明書の指示に従ってお使いください。他社の製品または部品との併用は、弊社の推奨もしくは許可がある場合に限りです。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

商標

®マークのついた称号はすべて Siemens AG の商標です。本書に記載するその他の称号は商標であり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

免責事項

本書のハードウェアおよびソフトウェアに関する記述と、実際の製品内容との一致については検証済みです。しかしなお、本書の記述が実際の製品内容と異なる可能性もあり、完全な一致が保証されているわけではありません。記載内容については定期的に検証し、訂正が必要な場合は次の版で更新いたします。

目次

1	Information Server - インストールの注記	7
1.1	ライセンス	7
1.2	システム条件	9
1.2.1	システム条件のチェック	9
1.2.2	ハードウェア要件	10
1.2.2.1	単一システム上の Process Historian および Information Server インストールに対応 するハードウェア要件	10
1.2.3	ソフトウェアの必要条件	11
1.2.3.1	オペレーティングシステム	11
1.2.3.2	SQL Server	12
1.2.3.3	データソース	12
1.2.3.4	ブラウザ	13
1.2.3.5	セキュリティ設定	13
1.2.3.6	証明書	16
1.2.4	Office アドインのインストール要件	19
1.3	Information Server のインストール	20
1.3.1	Information Server のインストール	20
1.3.2	MICREX-NX のための Information Server セットアップの起動	21
1.3.3	PCS neo のための Information Server セットアップの開始	23
1.3.4	Information Server の設定	24
1.3.5	Information Server のためのブラウザ設定	26
1.3.6	Information Server データベースのインストール	28
1.3.7	Information Server のプロジェクトの設定	29
1.3.8	Information Server Ready のインストール	31
1.3.9	PCS 7 の Information Server Batch Reports をインストールする	32
1.4	Office アドイン Excel のインストール	33
1.4.1	Office アドインのインストール	33
1.4.2	セットアップで Office アドインをインストール	34
1.4.3	Web アプリケーションで Office アドインをインストール	35
1.4.4	Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード	37
1.4.5	保存された証明書ありでの Office アドインの Information Server への接続	37
1.5	Information Server のアップグレードインストール	39
1.5.1	PCS 7 のアップグレードインストールの概要	39
1.5.2	PCS neo のアップグレードインストールの概要	40
1.5.3	Information Server のアップグレード	41
1.5.4	移行用のバックアップファイルを作成	42
1.5.5	Information Server Ready のアップグレード	43
1.5.6	PCS 7 の Information Server Batch Reports をアップグレードする	45

1.6	Information Server のアンインストール	46
1.6.1	Information Server のアンインストール	46
2	Information Server - リリースノート	49
2.1	セキュリティ機能に関する情報	49
2.2	リリースノート	49
2.3	カスタマーサポート	50
3	SIMATIC Information Server	53
3.1	セキュリティ機能に関する情報	53
3.2	Information Server のインストール	53
3.2.1	ライセンス	53
3.2.2	システム条件	56
3.2.2.1	システム条件のチェック	56
3.2.2.2	ハードウェア要件	57
3.2.2.3	ソフトウェアの必要条件	58
3.2.2.4	Office アドインのインストール要件	65
3.2.3	Information Server のインストール	66
3.2.3.1	Information Server のインストール	66
3.2.3.2	MICREX-NX のための Information Server セットアップの起動	68
3.2.3.3	PCS neo のための Information Server セットアップの開始	69
3.2.3.4	Information Server の設定	70
3.2.3.5	Information Server のためのブラウザ設定	72
3.2.3.6	Information Server データベースのインストール	74
3.2.3.7	Information Server のプロジェクトの設定	75
3.2.3.8	Information Server Ready のインストール	77
3.2.3.9	PCS 7 の Information Server Batch Reports をインストールする	78
3.2.4	Excel Office アドインのインストール	79
3.2.4.1	Office アドインのインストール	79
3.2.4.2	セットアップで Office アドインをインストール	80
3.2.4.3	Web アプリケーションで Office アドインをインストール	81
3.2.4.4	Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード	82
3.2.4.5	保存された証明書ありでの Office アドインの Information Server への接続	83
3.2.5	Information Server のアップグレードインストール	84
3.2.5.1	PCS 7 のアップグレードインストールの概要	84
3.2.5.2	PCS neo のアップグレードインストールの概要	85
3.2.5.3	Information Server のアップグレード	86
3.2.5.4	移行用のバックアップファイルを作成	87
3.2.5.5	Information Server Ready のアップグレード	89
3.2.5.6	PCS 7 の Information Server Batch Reports をアップグレードする	90
3.2.6	Information Server のアンインストール	92
3.2.6.1	Information Server のアンインストール	92
3.3	コンセプト	92

3.3.1	Information Server の操作	92
3.3.2	Information Server についての有益な情報	93
3.3.3	Web アプリケーション	94
3.3.3.1	Web アプリケーションの概要	94
3.3.3.2	Web アプリケーションについての有益な情報	95
3.3.3.3	ダッシュボード	96
3.3.3.4	レポート	99
3.3.3.5	ダウンロード	103
3.3.3.6	管理	103
3.3.4	Office アドイン	108
3.3.4.1	Office アドインの概要	108
3.3.4.2	Office アドインについての有益な情報	109
3.3.4.3	Excel	109
3.4	ファンクション	112
3.4.1	基本	112
3.4.1.1	Information Server Web アプリケーションのユーザーインターフェースの操作	112
3.4.1.2	Information Server の Office アドインのユーザーインターフェースの操作	113
3.4.2	Web アプリケーション	114
3.4.2.1	Web アプリケーション	114
3.4.2.2	順を追った説明	116
3.4.2.3	ナビゲーション領域	117
3.4.2.4	階層リンクバー	119
3.4.2.5	作業領域 Web アプリケーション	119
3.4.2.6	ヘッダー	121
3.4.2.7	ダッシュボード	131
3.4.2.8	レポート	177
3.4.2.9	ダウンロード	212
3.4.2.10	管理	214
3.4.3	Office アドイン	260
3.4.3.1	Excel Office アドイン	260
3.4.3.2	Office アドインのレポートタイプ	263
3.4.3.3	Excel でのレポートテンプレートのサブスクリプション	263
3.4.3.4	順を追った説明	264
3.4.3.5	Excel のツールバー	264
3.4.3.6	メッセージフィルタ	285
3.4.3.7	操作を容易にする	287
3.4.3.8	Excel のパラメータのデフォルト	294
3.4.3.9	Excel のフッター	296

Information Server - インストールの注記

1.1 ライセンス

ライセンスの種類

以下の製品を使用できます。

PCS 7 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS 7 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server 基本パッケージ	6ES7652-7EX68-2YB0 6ES7652-7EX68-2YH0
Information Server (1 クライアント)	6ES7652-7YA00-2YB0 6ES7652-7YA00-2YH0
Information Server (3 クライアント)	6ES7652-7YB00-2YB0 6ES7652-7YB00-2YH0
Information Server (5 クライアント)	6ES7652-7YC00-2YB0 6ES7652-7YC00-2YH0
Information Server データソースアクセス(1 ソース)	6ES7652-7YE00-2YB0 6ES7652-7YE00-2YH0
Information Server データソースアクセス(3 ソース)	6ES7652-7YF00-2YB0 6ES7652-7YF00-2YH0
パッケージ Process Historian と Information Server を V9.0 から V9.1 にア ップグレード	6ES7652-8AX68-2YE0 6ES7652-8AX68-2YH0

1.1 ライセンス

WinCC 向け製品

SIMATIC Information Server は WinCC 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Process Historian と Information Server 2020 SP1、 ソフトウェアメディアパッケージ	6ES7652-7AX68-0YT8 6ES7652-7AX68-0YH8

注記

MLFB 番号

2YB0/2YE0/2YT8 で終わる MLFB 番号は商品の配送です。

2YH0/0YH8 で終わる MLFB 番号は OSD 配送(ダウンロード)です。

PCS neo 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS neo 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server	6DL8906-0AC10-0AB5
Information Server クライアントアクセス	6DL8906-0BC10-0AB5

クライアントのリスト

クライアントには以下が含まれます。

- Information Server に接続する任意のブラウザ

クライアントアクセス用のライセンスカウント

Information Server の個々のアクティブクライアント接続で、ライセンスが必要です。クライアントの数は PC の数に依存し、PC で開いているアプリケーションの数ではありません。複数のレポートクライアントが PC から Information Server に接続しても、必要なのはライセンス 1 つです。

クライアントライセンスの割り付け:

- インターネットブラウザ/Web アプリケーションを介した Information Server との接続
- サーバーが 1 つのソースとして識別できない様々な URL の使用

クライアントライセンスのリリース:

- Web アプリケーションからログアウトした
- 操作がない状態で 20 分経過した

トライアルライセンス

Information Server のセットアップも、トライアルライセンスをインストールします。トライアルライセンスは、ライセンスクエリで選択できます。

- 14 日間の有効期間
- 初めて使用する日から 14 日間

フルライセンスをインストールすると評価版は完全版になります。再インストールは必要ありません。

1.2 システム条件

1.2.1 システム条件のチェック

要件

Information Server をインストールするコンピュータの要件を確認します。

手順

1. インストールのハードウェア要件に適合しているかどうかを確認します。
システム上の Process Historian および Information Server にインストールに対応するハードウェア要件 (ページ 10)
2. 承認されたオペレーティングシステムを使用していることを確認します。
オペレーティングシステム (ページ 11)
3. 承認された SQL サーバーを使用していることを確認します。
SQL サーバー (ページ 12)
4. データソースが Information Server で使用可能かどうかを確認します。
データソース (ページ 12)
5. 承認されたブラウザを使用していることを確認します。
ブラウザ (ページ 13)

1.2 システム条件

6. 関連するすべてのセキュリティ設定が適用されていることを確認します。
セキュリティ設定 (ページ 13)
7. 関連するすべての認定書が割り付けられていることを確認します。
認定書 (ページ 16)

結果

Information Server インストールのシステム要件に適合します。

1.2.2 ハードウェア要件

1.2.2.1 単一システム上の Process Historian および Information Server インストールに対応するハードウェア要件

定義

中	最小	推奨
CPU	INTEL XEON E3-1268L V3、 2.3 GHz	IPC 647E MLFB:6ES7661-0PU57-1RA4
		Xeon E-2278GE (8C/16T、3.3 (4.7) GHz、16 MB キャッシュ、TB、AMT)
CPU	INTEL XEON E3-1268L V3、 2.3 GHz	IPC 847E MLFB:6ES7661-1PW67-1RA4
		Xeon E-2278GE (8C/16T、3.3 (4.7) GHz、16 MB キャッシュ、TB、AMT)
ワークメモリ (RAM)	16 GB (64 ビットオペレーティングシステム)	64 GB (64 ビットオペレーティングシステム)
保存媒体	500 GB SATA 以上	1024 GB SSD M.2 (オペレーティングシステムおよびアプリケーション用)
		RAID 5、5.7 TB まで (4 x 1920 GB SSD 2.5 インチ SATA) (トランザクションログおよびデータベース用)

注記

現在の SIMATIC 産業用 PC はハードウェア要件に適合しています。

システムへの Process Historian と Information Server のインストールの順番

Process Historian および Information Serve を同じコンピュータにインストールしたい場合は、同じコンピュータの同じ SQL Server インスタンスにインストールします。先に Process Historian をインストールする必要があります。

破損した Information Server インストールのクリーンアップ

Information Server を Process Historian と同時にインストールせず、後からインストールした場合は、以下の手順でエラーのインストールをクリーンアップします。

1. 既存の PH データベースの SQL Server の完全なバックアップを作成します。
詳細は、FAQ のセクション「完全 PH データベースバックアップの作成」にあります。
Process Historian データベースのバックアップと復元 (https://support.industry.siemens.com/cs/attachments/66579062/66579062_pcs7_ph_backup_restore_en.pdf)
説明される手順は SQL Server 2017 にも適用されます。
SIMATIC BATCH を使用する場合は、バッチから提供されるデータは Process Historian で個別に保存されるので、完全バックアップ中に考慮されます。
2. 完全に新規にオペレーティングシステムをインストールします。
3. 全般設定を開始して Process Historian と Information Server のインストールを選択します。
4. 新規の空の Process Historian データベースが作成されます。新規作成したデータベースに同じ設定を適用します。
5. 機能が完了し、検証されたら、事前に作成した Process Historian データベースの SQL Server のバックアップを Microsoft SQL Server Management Studio に復元します。
詳細は、FAQ のセクション「Historian ストレージデータベースの復元」にあります。
Process Historian データベースのバックアップと復元 (https://support.industry.siemens.com/cs/attachments/66579062/66579062_pcs7_ph_backup_restore_en.pdf)

1.2.3 ソフトウェアの必要条件

1.2.3.1 オペレーティングシステム

サーバーのオペレーティングシステム:

バージョン	注記:
Windows Server 2019	64 ビット

デスクトップのオペレーティングシステム:

バージョン	注記:
Windows 10 LTSC 1809 以降	64 ビット

1.2 システム条件

1.2.3.2 SQL Server

SIMATIC Information Server がインストールされると、Microsoft SQL Server が自動的にインストールされます。

SQL Server	コメント
Microsoft SQL Server 2017	64 ビット

1.2.3.3 データソース

データソース	バージョン
Process Historian	2020 以降
PCS neo	3.1 以降
WinCC / PCS 7 OS	7.4 SP1
	7.5 SP1
	7.5 SP2
PMO	7.4 SP1
	7.5 SP1
	7.5 SP2
PCS neo Batch	3.1 以降

注記

それぞれのデータソースは、対応するバージョンの最新の更新のみと互換性があります。

1.2.3.4 ブラウザ

ブラウザ	バージョン	ダウンロードへのリンク
Mozilla Firefox	現在のバージョン	Mozilla Firefox のダウンロード (https://www.mozilla.org/de/firefox/new/)
Google Chrome	現在のバージョン	Google Chrome のダウンロード (https://www.google.de/chrome/browser/desktop/)
Microsoft Edge	現在のバージョン	統合済み

注記

ブラウザ選択

Google Chrome を使用することをお勧めします。

1.2.3.5 セキュリティ設定

Information Server の内部ファイアウォールの設定

Information Server のファイアウォール設定は、セットアップ中に自動的に変更されます。セットアップ中に変更内容が一覧表示されます。保存することができます。

注記

ファイアウォールのセキュリティ設定は、セキュリティ概念の基礎となります。

名前	プロトコル	ポート	推奨される手動制限
IS ネットワーク検出	UDP	137	なし
IS Web アクセス https	TCP	443	なし
IS データホスト	TCP	49081	あり、注記を参照してください
IS DiscoverServiceInstaller	UDP	5049	なし
スケジューラ	TCP	49082	あり、注記を参照してください

1.2 システム条件

注記

推奨される手動制限に関する注意事項

事例 1:Information Server が他の外部データソースに接続せずに Process Historian と同じコンピュータにインストールされている場合は、このルールを無効にすることをお勧めします。

事例 2:IS Ready がインストールされている追加の外部データソースへの接続が計画されている場合は、データソースのリモート IP アドレスのみが許可されるようにルールの範囲を調整することをお勧めします。

IS Ready がコンピュータにインストールされると、次のファイアウォール設定が変更されます。

名前	プロトコル	ポート	推奨される手動制限
IS 更新準備完了プラグイン	TCP	1200	あり、注記を参照してください
IS アーカイブ準備完了プラグイン	TCP	1201	あり、注記を参照してください

注記

推奨される手動制限に関する注意事項

事例 1:IS Ready が Information Server と同じコンピュータにインストールされている場合は、このルールを無効にする必要があります。

事例 2:Information Server 以外のコンピュータに IS Ready をインストールする場合は、Information Server のリモート IP アドレスのみが許可されるようにルールの範囲を調整することをお勧めします。

異なるサブネットを使用する場合のファイアウォール設定

異なるサブネットを使用する場合は、それに応じて特定のファイアウォール設定を調整する必要があります:

コンピュータ	アクション	名前	プロトコル	ポート
Process Historian	ルールの調整	PH SQL Server ポート	TCP	3723
Process Historian	ルールの調整	PH 検出サービス	TCP	5048
Process Historian	新しいルールの作成	IS SQL Server の参照	UDP	1434
Information Server	ルールの調整	スケジューラ	TCP	49082

注記

対応するコンピュータでルールを作成します。

1. ルールを変更するには、[セキュリティ強化機能搭載 Windows ファイアウォール]ダイアログを開きます。
2. 対応するルールに進み、ショートカットメニューで[プロパティ|領域]を開きます。
3. [リモート IP アドレス]で[IP アドレス]を選択します。
4. [追加]をクリックします。

注記

ここで、IP アドレスまたはサブネットを入力できます。

5. ダイアログのメッセージを確認します。

注記

アンインストールした後、Information Server および IS-Ready をインストールして、開かれたファイアウォールポートを手動で削除する必要があります。

インターネット上の通信に関する措置

HTTPS 接続のみがサポートされるようにサーバーを設定します。Information Server にはデジタル証明書が必要です。

共有領域にあるデータベースとアプリケーションサーバーの通信の場合、機密データを交換するために非武装地帯を使用します。

1.2 システム条件

共有領域にあるデータベースとアプリケーションサーバーの通信の場合、例えば、プライベートネットワークトンネル(VPN)などを使用して信頼できる通信を確立します。

Web サーバーのためのクロスサイトリクエストフォージェリの回避

インターネット上の他のアプリケーションまたはサーバーとの併用の回避 Web サーバーを使用した後は、必ずアプリケーションから速やかにログオフします。

IIS セキュリティの詳細については、次のリンク IIS セキュリティ ([https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms172965\(v=sql.105\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms172965(v=sql.105).aspx))で参照できます。

セキュリティアーキテクチャ「深い防御」

「産業的な安全性」に関する Siemens からの次の情報に注意してください。Web サイトには、ユニバーサル保護の概念に関する情報が含まれています。これは、産業の自動化のセキュリティに関する業界をリードする標準である ISA99/IEC 62443 の推奨事項に準拠しています。

リンク: 産業的な安全性 (<http://www.industry.siemens.com/topics/global/en/industrial-security/Pages/default.aspx>)

"サービス拒否"攻撃に対する防御

SIMATIC Web Configurator は、Information Server に対する"サービス拒否"攻撃を防御するために、Information Server 用に作成された Microsoft Internet Information Services ページの動的 IP セキュリティ機能を有効化します。サイトに対して、合計で最大 50 接続、10 秒間で 1 接続あたり最大 2000 要求のみが許容されます。この要求の制限を超過した場合、アクセスの更新が一時的に阻止されます。

下記も参照

IIS での HTTPS サービスのセットアップ (<https://support.microsoft.com/en-us/kb/324069>)

Proxyserver 2.0 を使用した DMZ ネットワークの作成 (<https://support.microsoft.com/en-us/kb/191146>)

VPN 接続の作成 ([https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc726062\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc726062(v=ws.10).aspx))

1.2.3.6 証明書

サーバーとクライアント間の接続を安全にするには、証明書が必要です。

一時的な自己署名証明書を作成するか、コンピュータの既存の証明書をインポートするオプションがあります。次いで、提供された証明書を該当するサーバーに割り付けます。

自己署名証明書の作成:

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. 概要で、[IIS]領域の[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. [操作...]の右下にある[自己署名証明書を作成する...]オプションを選択します。
[自己署名証明書を作成する...]ダイアログが開きます。
6. 証明書の表示名を選択し、[OK]で入力内容を確定します。
作成された証明書は、概要[サーバー証明書]にあります。

証明書のインポート

証明書がコンピュータに保存されていることを確認してください。

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. [IIS]領域の概要で、[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. 右側の[操作]の下にある[インポート...]オプションを選択します。
[証明書のインポート...]ダイアログが開きます。
6. [...]をクリックします。
ダイアログが開き、そこでコンピュータにある証明書にナビゲートします。
7. 証明書をダブルクリックして、それをダイアログに読み込み、[OK]をクリックします。

1.2 システム条件

証明書の割り付け

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. [サイト]をダブルクリックし、「Siemens」を選択します。
5. [操作]>[サイトの編集]の右側領域で、[バインド...]オプションを選択します。
[サイトバインド]ダイアログが開きます。
6. HTTPS バインディングを選択し、[編集...]をクリックします。
[サイトバインディングの編集]ダイアログが開きます。
7. 対応する SSL 証明書を選択し、[OK]で確定します。

証明書のエクスポート

1. [スタート|コントロールパネル|システムとセキュリティ|管理ツール]を開きます
[管理ツール]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]ダイアログが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. 概要で、[IIS]領域の[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. [アクション]のすぐ下で、[エクスポート...]オプションを選択します。
[証明書のエクスポート...]ダイアログが開きます。
6. [...]ボタンをクリックします。
保存場所を選択できるダイアログが開きます。
7. バックアップを確認します。

注記**SIMATIC Batch からのレポート**

SIMATIC Batch Server からのレポートを Information Server で生成する場合は、生成された証明書をサーバーまたはクライアントにエクスポートおよびインポートする必要があります。

1.2.4 Office アドインのインストール要件**Microsoft Office バージョン**

コンピュータに以下のいずれかの Microsoft Office バージョン(そのバージョンのサービスパックを含む)がインストールされていること。

製品	注記:
Microsoft Office 2019	64 ビット
Microsoft Office 365	64 ビット

注記

1 台のコンピュータで異なる Office バージョンの併用はサポートされていません。

Office ランタイム用の Microsoft Visual Studio ツール

Microsoft Visual Studio Tools for Office Runtime (MS VSTO RT)がお使いのコンピュータにインストールされていること。

MS VSTO RT をまだインストールしていない場合、Information Server 用に選択したのと同じ言語を使用しているプログラムをインストールしてください。

Microsoft.NET Framework

Microsoft.NET Framework 4.8 がお使いのコンピュータにインストールされていること。

Microsoft.NET Framework 4.8 をまだインストールしていない場合、Information Server 用に選択したのと同じ言語を使用しているプログラムをインストールしてください。

1.3 Information Server のインストール

下記も参照

Microsoft Visual Studio Tools for Office Runtime (<https://www.microsoft.com/en-US/download/details.aspx?id=48217>)

Microsoft .NET Framework 4.5.1 (<https://www.microsoft.com/en-US/download/details.aspx?id=40779>)

1.3 Information Server のインストール

1.3.1 Information Server のインストール

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 9)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、Alt+Tab キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. Information Server のセットアップを選択します。
PCS 7 のための Information Server セットアップの開始 (ページ 21)
PCS neo のための Information Server セットアップの開始 (ページ 23)
2. Information Server を設定します。
Information Server の設定 (ページ 24)
3. Information Server を使用する前にブラウザ設定を指定します。
Information Server のためのブラウザ設定 (ページ 26)

4. Information Server データベースをインストールします。
Information Server データベースのインストール (ページ 28)
5. IS Ready をインストールします。
IS Ready のインストール (ページ 31)

注記

IS Ready のインストールは、PCS 7、OS、WinCC および PH のインストールに必要です。これは、Information Server のデータソースを接続するために必要です。

PCS neo または PCS neo Batch をインストールする場合には、IS Ready は PH のみにインストールします。

上記で標準として指定されている製品のセットアップ中には、IS Ready をインストールすることを推奨します。

6. Information Server でプロジェクトを設定します。
Information Server でのプロジェクトの設定 (ページ 29)

結果

Information Server がインストールされます

1.3.2 MICREX-NX のための Information Server セットアップの起動

必要条件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 9)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。

1.3 Information Server のインストール

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、**Alt+Tab** キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. DVD "PCS 7 V9.1 SP1"から PCS 7 のセットアップを開始します。
 2. セットアップ言語を選択します。
 3. インストール手順を確認します。
 4. 使用許諾契約に同意します。
 5. インストールする内容を選択します。
-

注記

Information Server および IS Ready は、セットアップ中に同時に、または後でインストールすることができます。

システムに Process Historian および Information Server をインストールする場合は、インストールパッケージ Process Historian および Information Server を使用します。

6. 使用許諾契約に同意します。
7. システム設定の変更を確定します。
8. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server のセットアップが起動します。[SIMATIC Web 設定]ダイアログが開きます。

1.3.3 PCS neo のための Information Server セットアップの開始

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 9)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- Process Historian/Information Server を手動でインストールする前に、管理コンソールでターゲットコンピュータを設定する必要があります。

注記

Administration Console でのターゲットコンピュータの設定

Process Historian/Information Server を手動でインストールする前に、管理コンソールでターゲットコンピュータを設定する必要があります。

1. PCS neo セットアップの"追加製品\AC エージェント"から AC エージェントをインストールするか、または AC Server から AC エージェントを Process Historian-Server/Information Server にリモートインストールします。
 2. Process Historian Server/Information Server を管理コンソールに追加します。
 3. Process Historian Server/Information Server 向けに AC サーバー証明書を作成します。
これを行うには、管理コンソール向けの PUD の指示に従います。
- [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|はじめに|ユースケース|AC エージェントのセットアップ定義の作成]
 - [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|通信|ターゲットコンピュータを AC に追加]
 - [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|通信|ユースケース|ターゲットコンピュータ向け証明書の作成]

Process Historian/Information Server のローカルインストールが正常に終了したら、管理コンソールで以下の高度な手順を実施します。

1. PH/IS コンピュータを UMC ドメインに接続します。
2. PH/IS コンピュータのインベントリデータを決定します。
3. 設定の配布を更新します。

PUD の指示に従います。[管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|インベントリ|ターゲットコンピュータのインベントリ]

1.3 Information Server のインストール

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、**Alt+Tab** キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. PCS neo セットアップで、モジュールオーバービューの Information Server のインストールを選択します。"SIMATIC PCS neo Information Server"。

注記

インストールするコンポーネントの選択

PCS neo には、Process Historian および Information Server の組み合わせのインストールのみがリリースされています。

2. セットアップ言語を選択します。
3. インストールする内容を選択します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. システム設定の変更を確定します。
6. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server のセットアップが起動します。[SIMATIC Web 設定]ダイアログが開きます。

1.3.4 Information Server の設定

必要条件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。

- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- PCS neo と組み合わせて Information Server をインストールする場合、Administration Console でターゲットコンピュータを設定する必要があります。

設定定義

1. [SIMATIC Web コンフィグレータ]ダイアログが開きます。
設定手順の概要が表示されます。
[IIS 設定]ダイアログが開きます。
2. [IIS 設定]ダイアログの[アプリケーション名]に名前を入力するか、事前に選択されている [Information Server]を受け入れます。

注記

インストールアップグレード

このコンピュータですでにインストールを実行した場合、ダイアログが開きますが、ステップ 2~4 はスキップすることができます。

-
3. [IIS 設定]ダイアログで、次のオプションを選択します。[仮想ディレクトリの作成]:

注記

デフォルトを変更しないでください。

-
4. [OK]をクリックして確認します。
 5. [サービスアカウントの変更]ダイアログでユーザー名とパスワードを入力します。
すべてのサービスでユーザー情報を使用したい場合は、このオプションを有効なままにします。

注記

ユーザーはローカル管理者権限を持ち、ローカル SQL Server インスタンスのシステム管理者である必要があります。

コンピュータがドメインの一部である場合、ユーザーはドメインユーザーである必要があります。

-
6. [ログオン]により確認します。
 7. 設定を完了した後、コンピュータを再起動します。

結果

Information Server の設定が完了します。

1.3.5 Information Server のためのブラウザ設定

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

ブラウザの設定

Information Server 用にブラウザの設定を調整します。

注記

Information Server の初期コミッショニングが終わるまで、以下の設定は変更しないでください。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[セキュリティ]タブを選択します。
3. 現在のゾーンでは、[保護モードを有効にする]設定を無効にします。
4. [信頼済みサイト|サイト]ゾーンを選択します。

5. [Web ページ]リストに、Web ページ"https://<X.509 証明書の共通名(CN)>"を追加します。

注記

証明書の共通名

1. [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]を開きます。
2. [接続]サイトで、[Siemens]サイトを選択します。
3. [サイトの編集|バインディング]を選択します。
4. [サイトのバインディング]ダイアログで、https 接続を選択し、[編集]を選択します。
5. SSL 証明書を選択し、[表示]を選択します。
6. 共通名は[詳細|件名]タブにあります。

-
6. [カスタムレベル]を選択します。
 7. [ユーザー認証|ログオン]で、[セキュリティ設定]ダイアログの[ユーザー名とパスワードによる自動ログオン]オプションを選択します。

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

結果

ブラウザ設定が指定されます。

1.3.6 Information Server データベースのインストール

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- ブラウザの設定が正しく定義されている。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

Information Server データベースのインストール

1. ブラウザを開きます。
2. ブラウザバーにすでに定義している URL を入力するか、デスクトップの Information Server のショートカットを使用します。
Information Server の Web アプリケーションが開きます。
3. ドロップダウンリストから、Information Server で該当データを格納する Microsoft SQL Server インスタンスを選択します。

4. オプションを選択します。
 - データベースファイルパスを入力する

注記**データベースファイルパスを入力する**

場所を選択したい場合は、[データベースファイルパスを入力する]オプションを選択して、格納先のパスを追加します。

保存場所を選択しない場合、データベースファイルはデフォルトで SQL ディレクトリ「Data」に保存されます(例: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL14.HISTORIAN\MSSQL\DATA)。

- 移行ファイルへのパスを入力する

注記

IS バックアップツールを使用して、バックアップファイルを保存したフォルダを選択します。

移行用のバックアップファイルを作成 (ページ 42)

5. [インストールまたは更新]により確認します。
6. インストールが完了したら、[継続]を選択します。
7. プロジェクト設定で、[プロジェクトの追加]を選択します。
8. 追加したいプロジェクトのデータソースのタイプを選び、[続ける]で確定します。
9. 接続したい[ホスト名]または[サーバー IP]を入力します。入力します。
- 10.[プロジェクトの選択]をクリックします。
- 11.追加したいプロジェクトを選択し、名前を入力します。
- 12.[追加]を選択します。

結果

Information Server にデータベースがインストールされます。

1.3.7 Information Server のプロジェクトの設定

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。

1.3 Information Server のインストール

- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- 最初のインストール時に、ブラウザの[オプション|インターネットオプション|セキュリティ|プライバシーレベル|ユーザー認証|ログオン]で、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]オプションを選択している。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

Information Server のプロジェクト設定

1. Web アプリケーションの管理エリアを開きます。
2. プロジェクト設定を開きます。
3. [プロジェクトの追加]を選択します。
4. 追加したいプロジェクトのデータソースのタイプを選び、[続ける]で確定します。
5. 接続したい[ホスト名]または[サーバー IP]を入力します。入力します。
6. [プロジェクトの選択]をクリックします。
7. 追加したいプロジェクトを選択し、名前を入力します。

注記

SIMATIC PCS neo のホスト名

ここに、PCS neo Portal 証明書で使用される PCS neo エンジニアリングステーションの FQDN 名を入力すると、PCS neo エンジニアリングポータルで Information Server に切り換えられるようになります。

この名前を正しく入力しない場合、Information Server をポータルに統合できません。

8. [追加]を選択します。

結果

Information Server でプロジェクトが設定されます。

1.3.8 Information Server Ready のインストール

また、IS Ready はセットアップ中に標準としてインストールされます。

セットアップ中にこのサービスが選択されていなかった場合のみ、IS Ready を手動で(後日)インストールする必要があります。

IS Ready サービスは、以下のために必要です。

- WinCC の直接接続(非冗長化):IS Ready を WinCC のみにインストールします。
- WinCC の直接接続(冗長化):IS Ready をそれぞれの WinCC コンピュータにインストールします。
- PCS 7 プロジェクトの直接接続:IS Ready をそれぞれの OS にインストールします。
- 長期アーカイブとしての WinCC または PCS 7 プロジェクトの PH を介した間接接続:IS Ready を PH にインストールし、WinCC または PCS 7 OS コンピュータへのインストールは不要です。
- 長期アーカイブとしての PCS neo の PH を介した間接接続(直接接続を計画しているが、まだこの段階では不可能):IS Ready を PH のみにインストールし、PCS neo 自体へのインストールは不可能です。
- PCS 7 Batch の PH を介した接続:IS Ready を PH のみにインストールします。
- PCS neo Batch の PH を介した接続:IS Ready を PH のみにインストールします。

要件

- InformationServer のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- IS Ready の利用条件:SQL Server インスタンスに IS Ready Service のユーザーを Windows の管理者として作成する必要があります。

Information Server Ready の手動のインストール

1. インストールメディアの"ISReady"のディレクトリを開きます。
2. インストールするコンポーネントの[Start.exe]ファイルを選択します。
3. 言語を選択します。

1.3 Information Server のインストール

4. インストール手順を確認します。
5. 使用許諾契約に同意します。
6. インストールの内容を選択します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
7. インストールが完了します。
今すぐまたは後でシステムを再起動します。

サービスの設定

1. [スタート|すべてのプログラム|Siemens Automation | SIMATIC | IS Ready]を開きます。
2. [IS Ready 設定]を選択します。
[IS Ready コンフィグレータ]が開きます。
3. [次へ]を選択します。
4. ログオン情報を入力します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
5. [終了]を選択します。

注記

設定の確認

コンピュータの[ローカルユーザーおよびグループ]の[SIMATIC レポートサービス]グループに割り付けられていれば、正しく設定されています。

結果

Information Server Ready がインストールされます。

1.3.9 PCS 7 の Information Server Batch Reports をインストールする

必要条件

Information Server の最新バージョンが PC にインストールされていること。

手順

1. DVD "PCS 7 V9.1 SP1"から PCS 7 のセットアップを開始します。
2. セットアップ言語を選択します。
3. インストール手順を確認します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. 以下のインストールする内容を選択します。[カスタムインストール]を選択します。

6. [アーカイブおよびレポート機能]カテゴリーで、"Information Server Batch Reports"コンポーネントを選択します。
7. 使用許諾契約に同意します。
8. システム設定の変更を確定します。
9. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server Batch Reports コンポーネントがインストールされます。

1.4 Office アドイン Excel のインストール

1.4.1 Office アドインのインストール

要件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

セットアップまたは Web アプリケーションで Office アドインをインストールします。

セットアップで Office アドインをインストール (ページ 34)

Web アプリケーションで Office アドインをインストール (ページ 35)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

1.4 Office アドイン Excel のインストール

結果

Office アドインがアンインストールされました。

1.4.2 セットアップで Office アドインをインストール

要件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

1. アドインをインストールするためのすべての必要条件を満たしていることを確認します。
Office アドインをインストールするための必要条件 (ページ 65)

注記

Office アドイン用にセットアップを実行する前に、すべての Windows プログラムを閉じます。

2. アドインのインストールのセットアップを実行します。
3. インストール内容として Office アドインを選択します。
4. セットアップ言語を選択します。
5. インストールする内容を選択します。
6. 使用許諾契約に同意します。
7. システム設定の変更を確定します。
8. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。
9. Office アドインを Information Server に接続します。
Office アドインと Information Server に保存された証明書との接続 (ページ 83)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確認します。
-

結果

Office アドインがアンインストールされました。

Office アドインを開く (ページ 264)

下記も参照

MICREX-NX のための Information Server セットアップの起動 (ページ 21)

PCS neo のための Information Server セットアップの開始 (ページ 23)

1.4.3 Web アプリケーションで Office アドインをインストール

必要条件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

1.4 Office アドイン Excel のインストール

手順

1. アドインをインストールするためのすべての必要条件を満たしていることを確認します。
Office アドインをインストールするための必要条件 (ページ 19)

注記

Office アドイン用にセットアップを実行する前に、すべての Windows プログラムを閉じます。

2. Web アプリケーションから Office アドインをダウンロードします。
Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード (ページ 37)
3. アドインのインストールのセットアップを実行します。
4. Office アドインを Information Server に接続します。
Office アドインと Information Server に保存された証明書との接続 (ページ 37)

結果

Office アドインがアンインストールされました。

Office アドインを開く (ページ 264)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

1.4.4 Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Office アドインのインストール要件を満たしていること。

手順

1. Web アプリケーションで"Download"アプリを開きます。
2. "ダウンロード"を選択します。

結果

Office アドインがダウンロードされていること。

1.4.5 保存された証明書ありでの Office アドインの Information Server への接続

要件

- コンピュータに、対応する Microsoft Office バージョンがインストールされている。
- Information Server がインストールされます
- Office アドインがダウンロードされていること。
- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators

手順

1. 証書を[信頼できるルート証明書発行機関]フォルダに保存します。
2. Microsoft Excel を開きます。
3. [Information Server]タブに移動します。

1.4 Office アドイン Excel のインストール

4. [設定]エリアで[サーバー]を選択します。
[サーバー設定]ダイアログが開きます。
5. Information Server の URL を入力します。
6. Information Server のポートに対応するポートを選択します。
7. ダイアログを確定します。
認証ダイアログへのログオンダイアログが開きます。
8. ログオンデータを入力し、[OK]でダイアログを確定します。

注記

レポートを作成し、編集するのに使用するそれぞれの Office アドインでこの手順を繰り返します。

サーバーを使用するため、最近の 5 つの接続が保存されます。[サーバー設定]ダイアログで、サーバー設定を確認するか、別のサーバーを選択します。

結果

アドインが Information Server に接続されます。

Excel Office アドインで、フッターに接続状態が表示されます。

注記

Information Server への接続なし

Information Server への接続がない場合、適切なライセンスがあるか、またはネットワークの問題がないか確認します。必要に応じて、接続手順を繰り返します。

Information Server への既存の接続がない場合、クイックアクセスツールバーのコマンドは有効になりません。

1.5 Information Server のアップグレードインストール

1.5.1 PCS 7 のアップグレードインストールの概要

アップグレードインストールを使って、Information Server の前のバージョンを現行バージョンにアップグレードすることができます。

注記

PCS 7 と Process Historian のソフトウェア更新の順序

PCS 7 プラントを更新する前に、まず Process Historian サーバーを新しい PCS 7 バージョンの対応する Process Historian バージョンに更新する必要があります。

このコンテキストでは、「How to update the Process Historian and Information Server」セクションの「SIMATIC Process Control System PCS 7 Software update」の説明も確認してください。

SIMATIC Process Control System PCS 7 ソフトウェア更新 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109767557/simatic-process-control-system-pcs-7-software-update-with-utilization-of-new-functions-v9-0-sp2?dti=0&lc=en-WW>)

アップグレードインストールの手順

インストールされたバージョンに応じて、次の表に示すように、中間バージョンからアップグレードインストールを実行する必要があります。

元バージョン	中間バージョン	最終バージョン
2014 SP3	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 1	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 2	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 3	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 4	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 5	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 6	-	2020 SP1
2020	-	2020 SP1

1.5 Information Server のアップグレードインストール

注記

アップグレードインストール後に、"Information Server Ready"コンポーネント(IS-Ready)の設定を確認してください。

アップグレードのインストール

Information Server をアップグレードするためには、Information Server のインストールの注記に従ってください。

Information Server のアップグレード (ページ 41)

以下のコンポーネントがインストールされている、すべてのコンピュータにアップグレードをインストールします。

- Information Server
- Information Server の IS-Ready コンポーネント
- Information Server Office アドイン
- Information Server Batch

更新のアンインストール

アップグレードはアンインストールできません。

1.5.2 PCS neo のアップグレードインストールの概要

アップグレードインストールを使って、Information Server の前のバージョンを現行バージョンにアップグレードすることができます。

アップグレードインストールの手順

インストールされたバージョンに応じて、次の表に示すように、中間バージョンからアップグレードインストールを実行する必要があります。

元バージョン	中間バージョン	最終バージョン
2019	2019 SP1 Update 1	2020 Update 1
2019 SP1	2019 SP1 Update 1	2020 Update 1

注記

アップグレードインストール後に、"Information Server Ready"コンポーネント(IS-Ready)の設定を確認してください。

アップグレードのインストール

Information Server をアップグレードするためには、Information Server のインストールの注記に従ってください。

Information Server のアップグレード (ページ 41)

以下のコンポーネントがインストールされている、すべてのコンピュータにアップグレードをインストールします。

- Information Server
- Information Server の IS-Ready コンポーネント
- Information Server Office アドイン
- Information Server Batch

更新のアンインストール

アップグレードはアンインストールできません。

1.5.3 Information Server のアップグレード

アップグレードインストールを使用して、以前のバージョンの Information Server を現行のバージョンへアップグレードすることができます。

要件

- 移行用のバックアップファイルは、IS バックアップツールを使用して作成されました(オペレーティングシステムまたはハードウェアを新しいものに変更する場合にのみ必要)。移行用のバックアップファイルを作成 (ページ 42)
- データソースがアップグレードされました。

1.5 Information Server のアップグレードインストール

- PH がアップグレードされた後、IS Ready が再度インストールされました。
- オペレーティングシステムはソフトウェア要件を満たしています。
オペレーティングシステム (ページ 11)

手順

インストール手順に従ってください。
Information Server のインストール (ページ 20)

注記

Information Server データベースのインストール

手順 4 で、移行用のバックアップファイルに指定したファイルパスを保存します。

結果

Information Server は更新化されています。

1.5.4 移行用のバックアップファイルを作成

IS バックアップツール(Siemens.InformationServer.ISBackup.exe)は、Information Server の現在のバージョンへの移行に必要なすべてのファイルをバックアップします。

このツールは、バージョン 2014 SP3 Update 6 および 2020 Update 1 以降のすべてのバージョンでインストールされ、[ツール]フォルダのインストールディレクトリにあります。

注記

ツールを別のコンピューターにコピー

別のコンピューターで IS バックアップツールが必要な場合は、[IS バックアップ]フォルダ全体をコピーする必要があります。

要件

以前のバージョンの Information Server がインストールされています(例: 2014 SP3 Update 6 または 2019)。

手順

1. 管理者として、コンピュータのコマンドライン/プロンプト(コマンドシェル、DOS など)を開きます。
2. IS バックアップツールを実行:
`/backup <"path">`

注記

例:

`Siemens.InformationServer.ISBackup.exe /backup "C:\Test"`

`Siemens.InformationServer.ISBackup.exe /backup "C:\Test Backup"`

ファイルストレージ

可能であれば、ファイルストレージ用のフォルダをネットワークドライブに配置する必要があります。

結果

コンピュータのコマンドライン/プロンプトには、エクスポートされたフォルダの概要と、バックアップが成功したかどうかの確認が表示されます。

次の構造が格納先のディレクトリに表示されます。

IS 移行

- Webframe.mdf (データベースファイル)
- Webframe_log.ldf (ログファイル)
- RDLs (エクスポートされたレポートテンプレートのルートディレクトリ)
 - MetaData.xml
 - テンプレート (ディレクトリ)
 - パブリック (ディレクトリ)
 - タグ (ディレクトリ)
 - メッセージ (ディレクトリ)
 -(レポートテンプレートを含むユーザーディレクトリ)

1.5.5 Information Server Ready のアップグレード

Information Server のアップグレードインストールの実行後、IS Ready サービスがインストールされているシステムのすべてのコンピュータがアップグレードされます。

1.5 Information Server のアップグレードインストール

更新またはアップグレードをインストールした後は、必ず IS Ready の設定を確認してください。

必要条件

- InformationServer のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- IS Ready の利用条件:SQL Server インスタンスに IS Ready Service のユーザーを Windows の管理者として作成する必要があります。

Information Server Ready のアップグレード

1. インストールメディアの"ISReady"のディレクトリを開きます。
2. インストールするコンポーネントの"Start.exe"ファイルを選択します。
3. 言語を選択します。
4. インストール手順を確認します。
5. 使用許諾契約に同意します。
6. インストールの内容を選択します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
7. インストールが完了します。
今すぐまたは後でシステムを再起動します。

サービスの設定

1. [スタート|すべてのプログラム| Siemens Automation | SIMATIC | IS Ready]を開きます。
2. [IS Ready 設定]を選択します。
[IS Ready コンフィグレータ]が開きます。
3. [次へ]を選択します。

4. ログオン情報を入力します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
5. [終了]を選択します。

注記

設定の確認

コンピュータの[ローカルユーザーおよびグループ]の[SIMATIC レポートサービス]グループに割り付けられていれば、正しく設定されています。

結果

Information Server Ready がアップグレードされました。

1.5.6 PCS 7 の Information Server Batch Reports をアップグレードする

はじめに

SIMATIC Batch のレポートを作成するために PCS 7 の Information Server Batch Reports を使用する場合、Batch Reports をインストールする必要があります。

下記のステップに従います。

1. Information Server をインストールまたはアップグレードします。
2. Information Server Batch Reports をインストールまたはアップグレードします。

必要条件

Information Server の最新バージョンが PC にインストールされていること。

手順

1. PCS 7 DVD からセットアップを開始します。
2. インストールウィザードの指示に従います。
ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
3. インストールの[カスタムインストール]タイプを選択します。
4. [アーカイブおよびレポート機能]カテゴリーで、"Information Server Batch Reports"コンポーネントを選択します。
5. インストールを完了するために、システムを再起動します。

Information Server のアップグレードの手順

注記

インストールアップグレード

インストールされたバージョンに応じて、PCS 7 のアップグレードインストールの概要 (ページ 39) 章の表に示すように、Information Server Batch Reports は中間バージョンからアップグレードする必要があります。

1. PCS 7 DVD を挿入します。
2. "Additional_Products" フォルダを開き、インストール済みの Information Server Batch Reports を再インストールします。
3. インストールを完了するために、システムを再起動します。
4. Information Server の設定:
 - インターネットブラウザを管理者で起動します。
ステップ 5 以降、インストール中にブラウザ設定で定義した URL を入力します。
Information Server のためのブラウザ設定 (ページ 26)
 - レポートサーバーインスタンスを選択し、コンフィグレーションを開始します。
5. コンフィグレーションが完了したら、PCS 7 DVD からセットアップを開始します。
6. インストールウィザードの指示に従います。
ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
7. インストールの [カスタムインストール] タイプを選択します。
8. [アーカイブおよびレポート機能] カテゴリで、"Information Server Batch Reports" コンポーネントを選択します。
9. インストールを完了するために、システムを再起動します。

結果

Information Server Batch Reports のコンポーネントがインストールまたは更新されます。

1.6 Information Server のアンインストール

1.6.1 Information Server のアンインストール

要件

- Information Server がインストールされます

手順

1. [コントロールパネル|プログラムと機能]に移動します。
2. 項目 SIMATIC Information Server を選択します。
3. [アンインストール]メニューコマンドを選択します。
4. アンインストールを確定します。

結果

Information Server がアンインストールされます

注記

アンインストール中、生成されたレポートやデータベースは削除されません。

Information Server - リリースノート

2.1 セキュリティ機能に関する情報

シーメンスは、セキュアな環境下でのプラント、システム、機械およびネットワークの運転をサポートする産業用セキュリティ機能を有する製品およびソリューションを提供します。

プラント、システム、機械およびネットワークをサイバー脅威から守るためには、総体的かつ最新の産業用セキュリティコンセプトを実装し、それを継続的に維持することが必要です。シーメンスの製品とソリューションは、そのようなコンセプトの 1 要素を形成します。

お客様は、プラント、システム、機械およびネットワークへの不正アクセスを防止する責任があります。システム、機械およびコンポーネントは、企業内ネットワークのみに接続するか、必要な範囲内かつ適切なセキュリティ対策を講じている場合にのみ（例：ファイアウォールやネットワークセグメンテーションの使用など）インターネットに接続することとするべきとシーメンスは考えます。

産業用セキュリティ対策に関する詳細な情報は、<https://www.siemens.com/industrialsecurity> (<https://www.siemens.com/industrialsecurity>) をご覧下さい。

シーメンスの製品とソリューションは、セキュリティをさらに強化するために継続的に開発されています。シーメンスは、利用可能になったらすぐ製品の更新プログラムを適用し、常に最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。サポートが終了した製品バージョンを使用すること、および最新の更新プログラムを適用しないことで、お客様はサイバー脅威にさらされる危険が増大する可能性があります。

製品の更新プログラムに関する最新情報を得るには、<https://www.siemens.com/industrialsecurity> (<https://www.siemens.com/industrialsecurity>) からシーメンス産業セキュリティ RSS フィードを購読してください。

2.2 リリースノート

内容

これらのリリースノートには SIMATIC Information Server および Process Historian に関する重要な情報が含まれます。これらのリリースノートに含まれる情報は、マニュアルおよびオンラインヘルプの情報よりも優先します。有益な情報が含まれていますのでこれらのリリースノートを注意してお読みください。

2.3 カスタマーサポート

2.3 カスタマーサポート

SIMATIC ホットライン

次の表で指定された時間に SIMATIC ホットラインに到達できます。SIMATIC ホットラインの言語は通常ドイツ語と英語です。オーソリゼーションホットラインは、フランス語、イタリア語、スペイン語にも対応しています。

技術サポート

ニュルンベルク	(GMT + 1:00)
営業時間	月 - 金 8:00 am - 5:00 pm (CET/CEST)
電話番号	+49 (0)911 895 7222
ファックス番号	+49 (0)911 895 7223
電子メール	サポートリクエスト (https://support.industry.siemens.com/My/ww/en/requests)

Automation Value Card (AVC)

Automation Value Card (AVC)は、365 日 24 時間等の拡張技術サポートを提供します。AVC に関する情報については以下の URL を参照してください。

Automation Value Card (<https://support.industry.siemens.com/cs/sc/2021/automation-value-card?lc=en-WW>)

SIMATIC カスタマーオンラインサポート

サービスとサポート

当社の製品のサポートの概要は、以下の URL を参照してください。

オンラインサポート (<https://support.industry.siemens.com/cs/start?lc=en-WW>)

サポートアプリ

外出先でのサポートは、アプリを入手してください。

サポートアプリ (<https://support.industry.siemens.com/cs/sc/2067/mobile-use-via-app?lc=en-WW>)

関連マニュアル

技術フォーラム

技術フォーラムは他の SIMATIC ユーザーとのやりとりをサポートします。以下の URL にあります。

技術フォーラム (<https://support.industry.siemens.com/tf/>)

SIMATIC 製品の技術文書

個々の SIMATIC 製品およびシステムに提供された技術文書へのガイドは、以下の URL にあります。

技術文書ポータル (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109742705/documentation?dti=0&lc=en-WW>)

FAQ

以下の FAQ には、Information Server を使用する上で有益な情報が含まれています。

- WinCC および PCS 7 環境の Process Historian データに基づく Information Server のレポートテンプレートの作成。
FAQ レポートテンプレートの作成 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/64906050/creation-of-report-templates-for-the-information-server-based-on-process-historian-data-in-the-wincc-und-pcs-7-environment?dti=0&lc=en-US>)
- SQL Server Reporting Services (SSRS)を更新する方法
FAQ SQL Server Reporting Services の更新 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109748195/what-should-you-watch-out-for-when-installing-simatic-process-historian-simatic-information-server-2014-sp2-upd3-when-wincc-is-already-installed-?dti=0&lc=en-US>)
- SIMATIC Process Historian/ Information Server で SQL サーバーを更新する方法
FAQ SIMATIC PH/IS 向け SQL サーバーの更新 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109748200/how-do-you-update-the-sql-server-with-simatic-process-historian-information-server-?dti=0&lc=en-US>)
- Windows 10 でアジア言語の Information Server レポートを正しく表示する方法
FAQ Windows 10 でのアジア言語でのレポートの正しい表示 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109748197/in-windows-10-how-do-you-correctly-display-information-server-reports-in-asian-languages-?dti=0&lc=en-US>)

2.3 カスタマーサポート

製品情報

SIMATIC 製品

SIMATIC 製品の一般情報は以下の URL にあります。

SIMATIC 製品の概要 (<http://w3.siemens.com/mcms/topics/en/simatic/Pages/default.aspx>)

Information Server

Information Server に関する情報については以下の URL を参照してください。

SIMATIC Information Server (<http://w3.siemens.com/mcms/automation-software/en/scada-software/scada-options/simatic-information-server/Pages/Default.aspx>)

SIMATIC Information Server

3.1 セキュリティ機能に関する情報

シーメンスは、セキュアな環境下でのプラント、システム、機械およびネットワークの運転をサポートする産業用セキュリティ機能を有する製品およびソリューションを提供します。

プラント、システム、機械およびネットワークをサイバー脅威から守るためには、総体的かつ最新の産業用セキュリティコンセプトを実装し、それを継続的に維持することが必要です。シーメンスの製品とソリューションは、そのようなコンセプトの 1 要素を形成します。

お客様は、プラント、システム、機械およびネットワークへの不正アクセスを防止する責任があります。システム、機械およびコンポーネントは、企業内ネットワークのみに接続するか、必要な範囲内かつ適切なセキュリティ対策を講じている場合にのみ（例：ファイアウォールやネットワークセグメンテーションの使用など）インターネットに接続することとするべきとシーメンスは考えます。

産業用セキュリティ対策に関する詳細な情報は、<https://www.siemens.com/industrialsecurity> (<https://www.siemens.com/industrialsecurity>) をご覧下さい。

シーメンスの製品とソリューションは、セキュリティをさらに強化するために継続的に開発されています。シーメンスは、利用可能になったらすぐ製品の更新プログラムを適用し、常に最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。サポートが終了した製品バージョンを使用すること、および最新の更新プログラムを適用しないことで、お客様はサイバー脅威にさらされる危険が増大する可能性があります。

製品の更新プログラムに関する最新情報を得るには、<https://www.siemens.com/industrialsecurity> (<https://www.siemens.com/industrialsecurity>) からシーメンス産業セキュリティ RSS フィードを購読してください。

3.2 Information Server のインストール

3.2.1 ライセンス

ライセンスの種類

以下の製品を使用できます。

PCS 7 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS 7 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server 基本パッケージ	6ES7652-7EX68-2YB0 6ES7652-7EX68-2YH0
Information Server (1 クライアント)	6ES7652-7YA00-2YB0 6ES7652-7YA00-2YH0
Information Server (3 クライアント)	6ES7652-7YB00-2YB0 6ES7652-7YB00-2YH0
Information Server (5 クライアント)	6ES7652-7YC00-2YB0 6ES7652-7YC00-2YH0
Information Server データソースアクセス(1 ソース)	6ES7652-7YE00-2YB0 6ES7652-7YE00-2YH0
Information Server データソースアクセス(3 ソース)	6ES7652-7YF00-2YB0 6ES7652-7YF00-2YH0
パッケージ Process Historian と Information Server を V9.0 から V9.1 にアップグレード	6ES7652-8AX68-2YE0 6ES7652-8AX68-2YH0

WinCC 向け製品

SIMATIC Information Server は WinCC 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Process Historian と Information Server 2020 SP1、ソフトウェアメディアパッケージ	6ES7652-7AX68-0YT8 6ES7652-7AX68-0YH8

注記**MLFB 番号**

2YB0/2YE0/2YT8 で終わる MLFB 番号は商品の配送です。

2YH0/0YH8 で終わる MLFB 番号は OSD 配送(ダウンロード)です。

PCS neo 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS neo 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server	6DL8906-0AC10-0AB5
Information Server クライアントアクセス	6DL8906-0BC10-0AB5

クライアントのリスト

クライアントには以下が含まれます。

- Information Server に接続する任意のブラウザ

クライアントアクセス用のライセンスカウント

Information Server の個々のアクティブクライアント接続で、ライセンスが必要です。クライアントの数は PC の数に依存し、PC で開いているアプリケーションの数ではありません。複数のレポートクライアントが PC から Information Server に接続しても、必要なのはライセンス 1 つです。

クライアントライセンスの割り付け:

- インターネットブラウザ/Web アプリケーションを介した Information Server との接続
- サーバーが 1 つのソースとして識別できない様々な URL の使用

クライアントライセンスのリリース:

- Web アプリケーションからログアウトした
- 操作がない状態で 20 分経過した

トライアルライセンス

Information Server のセットアップも、トライアルライセンスをインストールします。トライアルライセンスは、ライセンスクエリで選択できます。

- 14 日間の有効期間
- 初めて使用する日から 14 日間

フルライセンスをインストールすると評価版は完全版になります。再インストールは必要ありません。

3.2.2 システム条件

3.2.2.1 システム条件のチェック

要件

Information Server をインストールするコンピュータの要件を確認します。

手順

1. インストールのハードウェア要件に適合しているかどうかを確認します。
システム上の Process Historian および Information Server にインストールに対応するハードウェア要件 (ページ 57)
2. 承認されたオペレーティングシステムを使用していることを確認します。
オペレーティングシステム (ページ 58)
3. 承認された SQL サーバーを使用していることを確認します。
SQL サーバー (ページ 59)
4. データソースが Information Server で使用可能かどうかを確認します。
データソース (ページ 59)
5. 承認されたブラウザを使用していることを確認します。
ブラウザ (ページ 59)
6. 関連するすべてのセキュリティ設定が適用されていることを確認します。
セキュリティ設定 (ページ 60)
7. 関連するすべての認定書が割り付けられていることを確認します。
認定書 (ページ 63)

結果

Information Server インストールのシステム要件に適合します。

3.2.2.2 ハードウェア要件

単一システム上の Process Historian および Information Server インストールに対応するハードウェア要件

定義

中	最小	推奨
CPU	INTEL XEON E3-1268L V3、 2.3 GHz	IPC 647E MLFB:6ES7661-0PU57-1RA4
		Xeon E-2278GE (8C/16T、3.3 (4.7) GHz、16 MB キャッシュ、TB、AMT)
CPU	INTEL XEON E3-1268L V3、 2.3 GHz	IPC 847E MLFB:6ES7661-1PW67-1RA4
		Xeon E-2278GE (8C/16T、3.3 (4.7) GHz、16 MB キャッシュ、TB、AMT)
ワークメモリ (RAM)	16 GB (64 ビットオペレーティングシステム)	64 GB (64 ビットオペレーティングシステム)
保存媒体	500 GB SATA 以上	1024 GB SSD M.2 (オペレーティングシステムおよびアプリケーション用)
		RAID 5、5.7 TB まで (4 x 1920 GB SSD 2.5 インチ SATA) (トランザクションログおよびデータベース用)

注記

現在の SIMATIC 産業用 PC はハードウェア要件に適合しています。

システムへの Process Historian と Information Server のインストールの順番

Process Historian および Information Serve を同じコンピュータにインストールしたい場合は、同じコンピュータの同じ SQL Server インスタンスにインストールします。先に Process Historian をインストールする必要があります。

破損した Information Server インストールのクリーンアップ

Information Server を Process Historian と同時にインストールせず、後からインストールした場合は、以下の手順でエラーのインストールをクリーンアップします。

1. 既存の PH データベースの SQL Server の完全なバックアップを作成します。
詳細は、FAQ のセクション「完全 PH データベースバックアップの作成」にあります。
Process Historian データベースのバックアップと復元 (https://support.industry.siemens.com/cs/attachments/66579062/66579062_pcs7_ph_backup_restore_en.pdf)
説明される手順は SQL Server 2017 にも適用されます。
SIMATIC BATCH を使用する場合は、バッチから提供されるデータは Process Historian で個別に保存されるので、完全バックアップ中に考慮されます。
2. 完全に新規にオペレーティングシステムをインストールします。
3. 全般設定を開始して Process Historian と Information Server のインストールを選択します。
4. 新規の空の Process Historian データベースが作成されます。新規作成したデータベースに同じ設定を適用します。
5. 機能が完了し、検証されたら、事前に作成した Process Historian データベースの SQL Server のバックアップを Microsoft SQL Server Management Studio に復元します。
詳細は、FAQ のセクション「Historian ストレージデータベースの復元」にあります。
Process Historian データベースのバックアップと復元 (https://support.industry.siemens.com/cs/attachments/66579062/66579062_pcs7_ph_backup_restore_en.pdf)

3.2.2.3 ソフトウェアの必要条件**オペレーティングシステム**

サーバーのオペレーティングシステム:

バージョン	注記:
Windows Server 2019	64 ビット

デスクトップのオペレーティングシステム:

バージョン	注記:
Windows 10 LTSC 1809 以降	64 ビット

SQL Server

SIMATIC Information Server がインストールされると、Microsoft SQL Server が自動的にインストールされます。

SQL Server	コメント
Microsoft SQL Server 2017	64 ビット

データソース

データソース	バージョン
Process Historian	2020 以降
PCS neo	3.1 以降
WinCC / PCS 7 OS	7.4 SP1
	7.5 SP1
	7.5 SP2
PMO	7.4 SP1
	7.5 SP1
	7.5 SP2
PCS neo Batch	3.1 以降

注記

それぞれのデータソースは、対応するバージョンの最新の更新のみと互換性があります。

ブラウザ

ブラウザ	バージョン	ダウンロードへのリンク
Mozilla Firefox	現在のバージョン	Mozilla Firefox のダウンロード (https://www.mozilla.org/de/firefox/new/)
Google Chrome	現在のバージョン	Google Chrome のダウンロード (https://www.google.de/chrome/browser/desktop/)
Microsoft Edge	現在のバージョン	統合済み

注記**ブラウザ選択**

Google Chrome を使用することをお勧めします。

セキュリティ設定**Information Server の内部ファイアウォールの設定**

Information Server のファイアウォール設定は、セットアップ中に自動的に変更されます。セットアップ中に変更内容が一覧表示されます。保存することができます。

注記

ファイアウォールのセキュリティ設定は、セキュリティ概念の基礎となります。

名前	プロトコル	ポート	推奨される手動制限
IS ネットワーク検出	UDP	137	なし
IS Web アクセス https	TCP	443	なし
IS データホスト	TCP	49081	あり、注記を参照してください
IS DiscoverServiceInstaller	UDP	5049	なし
スケジューラ	TCP	49082	あり、注記を参照してください

注記**推奨される手動制限に関する注意事項**

事例 1: Information Server が他の外部データソースに接続せずに Process Historian と同じコンピュータにインストールされている場合は、このルールを無効にすることをお勧めします。

事例 2: IS Ready がインストールされている追加の外部データソースへの接続が計画されている場合は、データソースのリモート IP アドレスのみが許可されるようにルールの範囲を調整することをお勧めします。

IS Ready がコンピュータにインストールされると、次のファイアウォール設定が変更されます。

名前	プロトコル	ポート	推奨される手動制限
IS 更新準備完了プラグイン	TCP	1200	あり、注記を参照してください
IS アーカイブ準備完了プラグイン	TCP	1201	あり、注記を参照してください

注記

推奨される手動制限に関する注意事項

事例 1: IS Ready が Information Server と同じコンピュータにインストールされている場合は、このルールを無効にする必要があります。

事例 2: Information Server 以外のコンピュータに IS Ready をインストールする場合は、Information Server のリモート IP アドレスのみが許可されるようにルールの範囲を調整することをお勧めします。

異なるサブネットを使用する場合のファイアウォール設定

異なるサブネットを使用する場合は、それに応じて特定のファイアウォール設定を調整する必要があります:

コンピュータ	アクション	名前	プロトコル	ポート
Process Historian	ルールの調整	PH SQL Server ポート	TCP	3723
Process Historian	ルールの調整	PH 検出サービス	TCP	5048
Process Historian	新しいルールの作成	IS SQL Server の参照	UDP	1434
Information Server	ルールの調整	スケジューラ	TCP	49082

注記

対応するコンピュータでルールを作成します。

3.2 Information Server のインストール

1. ルールを変更するには、[セキュリティ強化機能搭載 Windows ファイアウォール]ダイアログを開きます。
2. 対応するルールに進み、ショートカットメニューで[プロパティ|領域]を開きます。
3. [リモート IP アドレス]で[IP アドレス]を選択します。
4. [追加] をクリックします。

注記

ここで、IP アドレスまたはサブネットを入力できます。

5. ダイアログのメッセージを確認します。

注記

アンインストールした後、Information Server および IS-Ready をインストールして、開かれたファイアウォールポートを手動で削除する必要があります。

インターネット上の通信に関する措置

HTTPS 接続のみがサポートされるようにサーバーを設定します。Information Server にはデジタル証明書が必要です。

共有領域にあるデータベースとアプリケーションサーバーの通信の場合、機密データを交換するために非武装地帯を使用します。

共有領域にあるデータベースとアプリケーションサーバーの通信の場合、例えば、プライベートネットワークトンネル(VPN)などを使用して信頼できる通信を確立します。

Web サーバーのためのクロスサイトリクエストフォージェリの回避

インターネット上の他のアプリケーションまたはサーバーとの併用の回避 Web サーバーを使用した後は、必ずアプリケーションから速やかにログオフします。

IIS セキュリティの詳細については、次のリンク IIS セキュリティ ([https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms172965\(v=sql.105\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms172965(v=sql.105).aspx))で参照できます。

セキュリティアーキテクチャ「深い防御」

「産業的な安全性」に関する Siemens からの次の情報に注意してください。Web サイトには、ユニバーサル保護の概念に関する情報が含まれています。これは、産業の自動化のセキュリティに関する業界をリードする標準である ISA99/IEC 62443 の推奨事項に準拠しています。

リンク: 産業的な安全性 (<https://new.siemens.com/global/en/products/automation/topic-areas/industrial-security.html>)

"サービス拒否"攻撃に対する防御

SIMATIC Web Configurator は、Information Server に対する"サービス拒否"攻撃を防御するために、Information Server 用に作成された Microsoft Internet Information Services ページの動的 IP セキュリティ機能を有効化します。サイトに対して、合計で最大 50 接続、10 秒間で 1 接続あたり最大 2000 要求のみが許容されます。この要求の制限を超過した場合、アクセスの更新が一時的に阻止されます。

証明書

サーバーとクライアント間の接続を安全にするには、証明書が必要です。

一時的な自己署名証明書を作成するか、コンピュータの既存の証明書をインポートするオプションがあります。次いで、提供された証明書を該当するサーバーに割り付けます。

自己署名証明書の作成:

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. 概要で、[IIS]領域の[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. [操作...]の右下にある[自己署名証明書を作成する...]オプションを選択します。
[自己署名証明書を作成する...]ダイアログが開きます。
6. 証明書の表示名を選択し、[OK]で入力内容を確定します。
作成された証明書は、概要[サーバー証明書]にあります。

証明書のインポート

証明書がコンピュータに保存されていることを確認してください。

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. [IIS]領域の概要で、[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. 右側の[操作]の下にある[インポート...]オプションを選択します。
[証明書のインポート...]ダイアログが開きます。
6. [...]をクリックします。
ダイアログが開き、そこでコンピュータにある証明書にナビゲートします。
7. 証明書をダブルクリックして、それをダイアログに読み込み、[OK]をクリックします。

証明書の割り付け

1. [スタート]>[コントロールパネル]>[システムとセキュリティ]>[管理]を開きます。
[管理]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]ダイアログボックスが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. [サイト]をダブルクリックし、「Siemens」を選択します。
5. [操作]>[サイトの編集]の右側領域で、[バインド...]オプションを選択します。
[サイトバインド]ダイアログが開きます。
6. HTTPS バインディングを選択し、[編集...]をクリックします。
[サイトバインディングの編集]ダイアログが開きます。
7. 対応する SSL 証明書を選択し、[OK]で確定します。

証明書のエクスポート

1. [スタート|コントロールパネル|システムとセキュリティ|管理ツール]を開きます
[管理ツール]ダイアログが開きます。
2. [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]リンクをダブルクリックします。
[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]ダイアログが開きます。
3. 左側の[接続]の下にあるサーバーを選択します。



4. 概要で、[IIS]領域の[サーバー証明書]機能をダブルクリックします。
5. [アクション]のすぐ下で、[エクスポート...]オプションを選択します。
[証明書のエクスポート...]ダイアログが開きます。
6. [...]ボタンをクリックします。
保存場所を選択できるダイアログが開きます。
7. バックアップを確認します。

注記

SIMATIC Batch からのレポート

SIMATIC Batch Server からのレポートを Information Server で生成する場合は、生成された証明書をサーバーまたはクライアントにエクスポートおよびインポートする必要があります。

3.2.2.4 Office アドインのインストール要件

Microsoft Office バージョン

コンピュータに以下のいずれかの Microsoft Office バージョン(そのバージョンのサービスパックを含む)がインストールされていること。

製品	注記:
Microsoft Office 2019	64 ビット
Microsoft Office 365	64 ビット

注記

1 台のコンピュータで異なる Office バージョンの併用はサポートされていません。

3.2 Information Server のインストール

Office ランタイム用の Microsoft Visual Studio ツール

Microsoft Visual Studio Tools for Office Runtime (MS VSTO RT)がお使いのコンピュータにインストールされていること。

MS VSTO RT をまだインストールしていない場合、Information Server 用に選択したのと同じ言語を使用しているプログラムをインストールしてください。

Microsoft.NET Framework

Microsoft.NET Framework 4.8 がお使いのコンピュータにインストールされていること。

Microsoft.NET Framework 4.8 をまだインストールしていない場合、Information Server 用に選択したのと同じ言語を使用しているプログラムをインストールしてください。

下記も参照

Microsoft Visual Studio Tools for Office Runtime (<https://www.microsoft.com/en-US/download/details.aspx?id=48217>)

Microsoft .NET Framework 4.5.1 (<https://www.microsoft.com/en-US/download/details.aspx?id=40779>)

3.2.3 Information Server のインストール

3.2.3.1 Information Server のインストール

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 9)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、**Alt+Tab** キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. Information Server のセットアップを選択します。
PCS 7 のための Information Server セットアップの開始 (ページ 68)
PCS neo のための Information Server セットアップの開始 (ページ 69)
 2. Information Server を設定します。
Information Server の設定 (ページ 70)
 3. Information Server を使用する前にブラウザ設定を指定します。
Information Server のためのブラウザ設定 (ページ 72)
 4. Information Server データベースをインストールします。
Information Server データベースのインストール (ページ 74)
 5. IS Ready をインストールします。
IS Ready のインストール (ページ 77)
-

注記

IS Ready のインストールは、PCS 7、OS、WinCC および PH のインストールに必要です。これは、Information Server のデータソースを接続するために必要です。

PCS neo または PCS neo Batch をインストールする場合には、IS Ready は PH のみにインストールします。

上記で標準として指定されている製品のセットアップ中には、IS Ready をインストールすることを推奨します。

6. Information Server でプロジェクトを設定します。
Information Server でのプロジェクトの設定 (ページ 75)

結果

Information Server がインストールされます

3.2.3.2 MICREX-NX のための Information Server セットアップの起動

必要条件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 56)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、**Alt+Tab** キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. DVD "PCS 7 V9.1 SP1"から PCS 7 のセットアップを開始します。
2. セットアップ言語を選択します。
3. インストール手順を確認します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. インストールする内容を選択します。

注記

Information Server および IS Ready は、セットアップ中に同時に、または後でインストールすることができます。

システムに Process Historian および Information Server をインストールする場合は、インストールパッケージ Process Historian および Information Server を使用します。

6. 使用許諾契約に同意します。
7. システム設定の変更を確定します。
8. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server のセットアップが起動します。[SIMATIC Web 設定]ダイアログが開きます。

3.2.3.3 PCS neo のための Information Server セットアップの開始

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
システム要件を確認します (ページ 56)
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- Process Historian/Information Server を手動でインストールする前に、管理コンソールでターゲットコンピュータを設定する必要があります。

注記

Administration Console でのターゲットコンピュータの設定

Process Historian/Information Server を手動でインストールする前に、管理コンソールでターゲットコンピュータを設定する必要があります。

1. PCS neo セットアップの"追加製品\AC エージェント"から AC エージェントをインストールするか、または AC Server から AC エージェントを Process Historian-Server/Information Server にリモートインストールします。
 2. Process Historian Server/Information Server を管理コンソールに追加します。
 3. Process Historian Server/Information Server 向けに AC サーバー証明書を作成します。
これを行うには、管理コンソール向けの PUD の指示に従います。
- [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|はじめに|ユースケース|AC エージェントのセットアップ定義の作成]
 - [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|通信|ターゲットコンピュータを AC に追加]
 - [管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|通信|ユースケース|ターゲットコンピュータ向け証明書の作成]

Process Historian/Information Server のローカルインストールが正常に終了したら、管理コンソールで以下の高度な手順を実施します。

1. PH/IS コンピュータを UMC ドメインに接続します。
2. PH/IS コンピュータのインベントリデータを決定します。
3. 設定の配布を更新します。

PUD の指示に従います。[管理| SIMATIC PCS neo 管理コンソール|インベントリ|ターゲットコンピュータのインベントリ]

手順

注記

インストールの内容によっては、インストールプロセス中に 1 回以上、再起動するように求めるダイアログが表示されることがあります。

インストールプロセス中に、さらにセットアップダイアログが自動的に開くことがあります。セットアップがしばらく停止する場合は、**Alt+Tab** キーを同時に押して、ビューを変更してください。これによって、追加入力を必要とする別のセットアップダイアログが背景に隠れていないかどうか確認します。

1. PCS neo セットアップで、モジュールオーバービューの Information Server のインストールを選択します。"SIMATIC PCS neo Information Server"。

注記

インストールするコンポーネントの選択

PCS neo には、Process Historian および Information Server の組み合わせのインストールのみがリリースされています。

2. セットアップ言語を選択します。
3. インストールする内容を選択します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. システム設定の変更を確定します。
6. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server のセットアップが起動します。[SIMATIC Web 設定]ダイアログが開きます。

3.2.3.4 Information Server の設定

必要条件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。

- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- PCS neo と組み合わせて Information Server をインストールする場合、Administration Console でターゲットコンピュータを設定する必要があります。

設定定義

1. [SIMATIC Web コンフィグレータ]ダイアログが開きます。
設定手順の概要が表示されます。
[IIS 設定]ダイアログが開きます。
2. [IIS 設定]ダイアログの[アプリケーション名]に名前を入力するか、事前に選択されている [Information Server]を受け入れます。

注記

インストールアップグレード

このコンピュータですでにインストールを実行した場合、ダイアログが開きますが、ステップ 2~4 はスキップすることができます。

-
3. [IIS 設定]ダイアログで、次のオプションを選択します。[仮想ディレクトリの作成]:

注記

デフォルトを変更しないでください。

-
4. [OK]をクリックして確認します。
 5. [サービスアカウントの変更]ダイアログでユーザー名とパスワードを入力します。
すべてのサービスでユーザー情報を使用したい場合は、このオプションを有効なままにします。

注記

ユーザーはローカル管理者権限を持ち、ローカル SQL Server インスタンスのシステム管理者である必要があります。

コンピュータがドメインの一部である場合、ユーザーはドメインユーザーである必要があります。

-
6. [ログオン]により確認します。
 7. 設定を完了した後、コンピュータを再起動します。

結果

Information Server の設定が完了します。

3.2.3.5 Information Server のためのブラウザ設定

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

ブラウザの設定

Information Server 用にブラウザの設定を調整します。

注記

Information Server の初期コミッショニングが終わるまで、以下の設定は変更しないでください。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[セキュリティ]タブを選択します。
3. 現在のゾーンでは、[保護モードを有効にする]設定を無効にします。
4. [信頼済みサイト|サイト]ゾーンを選択します。

5. [Web ページ]リストに、Web ページ"https://<X.509 証明書の共通名(CN)>"を追加します。

注記

証明書の共通名

1. [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ]を開きます。
2. [接続]サイトで、[Siemens]サイトを選択します。
3. [サイトの編集|バインディング]を選択します。
4. [サイトのバインディング]ダイアログで、https 接続を選択し、[編集]を選択します。
5. SSL 証明書を選択し、[表示]を選択します。
6. 共通名は[詳細|件名]タブにあります。

-
6. [カスタムレベル]を選択します。
 7. [ユーザー認証|ログオン]で、[セキュリティ設定]ダイアログの[ユーザー名とパスワードによる自動ログオン]オプションを選択します。

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

結果

ブラウザ設定が指定されます。

3.2.3.6 Information Server データベースのインストール

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- ブラウザの設定が正しく定義されている。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

Information Server データベースのインストール

1. ブラウザを開きます。
2. ブラウザバーにすでに定義している URL を入力するか、デスクトップの Information Server のショートカットを使用します。
Information Server の Web アプリケーションが開きます。
3. ドロップダウンリストから、Information Server で該当データを格納する Microsoft SQL Server インスタンスを選択します。

4. オプションを選択します。
 - データベースファイルパスを入力する

注記**データベースファイルパスを入力する**

場所を選択したい場合は、[データベースファイルパスを入力する]オプションを選択して、格納先のパスを追加します。

保存場所を選択しない場合、データベースファイルはデフォルトで SQL ディレクトリ「Data」に保存されます(例: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL14.HISTORIAN\MSSQL\DATA)。

- 移行ファイルへのパスを入力する

注記

IS バックアップツールを使用して、バックアップファイルを保存したフォルダを選択します。

移行用のバックアップファイルを作成 (ページ 87)

5. [インストールまたは更新]により確認します。
6. インストールが完了したら、[継続]を選択します。
7. プロジェクト設定で、[プロジェクトの追加]を選択します。
8. 追加したいプロジェクトのデータソースのタイプを選び、[続ける]で確定します。
9. 接続したい[ホスト名]または[サーバー IP]を入力します。入力します。
- 10.[プロジェクトの選択]をクリックします。
- 11.追加したいプロジェクトを選択し、名前を入力します。
- 12.[追加]を選択します。

結果

Information Server にデータベースがインストールされます。

3.2.3.7 Information Server のプロジェクトの設定

要件

- Information Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。

3.2 Information Server のインストール

- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する:PH サーバー。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- 最初のインストール時に、ブラウザの[オプション|インターネットオプション|セキュリティ|プライバシーレベル|ユーザー認証|ログオン]で、[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]オプションを選択している。
- 設定時に[サービスアカウントの変更]ダイアログにログオンするユーザーが、以下の各サービスについて以下の権限を持つ。
 - Information Server スケジューラ:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス、電子メールの送信権限
 - Information Server DataHost サービス:設定されたデータソース(PH など)へのアクセス
 - InfSrvPool:WebHost データベースへのアクセス、設定されたデータソース(PH など)へのアクセス

Information Server のプロジェクト設定

1. Web アプリケーションの管理エリアを開きます。
2. プロジェクト設定を開きます。
3. [プロジェクトの追加]を選択します。
4. 追加したいプロジェクトのデータソースのタイプを選び、[続ける]で確定します。
5. 接続したい[ホスト名]または[サーバー IP]を入力します。入力します。
6. [プロジェクトの選択]をクリックします。
7. 追加したいプロジェクトを選択し、名前を入力します。

注記

SIMATIC PCS neo のホスト名

ここに、PCS neo Portal 証明書で使用される PCS neo エンジニアリングステーションの FQDN 名を入力すると、PCS neo エンジニアリングポータルで Information Server に切り換えられるようになります。

この名前を正しく入力しない場合、Information Server をポータルに統合できません。

8. [追加]を選択します。

結果

Information Server でプロジェクトが設定されます。

3.2.3.8 Information Server Ready のインストール

また、IS Ready はセットアップ中に標準としてインストールされます。

セットアップ中にこのサービスが選択されていなかった場合のみ、IS Ready を手動で(後日)インストールする必要があります。

IS Ready サービスは、以下のために必要です。

- WinCC の直接接続(非冗長化):IS Ready を WinCC のみにインストールします。
- WinCC の直接接続(冗長化):IS Ready をそれぞれの WinCC コンピュータにインストールします。
- PCS 7 プロジェクトの直接接続:IS Ready をそれぞれの OS にインストールします。
- 長期アーカイブとしての WinCC または PCS 7 プロジェクトの PH を介した間接接続:IS Ready を PH にインストールし、WinCC または PCS 7 OS コンピュータへのインストールは不要です。
- 長期アーカイブとしての PCS neo の PH を介した間接接続(直接接続を計画しているが、まだこの段階では不可能):IS Ready を PH のみにインストールし、PCS neo 自体へのインストールは不可能です。
- PCS 7 Batch の PH を介した接続:IS Ready を PH のみにインストールします。
- PCS neo Batch の PH を介した接続:IS Ready を PH のみにインストールします。

要件

- InformationServer のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- IS Ready の利用条件:SQL Server インスタンスに IS Ready Service のユーザーを Windows の管理者として作成する必要があります。

Information Server Ready の手動のインストール

1. インストールメディアの"ISReady"のディレクトリを開きます。
2. インストールするコンポーネントの[Start.exe]ファイルを選択します。
3. 言語を選択します。

3.2 Information Server のインストール

4. インストール手順を確認します。
5. 使用許諾契約に同意します。
6. インストールの内容を選択します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
7. インストールが完了します。
今すぐまたは後でシステムを再起動します。

サービスの設定

1. [スタート|すべてのプログラム|Siemens Automation | SIMATIC | IS Ready]を開きます。
2. [IS Ready 設定]を選択します。
[IS Ready コンフィグレータ]が開きます。
3. [次へ]を選択します。
4. ログオン情報を入力します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
5. [終了]を選択します。

注記

設定の確認

コンピュータの[ローカルユーザーおよびグループ]の[SIMATIC レポートサービス]グループに割り付けられていれば、正しく設定されています。

結果

Information Server Ready がインストールされます。

3.2.3.9 PCS 7 の Information Server Batch Reports をインストールする

必要条件

Information Server の最新バージョンが PC にインストールされていること。

手順

1. DVD "PCS 7 V9.1 SP1"から PCS 7 のセットアップを開始します。
2. セットアップ言語を選択します。
3. インストール手順を確認します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. 以下のインストールする内容を選択します。[カスタムインストール]を選択します。

6. [アーカイブおよびレポート機能]カテゴリで、"Information Server Batch Reports"コンポーネントを選択します。
7. 使用許諾契約に同意します。
8. システム設定の変更を確定します。
9. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。

結果

Information Server Batch Reports コンポーネントがインストールされます。

3.2.4 Excel Office アドインのインストール

3.2.4.1 Office アドインのインストール

要件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

セットアップまたは Web アプリケーションで Office アドインをインストールします。
セットアップで Office アドインをインストール (ページ 80)
Web アプリケーションで Office アドインをインストール (ページ 81)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

結果

Office アドインがアンインストールされました。

3.2.4.2 セットアップで Office アドインをインストール

要件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

1. アドインをインストールするためのすべての必要条件を満たしていることを確認します。
Office アドインをインストールするための必要条件 (ページ 65)

注記

Office アドイン用にセットアップを実行する前に、すべての Windows プログラムを閉じます。

2. アドインのインストールのセットアップを実行します。
3. インストール内容として Office アドインを選択します。
4. セットアップ言語を選択します。
5. インストールする内容を選択します。
6. 使用許諾契約に同意します。
7. システム設定の変更を確定します。
8. 完了したら、再起動してセットアップを終了します。
9. Office アドインを Information Server に接続します。
Office アドインと Information Server に保存された証明書との接続 (ページ 83)

注記**HTTP プロキシ**

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確認します。
-

結果

Office アドインがアンインストールされました。

Office アドインを開く (ページ 264)

3.2.4.3 Web アプリケーションで Office アドインをインストール**必要条件**

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

1. アドインをインストールするためのすべての必要条件を満たしていることを確認します。
Office アドインをインストールするための必要条件 (ページ 65)

注記

Office アドイン用にセットアップを実行する前に、すべての Windows プログラムを閉じます。

2. Web アプリケーションから Office アドインをダウンロードします。
Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード (ページ 82)
3. アドインのインストールのセットアップを実行します。
4. Office アドインを Information Server に接続します。
Office アドインと Information Server に保存された証明書との接続 (ページ 83)

結果

Office アドインがアンインストールされました。

Office アドインを開く (ページ 264)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確定します。
-

3.2.4.4 Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Office アドインのインストール要件を満たしていること。

手順

1. Web アプリケーションで"Download"アプリを開きます。
2. "ダウンロード"を選択します。

結果

Office アドインがダウンロードされていること。

3.2.4.5 保存された証明書ありでの Office アドインの Information Server への接続

要件

- コンピュータに、対応する Microsoft Office バージョンがインストールされている。
- Information Server がインストールされます
- Office アドインがダウンロードされていること。
- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators

手順

1. 証書を[信頼できるルート証書発行機関]フォルダに保存します。
2. Microsoft Excel を開きます。
3. [Information Server]タブに移動します。
4. [設定]エリアで[サーバー]を選択します。
[サーバー設定]ダイアログが開きます。
5. Information Server の URL を入力します。
6. Information Server のポートに対応するポートを選択します。
7. ダイアログを確定します。
認証ダイアログへのログオンダイアログが開きます。
8. ログオンデータを入力し、[OK]でダイアログを確定します。

注記

レポートを作成し、編集するのに使用するそれぞれの Office アドインでこの手順を繰り返します。

サーバーを使用するため、最近の 5 つの接続が保存されます。[サーバー設定]ダイアログで、サーバー設定を確認するか、別のサーバーを選択します。

結果

アドインが Information Server に接続されます。

Excel Office アドインで、フッターに接続状態が表示されます。

注記

Information Server への接続なし

Information Server への接続がない場合、適切なライセンスがあるか、またはネットワークの問題がないか確認します。必要に応じて、接続手順を繰り返します。

Information Server への既存の接続がない場合、クイックアクセスツールバーのコマンドは有効になりません。

3.2.5 Information Server のアップグレードインストール

3.2.5.1 PCS 7 のアップグレードインストールの概要

アップグレードインストールを使って、Information Server の前のバージョンを現行バージョンにアップグレードすることができます。

注記

PCS 7 と Process Historian のソフトウェア更新の順序

PCS 7 プラントを更新する前に、まず Process Historian サーバーを新しい PCS 7 バージョンの対応する Process Historian バージョンに更新する必要があります。

このコンテキストでは、「How to update the Process Historian and Information Server」セクションの「SIMATIC Process Control System PCS 7 Software update」の説明も確認してください。

SIMATIC Process Control System PCS 7 ソフトウェア更新 (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/109767557/simatic-process-control-system-pcs-7-software-update-with-utilization-of-new-functions-v9-0-sp2?dti=0&lc=en-WW>)

アップグレードインストールの手順

インストールされたバージョンに応じて、次の表に示すように、中間バージョンからアップグレードインストールを実行する必要があります。

元バージョン	中間バージョン	最終バージョン
2014 SP3	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 1	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 2	2014 SP3 Update 6	2020 SP1

元バージョン	中間バージョン	最終バージョン
2014 SP3 Update 3	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 4	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 5	2014 SP3 Update 6	2020 SP1
2014 SP3 Update 6	-	2020 SP1
2020	-	2020 SP1

注記

アップグレードインストール後に、"Information Server Ready"コンポーネント(IS-Ready)の設定を確認してください。

アップグレードのインストール

Information Server をアップグレードするためには、Information Server のインストールの注記に従ってください。

Information Server のアップグレード (ページ 41)

以下のコンポーネントがインストールされている、すべてのコンピュータにアップグレードをインストールします。

- Information Server
- Information Server の IS-Ready コンポーネント
- Information Server Office アドイン
- Information Server Batch

更新のアンインストール

アップグレードはアンインストールできません。

3.2.5.2 PCS neo のアップグレードインストールの概要

アップグレードインストールを使って、Information Server の前のバージョンを現行バージョンにアップグレードすることができます。

アップグレードインストールの手順

インストールされたバージョンに応じて、次の表に示すように、中間バージョンからアップグレードインストールを実行する必要があります。

元バージョン	中間バージョン	最終バージョン
2019	2019 SP1 Update 1	2020 Update 1
2019 SP1	2019 SP1 Update 1	2020 Update 1

注記

アップグレードインストール後に、"Information Server Ready"コンポーネント(IS-Ready)の設定を確認してください。

アップグレードのインストール

Information Server をアップグレードするためには、Information Server のインストールの注記に従ってください。

Information Server のアップグレード (ページ 86)

以下のコンポーネントがインストールされている、すべてのコンピュータにアップグレードをインストールします。

- Information Server
- Information Server の IS-Ready コンポーネント
- Information Server Office アドイン
- Information Server Batch

更新のアンインストール

アップグレードはアンインストールできません。

3.2.5.3 Information Server のアップグレード

アップグレードインストールを使用して、以前のバージョンの Information Server を現行のバージョンへアップグレードすることができます。

要件

- 移行用のバックアップファイルは、IS バックアップツールを使用して作成されました(オペレーティングシステムまたはハードウェアを新しいものに変更する場合にのみ必要)。移行用のバックアップファイルを作成 (ページ 87)
- データソースがアップグレードされました。
- PH がアップグレードされた後、IS Ready が再度インストールされました。
- オペレーティングシステムはソフトウェア要件を満たしています。
オペレーティングシステム (ページ 58)

手順

インストール手順に従ってください。

Information Server のインストール (ページ 66)

注記

Information Server データベースのインストール

手順 4 で、移行用のバックアップファイルに指定したファイルパスを保存します。

結果

Information Server は更新化されています。

3.2.5.4 移行用のバックアップファイルを作成

IS バックアップツール(Siemens.InformationServer.ISBackup.exe)は、Information Server の現在のバージョンへの移行に必要なすべてのファイルをバックアップします。

このツールは、バージョン 2014 SP3 Update 6 および 2020 Update 1 以降のすべてのバージョンでインストールされ、[ツール]フォルダのインストールディレクトリにあります。

注記

ツールを別のコンピューターにコピー

別のコンピュータで IS バックアップツールが必要な場合は、[IS バックアップ]フォルダ全体をコピーする必要があります。

要件

以前のバージョンの Information Server がインストールされています(例: 2014 SP3 Update 6 または 2019)。

手順

1. 管理者として、コンピュータのコマンドライン/プロンプト(コマンドシェル、DOS など)を開きます。
2. IS バックアップツールを実行:
`/backup <"path">`

注記

例:

`Siemens.InformationServer.ISBackup.exe /backup "C:\Test"`

`Siemens.InformationServer.ISBackup.exe /backup "C:\Test Backup"`

ファイルストレージ

可能であれば、ファイルストレージ用のフォルダをネットワークドライブに配置する必要があります。

結果

コンピュータのコマンドライン/プロンプトには、エクスポートされたフォルダの概要と、バックアップが成功したかどうかの確認が表示されます。

次の構造が格納先のディレクトリに表示されます。

IS 移行

- Webframe.mdf (データベースファイル)
- Webframe_log.ldf (ログファイル)
- RDLs (エクスポートされたレポートテンプレートのルートディレクトリ)
 - Metadata.xml
 - テンプレート (ディレクトリ)
 - パブリック(ディレクトリ)
 - タグ(ディレクトリ)
 - メッセージ(ディレクトリ)
 -(レポートテンプレートを含むユーザーディレクトリ)

3.2.5.5 Information Server Ready のアップグレード

Information Server のアップグレードインストールの実行後、IS Ready サービスがインストールされているシステムのすべてのコンピュータがアップグレードされます。

更新またはアップグレードをインストールした後は、必ず IS Ready の設定を確認してください。

必要条件

- InformationServer のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件に適合している。
- セットアップを実行する前にすべての Windows プログラムを閉じている。
- 指定したユーザー情報が別のシステム上で一致する。パスワードの変更がすべてのシステムで追跡されている。
- IS Ready の利用条件:SQL Server インスタンスに IS Ready Service のユーザーを Windows の管理者として作成する必要があります。

Information Server Ready のアップグレード

1. インストールメディアの"ISReady"のディレクトリを開きます。
2. インストールするコンポーネントの"Start.exe"ファイルを選択します。
3. 言語を選択します。
4. インストール手順を確認します。
5. 使用許諾契約に同意します。
6. インストールの内容を選択します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
7. インストールが完了します。
今すぐまたは後でシステムを再起動します。

サービスの設定

1. [スタート|すべてのプログラム| Siemens Automation | SIMATIC | IS Ready]を開きます。
2. [IS Ready 設定]を選択します。
[IS Ready コンフィグレータ]が開きます。
3. [次へ]を選択します。

3.2 Information Server のインストール

4. ログオン情報を入力します。
インストールプロセスのセットアップの概要が表示されます。
5. [終了]を選択します。

注記

設定の確認

コンピュータの[ローカルユーザーおよびグループ]の[SIMATIC レポートサービス]グループに割り付けられていれば、正しく設定されています。

結果

Information Server Ready がアップグレードされました。

下記も参照

PCS neo のアップグレードインストールの概要 (ページ 85)

3.2.5.6 PCS 7 の Information Server Batch Reports をアップグレードする

はじめに

SIMATIC Batch のレポートを作成するために PCS 7 の Information Server Batch Reports を使用する場合、Batch Reports をインストールする必要があります。

下記のステップに従います。

1. Information Server をインストールまたはアップグレードします。
2. Information Server Batch Reports をインストールまたはアップグレードします。

必要条件

Information Server の最新バージョンが PC にインストールされていること。

手順

1. PCS 7 DVD からセットアップを開始します。
2. インストールウィザードの指示に従います。
ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
3. インストールの[カスタムインストール]タイプを選択します。

4. [アーカイブおよびレポート機能]カテゴリで、"Information Server Batch Reports"コンポーネントを選択します。
5. インストールを完了するために、システムを再起動します。

Information Server のアップグレードの手順

注記

インストールアップグレード

インストールされたバージョンに応じて、PCS 7 のアップグレードインストールの概要 (ページ 39) 章の表に示すように、Information Server Batch Reports は中間バージョンからアップグレードする必要があります。

1. PCS 7 DVD を挿入します。
2. "Additional_Products"フォルダを開き、インストール済みの Information Server Batch Reports を再インストールします。
3. インストールを完了するために、システムを再起動します。
4. Information Server の設定:
 - インターネットブラウザを管理者で起動します。
ステップ 5 以降、インストール中にブラウザ設定で定義した URL を入力します。
Information Server のためのブラウザ設定 (ページ 26)
 - レポートサーバーインスタンスを選択し、コンフィグレーションを開始します。
5. コンフィグレーションが完了したら、PCS 7 DVD からセットアップを開始します。
6. インストールウィザードの指示に従います。
ライセンス契約とオープンソースライセンス契約を読んでください。
7. インストールの[カスタムインストール]タイプを選択します。
8. [アーカイブおよびレポート機能]カテゴリで、"Information Server Batch Reports"コンポーネントを選択します。
9. インストールを完了するために、システムを再起動します。

結果

Information Server Batch Reports のコンポーネントがインストールまたは更新されます。

3.3 コンセプト

3.2.6 Information Server のアンインストール

3.2.6.1 Information Server のアンインストール

要件

- Information Server がインストールされます

手順

1. [コントロールパネル|プログラムと機能]に移動します。
2. 項目 SIMATIC Information Server を選択します。
3. [アンインストール]メニューコマンドを選択します。
4. アンインストールを確定します。

結果

Information Server がアンインストールされます

注記

アンインストール中、生成されたレポートやデータベースは削除されません。

3.3 コンセプト

3.3.1 Information Server の操作

Information Server を操作するには、次の情報が必要です。

Information Server についての有益な情報 (ページ 93)

Information Server の機能のすべてを使用するには、いくつかの変更が必要です。すべての必要なコンポーネントが完全に正しくインストールされ、その他の設定がすべて正しく指定されているかどうかを確認してください。

Information Server のインストール (ページ 66)

下記も参照

Web アプリケーションで Office アドインをインストール (ページ 81)

3.3.2 Information Server についての有益な情報

SIMATIC Information Server は、Microsoft Reporting Services を使用し、プロセス制御システムの履歴データにアクセスするレポートシステムです。

SIMATIC Information Server により、プロセス制御システムのメッセージ、タグおよびレシビデータをグループ化し、評価して、表形式またはグラフィック形式で表示できます。

Information Server のコンポーネント

以下のアプリケーションを操作できます。

- Information Server Web アプリケーション
Web アプリケーションの概要 (ページ 94)
- Information Server Office アドイン
Office アドインの概要 (ページ 108)

IS Ready のインストールは、PCS 7、OS、WinCC および PH のインストールし、データソースに接続するために必要です。

PCS neo または PCS neo Batch をインストールする場合には、IS Ready は PH のみにインストールします。

Web アプリケーションと Office アドインユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

- Information Server Web アプリケーションのユーザーインターフェースの操作 (ページ 112)
- Information Server の Office アドインのユーザーインターフェースの操作 (ページ 113)

データソース

データソースが、Web アプリケーションか Office アドインを使用して処理できる履歴データを提供します。

接続していて、権限のあるデータソースのデータにアクセスできます。データにアクセスするために、Process Historian サーバーへの既存の接続が必要です。

以下のデータソースを操作できます:

3.3 コンセプト

データソース (ページ 59)

ブラウザ

HTML 5 対応のブラウザで Information Server の Web アプリケーションにアクセスします。

ブラウザ (ページ 59)

3.3.3 Web アプリケーション

3.3.3.1 Web アプリケーションの概要

Web アプリケーションを操作するには以下の情報が必要です。

Web アプリケーションについての有益な情報 (ページ 95)

ダッシュボード

[ダッシュボード]アプリで、設定可能なコントロールを使用して接続済みプロジェクトからデータを視覚化します。選択したコントロールに応じて、グラフィックまたは表など、このデータの表示は各ダッシュボードで異なります。

AUTOHOTSPOT

レポート

[レポート]アプリでは、提供されたレポートテンプレートを使用してレポートまたはサブスクリプションを作成します。パラメータを割り付けてレポートの内容を定義します。レポートは、選択したレポートテンプレートに従って、たとえばチャートまたは表として視覚化されます。

AUTOHOTSPOT

ダウンロード

[ダウンロード]アプリを使用して、Excel Office アドインをダウンロードし、インストールできます。

AUTOHOTSPOT

管理

[管理]エリアでは、権限を割り付けたり、グループを作成したりして、ユーザーを設定できます。レポートのデータソースとして機能するプロジェクトを添付し、レポートを送信するための電子メールの設定を定義します。ライセンスエリアでは、既存のライセンスをチェックし、最新かどうかを確認します。

AUTOHOTSPOT

3.3.3.2 Web アプリケーションについての有益な情報

ユーザーインターフェース

Web アプリケーションユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

Web アプリケーション (ページ 114)

ユーザープロファイル

ユーザープロファイルには、現在のユーザーと関連したグループ/権限の概要が含まれています。このために設定のいくつかは、プロファイルで直接設定可能です。

ユーザープロファイル (ページ 122)

通知

レポートの作成は通知タイプによりレポートを作成することによって通知をトリガするか、またはサブスクリプションを使用してレポートを作成することによって通知をトリガします。

通知 (ページ 123)

ヘルプ

[ヘルプ]ボタンはPUD Managerを開きます。これには、Information Serverのすべてのドキュメンテーションが含まれています。

さまざまなフィルタ機能をヘルプで使用できます。

ヘルプ (ページ 124)

3.3 コンセプト

3.3.3.3 ダッシュボード

ダッシュボードの操作

ダッシュボードを操作するには、以下の情報が必要です:

AUTOHOTSPOT

ダッシュボードにコントロールを配置するために、アプリの作業領域に個別のダッシュボードを作成します。これらのダッシュボードは、表示、編集、複製、作成、またはエクスポートできます。

- ダッシュボードの作成 (ページ 137)
- ダッシュボードの表示 (ページ 138)
- ダッシュボードの編集 (ページ 139)
- ダッシュボードの複製 (ページ 139)
- ダッシュボードの削除 (ページ 140)
- ダッシュボードのエクスポート (ページ 140)

作成したダッシュボードのレイアウトを設定するには、マスタページを作成し、それらに対応するダッシュボードに割り付けます。必要なだけマスタページを作成できます。ダッシュボードのプロパティで、特にダッシュボードのためのマスタページを選択します。

- マスタページの作成 (ページ 218)
- ダッシュボードのプロパティの編集 (ページ 161)

以下のコントロールは、ダッシュボード内でパラメータ割り付けのために利用できます。

- [チャート]コントロールの設定 (ページ 162)
- [シングル]コントロールの設定 (ページ 163)
- [タグ]コントロールの設定 (ページ 165)
- [ゲージ]コントロールの設定 (ページ 166)
- [メッセージ]コントロールの設定 (ページ 167)
- [テキスト]コントロールの設定 (ページ 168)
- [レポート]コントロールの設定 (ページ 169)

"メッセージ"コントロールには、グループをフィルタするために使用するさまざまなオプションがあります。コントロール内の列を表示/非表示にでき、メッセージ、アーカイブ、ヒストリビューの間の切り替えが可能です。

- フィルタグループの作成 (ページ 170)
- フィルタグループの有効化/無効化 (ページ 170)
- フィルタグループの編集 (ページ 171)
- フィルタグループの削除 (ページ 172)
- すべてのフィルタグループの削除 (ページ 172)
- 列の表示/非表示 (ページ 173)
- 列を昇順または降順にソート (ページ 173)
- 表示の変更 (ページ 174)

作成したコントロールの編集、複製、削除、拡大が可能です。

- コントロールの編集 (ページ 175)
- コントロールの複製 (ページ 175)
- コントロールの削除 (ページ 176)
- コントロールの拡大 (ページ 176)

ダッシュボード内で時間別にフィルタするために、ダッシュボードプロパティで時間フィルタを作成でき、それらを使用してダッシュボードをフィルタします。

- ダッシュボードの時間フィルタの作成 (ページ 160)
- 時間でダッシュボードをフィルタ (ページ 161)

フォルダの作成、名前の変更、削除またはフォルダ階層のインポート/エクスポートによって、アプリのダッシュボードのディレクトリ構造を変更します。名前または更新日時によって概要をソートするか、名前でダッシュボードの概要をブラウズします。

- フォルダの作成 (ページ 134)
- フォルダの編集 (ページ 134)
- フォルダの削除 (ページ 135)

3.3 コンセプト

- フォルダ階層のインポート (ページ 135)
- フォルダ階層のエクスポート (ページ 136)
- ダッシュボードの概要のソート (ページ 141)
- ダッシュボードの概要の参照 (ページ 141)

ダッシュボードについての有益な情報

このエリアでは、ダッシュボードとコントロールを使用して、さまざまな方法でデータを処理し、視覚化できます。

ユーザーインターフェース

[ダッシュボード]アプリのユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

ダッシュボード (ページ 131)

マスタページはダッシュボードプロパティで選択します。

マスタページ (ページ 216)

ドラッグアンドドロップでそれぞれのダッシュボードの中に、いくつものコントロールを作成し、設定できます。

コントロール (ページ 142)

コントロールの概要

以下のコントロールが、ダッシュボード内でデータの処理、および視覚化に利用できます。

- [チャート]コントロール (ページ 144)
- [シングル]コントロール (ページ 148)
- [タグ]コントロール (ページ 149)
- [ゲージ]コントロール (ページ 151)
- [メッセージ]コントロール (ページ 153)
- [テキスト]コントロール (ページ 158)
- [レポート]コントロール (ページ 159)

"チャート"コントロール用のデータモード

"チャート"コントロールのパラメータ割り付けには、データモードの選択が必要です。選択肢は、開始日、終了日、時間レンジ、またはライブデータです。[リスト]設定と組み合わせた開始日および終了日、または時間間隔の選択には、時間フィルタを事前に作成する必要があります。

データモード (ページ 146)

"メッセージ"コントロールのフィルタ条件

"メッセージ"コントロールのパラメータ割り付けには、1 つ以上のフィルタの選択が必要です。接続されたデータソースによってフィルタの選択は異なります。

フィルタ条件 (ページ 156)

3.3.3.4 レポート

レポート機能の操作

レポート機能进行操作するには、以下の情報が必要です。

AUTOHOTPOT

メッセージ、タグ、詳細レポート、アラーム統計、バッチログおよびバッチ用の事前に定義されたレポートテンプレートを使用して、接続されたデータソースのためのレポートを作成、編集できます。

- レポートの作成 (ページ 194)
- レポートの表示 (ページ 196)
- レポートのエクスポート (ページ 196)
- レポートの編集 (ページ 197)
- レポートの削除 (ページ 198)
- レポートの再度実行 (ページ 198)

レポートまたはサブスクリプションの作成時にタグを使用してタグ階層やディレクトリを容易にブラウズするために、表示をフィルタまたはソートしたり、特定のタグ名を検索できます。

3.3 コンセプト

タグの参照 (ページ 185)

指定されたイベント用のレポートを生成するには、サブスクリプションを作成します。作成したサブスクリプションを編集、削除できます。

- サブスクリプションの作成 (ページ 202)
- サブスクリプションの編集 (ページ 204)
- サブスクリプションの削除 (ページ 204)

使用可能な記憶域が定義された制限に達した場合、記憶域を設定するレポートをクリーンアップするトリガを設定します。

記憶域の設定 (ページ 230)

ツールバーでパラメータの事前設定の作成、再使用、編集ができます。

- パラメータの事前設定の作成 (ページ 186)
- パラメータの事前設定の再利用 (ページ 187)
- パラメータの事前設定の編集 (ページ 188)

作成したレポートおよびサブスクリプション用のテーブルをカスタマイズするいくつかの方法があります。

- 列の表示/非表示 (ページ 199)
- 列を昇順または降順にソート (ページ 199)
- フィルタの設定 (ページ 200)
- フィルタのリセット (ページ 201)

レポート機能についての有益な情報

このエリアでは、レポートとサブスクリプションを使用して、さまざまな方法でデータを処理し、視覚化できます。

ユーザーインターフェース

レポート機能のユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

レポート (ページ 177)

レポート

レポート機能は、レポートまたはサブスクリプションを設定して生成するレポートテンプレートが含まれています。レポートテンプレートは、レポートを生成する機能の概要を提供します。

レポート生成 (ページ 189)

メッセージ、タグ、詳細なレポートおよびアラーム統計用の異なるテンプレートがあります。レポートテンプレートの表示は、接続されたデータソースにより異なります。

レポートテンプレート (ページ 190)

レポートの生成中に、デフォルトで定義された時間間隔を超えるとプロセスは中止されます。この時間の範囲は延長することができます。

レポート作成のための時間制限 (ページ 193)

サブスクリプション

サブスクリプションは定義したイベントに対して定期的な間隔でレポートを生成します。

サブスクリプション (ページ 201)

サブスクリプションは、トリガとして参照される定義されたイベントによって開始されます。接続されたデータソースに応じて、メッセージ、タグ、および時間トリガを定義できます。

サブスクリプションのトリガ (ページ 207)

サブスクリプションの生成時に、プライバシー、記憶装置、および送信に関する追加のプロパティを定義します。

サブスクリプションの設定 (ページ 211)

3.3 コンセプト

パブリックおよびプライベートサブスクリプションには、サブスクリプションの読み取り、書き込み、および削除のための異なる権限があります。

サブスクリプションの認証マトリックス (ページ 210)

サブスクリプションからレポートを提供するための複数の出力方法があります。データベースの記憶域、ローカル記憶域、または電子メールによる送信を選択します。

出力方法 (ページ 211)

データベースやディスクスペースを最適に使用するには、レポートクリーンアップを設定します。アクションのために記憶域を開放する必要がある場合、追加の手順を自動的に定義できます。

レポートのクリーンアップ (ページ 224)

パラメータの事前設定

パラメータの事前設定を使用すると、新しいレポートやサブスクリプションの作成時に、パラメータがレポートテンプレートにコピーされます。

パラメータの事前設定 (ページ 186)

時間情報

すべてのレポートに対して絶対時間または相対時間仕様を設定します。異なるタイムゾーンでの時間仕様、および特殊機能、相対時間仕様の使用に注意してください。

時間情報 (ページ 181)

タグの参照

タグ付きのレポートやサブスクリプションを作成している場合、タグはダイアログですべてのディレクトリおよびサブディレクトとともに階層で表示されます。表示は変更可能です。

タグの参照 (ページ 184)

3.3.3.5 ダウンロード

ダウンロードの操作

ダウンロードを操作するには、以下の情報が必要です。

AUTOHOTSPOT

Office アドインを Information Server で使用するためには、[ダウンロード]アプリを使用してアドインをインストールできます。

Web アプリケーションで Office アドインをインストール (ページ 213)

ダウンロードについての有益な情報

Information Server Office アドインは、Web アプリケーションでのダウンロードまたはセットアップでインストールできます。

Excel Office アドインの使用

Excel Office アドインをインストールすると、Excel でさまざまな Information Server 機能を提供します。

ダウンロード (ページ 212)

機能についての情報は、Office アドインの概要を参照してください。

Office アドインの概要 (ページ 108)

3.3.3.6 管理

管理の操作

管理を操作するには、以下の情報が必要です。

管理についての有益な情報 (ページ 106)

3.3 コンセプト

作成したダッシュボードのレイアウトを設定するには、マスタページを作成し、ダッシュボードプロパティを使用してそれらに対応するダッシュボードに割り付けます。必要なだけマスタページを作成できます。

- マスタページの作成 (ページ 218)
- マスタページの削除 (ページ 218)
- マスタページの保存 (ページ 219)
- マスタページの複製 (ページ 219)
- マスタページのエクスポート (ページ 220)
- マスタページのインポート (ページ 220)

フォルダの作成、名前の変更、削除、表示/非表示で、レポート機能のレポートテンプレートのディレクトリ構造をカスタマイズします。

- フォルダの作成 (ページ 225)
- フォルダ名の変更 (ページ 225)
- フォルダの削除 (ページ 226)
- フォルダの表示/非表示 (ページ 226)

レポートテンプレートのインポート、エクスポート、削除、表示/非表示でレポートテンプレートの選択および表示を設定します。

- レポートテンプレートのインポート。 (ページ 227)
- レポートテンプレートのエクスポート (ページ 228)
- レポートテンプレートの移動 (ページ 228)
- レポートテンプレートの削除 (ページ 229)
- レポートテンプレートの表示/非表示 (ページ 229)

生成するレポートのためにディスクスペースを解放するためには、制限を定義します。これらの制限をベースとして、記憶域を占有するファイルに対して以降の操作を設定します。

記憶域の設定 (ページ 230)

電子メールでレポートやサブスクリプションを送信するには、電子メール設定を有効にします。電子メールは、Gmail や Office 365 のような異なる電子メールプロバイダから選択できます。作成した設定を試験したり、工場出荷時の設定を復元したりできます。

- 電子メールの設定 (ページ 231)
- 電子メール設定の試験 (ページ 240)
- 電子メール設定の工場出荷時設定へのリセット (ページ 241)

アプリケーションインストーラは、Web アプリケーションのインストールされたアプリの概要を表示します。必要に応じて個々のアプリをチェックし、更新します。アプリが古い場合、Web アプリケーションの開始時にすぐにアプリケーションのインストーラページにリダイレクトされます。

アプリケーションインストーラの使用 (ページ 242)

Information Server を使用するために利用できる既存のライセンス(そしてその有効性)をチェックします。

ライセンスの確認 (ページ 244)

Information Server の操作を開始するには、レポートのデータソースとしての機能を果たす新しいプロジェクトをプロジェクト設定で作成します。

- 新しいフォルダを作成します (ページ 248)
- プロジェクトの追加 (ページ 248)
- プロジェクト名の変更 (ページ 249)
- プロジェクトの削除 (ページ 250)

これに加えて、プロジェクト設定で他の設定をすることができます。同期または診断実行の開始、プロジェクトに対して個々のユーザーへの権限の割り当て、または PH や WinCC のようなプロジェクトを他のコンピュータに移動する場合のホストの変更などです。

- シミュレーションの開始 (ページ 247)
- 診断の起動 (ページ 251)
- 認証の割り付け (ページ 251)
- ホストの変更 (ページ 252)

3.3 コンセプト

新しいドメインユーザーを作成し、それを必要な Windows グループに追加して、Information Server をドメインに統合します。新しいプロファイルは、最初のログインでデータベースの中に作成されます。

Information Server のドメインへの後続の統合 (ページ 216)

ユーザー設定では、ユーザーを作成、編集、有効化/無効化できるとともに、ユーザーグループの作成、編集、削除もできます。各ユーザーに対して電子メールアドレス、言語設定、および関連する Windows ユーザーグループが保存されます。

- ユーザーの作成 (ページ 256)
- ユーザーの編集 (ページ 257)
- ユーザーの有効化/無効化 (ページ 258)
- ユーザーグループの作成 (ページ 258)
- ユーザーグループの編集 (ページ 259)
- ユーザーグループの削除 (ページ 259)

管理についての有益な情報

このエリアでは、管理ユーザーグループに対してのみ予約されている管理機能で行うことができます。

ユーザーインターフェース

管理ユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

管理 (ページ 214)

アプリの設定

ダッシュボードの表示形式はマスタページを選択し、設定することによって定義されます。マスタページはダッシュボードプロパティで選択します。

マスタページ (ページ 216)

レポート機能の管理エリアでは、レポート機能アプリでどのレポートテンプレートをどの構造で表示するかを指定します。これにもかかわらず、レポートテンプレートの表示は接続されたデータソースにより異なります。

レポート機能(管理) (ページ 222)

データベースやディスクスペースを最適に使用するには、レポートクリーンアップを設定します。アクションのために記憶域を開放する必要がある場合、追加の手順を自動的に定義できます。

レポートのクリーンアップ (ページ 224)

電子メールの設定

この設定は、電子メールによるレポートおよびサブスクリプションの送信を定義します。電子メールの設定は、以下のプロバイダーに対して設定可能です。

- 汎用
- Gmail
- Office 365

電子メールの設定 (ページ 231)

アプリケーションインストーラ

[アプリケーションインストーラ]セクションで、Web アプリケーションでインストールされたアプリの概要とそのインストールステータスを確認することができます。

アプリケーションインストーラ (ページ 241)

ライセンス

Information Server で利用できるライセンスは、接続されたデータソースにより異なります。クライアントアクセスのためのライセンス数は、さまざまな要因によります。他に 14 日間のトライアルライセンスもあります。

ライセンス (ページ 242)

プロジェクトの設定

プロジェクト設定は、すべての管理に関するアクティビティとプロジェクトに関するアクティビティを含みます。

3.3 コンセプト

プロジェクトの設定 (ページ 245)

ユーザー設定

Information Server はローカル Windows ユーザーグループを使用して、役割と権限を割り付けます。適切なグループを作成したユーザーに割り付けます。

ユーザー設定 (ページ 253)

PCS neo と組み合わせて Information Server を使用するためには、UMC ユーザーグループを一度 Windows ユーザーグループにマップする必要があります。

PCS neo の UMC と Windows グループのマッピング (ページ 254)

3.3.4 Office アドイン

3.3.4.1 Office アドインの概要

Office アドインを操作するには、以下の情報が必要です。

Office アドインについての有益な情報 (ページ 109)

Office アドイン

Information Server は、Microsoft Excel アプリケーション向けのアドインを提供しています。このアドインを使用して、Excel でレポートを挿入したり、作成したりできます。

Excel Office アドインの操作 (ページ 109)

下記も参照

Excel でのレポートの作成 (ページ 266)

Excel でのサブスクリプションの作成 (ページ 271)

サブスクリプションの作成 (ページ 202)

レポートの作成 (ページ 194)

3.3.4.2 Office アドインについての有益な情報

ユーザーインターフェース

Information Server アドインがツールバーに統合されます。Office アドインのユーザーインターフェースには、さまざまなエリアがあります。各エリアには異なった機能があります。

Excel のツールバー (ページ 264)

レポート

レポートテンプレートを使用して、Office アドインのレポートを作成できます。

Office アドインのレポートタイプ (ページ 263)

時間情報

Office アドインでは、時間の絶対値と相対値を入力し、リストから事前定義された時間を選択することができます。

時間情報 (ページ 181)

レポートテンプレートのサブスクリプション

サブスクリプションは、定義されたパラメータに従って定期的に繰り返して作成されるレポートです。

Excel でのレポートテンプレートのサブスクリプション (ページ 263)

時間、タグ、およびメッセージトリガを使用して、サブスクリプションを自動的に実行できます。

サブスクリプションのトリガ (ページ 207)

3.3.4.3 Excel

Excel Office アドインの操作

Excel を操作するには、以下の情報が必要です。

Excel Office アドインについての有益な情報 (ページ 112)

3.3 コンセプト

Office アドインで直接 Information Server への接続を設定します。

サーバー設定の構成 (ページ 285)

レポートを Excel に含めるには、直接 Excel でレポートを作成するか、ローカルの保存場所や Information Server Web アプリケーションからすでに作成されたレポートを開きます。

- Excel でのレポートの作成 (ページ 266)
- ローカルに保存した Excel レポートを開く (ページ 267)
- Information Server から Excel レポートを開きます。 (ページ 268)

指定されたイベント用のレポートを生成するには、サブスクリプションを作成します。

Excel でのサブスクリプションの作成 (ページ 271)

Excel のレポートテンプレートは、ローカルまたは Information Server Web アプリケーションに保存できます。

- Excel レポートテンプレートのローカルへの保存 (ページ 269)
- Excel レポートテンプレートを Information Server に保存します。 (ページ 270)

Excel ワークシートでタグ表示のためのタグの作成、設定、削除ができます。

- タグの作成 (ページ 272)
- タグの設定 (ページ 273)
- タグの削除 (ページ 278)

Excel ワークシートでメッセージ表示のためのメッセージの作成、設定、削除ができます。

- メッセージの作成 (ページ 278)
- メッセージの設定 (ページ 279)
- メッセージの削除 (ページ 283)

設定したタグまたはメッセージに、接続されたデータソースがリトリブされ表示されます。

Excel ワークブックの更新 (ページ 283)

選択したプロセス値は Excel ワークシートにグラフで表示できます。

プロセス値の画像表示 (ページ 284)

メッセージを表示する場合のフィルタは、リンクやグルーピングに基づいて設定できます。

メッセージフィルタの設定 (ページ 286)

タグとメッセージの設定の場合、Excel Office アドインの操作を容易にするためにダイアログにさまざまな機能があります。

- 表のフィルタ (ページ 288)
- タグの置換 (ページ 289)
- パラメータの適用 (ページ 290)
- メッセージ/タグまたはそれらの設定のコピー (ページ 290)
- コピーしたメッセージ/タグの挿入 (ページ 291)
- コピーしたメッセージ/タグの設定の転送 (ページ 292)
- メッセージ/タグの削除 (ページ 292)
- 複数のメッセージ/タグの選択 (ページ 293)

パラメータの事前設定を使用すると、新しいレポートやサブスクリプションの作成時に、パラメータがレポートテンプレートにコピーされます。

- Excel でのパラメータの事前設定 (ページ 295)
- Excel でのパラメータの事前設定の再利用 (ページ 295)

3.4 ファンクション

Excel Office アドインについての有益な情報

接続ステータス

レポート用に情報をリトリブするために、Information Server への接続が確立されている必要があります。

接続ステータス (ページ 296)

メッセージフィルタ

メッセージフィルタには、メッセージの表示をフィルタするためのさまざまなオプションがあります。フィルタは、グルーピングおよび/またはリンクによって実行されます。

メッセージフィルタ (ページ 285)

操作を容易にする

簡略化された操作は、タグやメッセージの迅速な処理のために使用されています。ボタンを使用して同時に 1 つ以上の列を編集できます。

操作を容易にする (ページ 287)

パラメータの事前設定

パラメータの事前設定は、レポートテンプレートのために事前に定義されたパラメータを含みます。Excel で、Web アプリケーションで作成されたパラメータの事前設定を変更できます。

Excel のパラメータのデフォルト (ページ 294)

3.4 ファンクション

3.4.1 基本

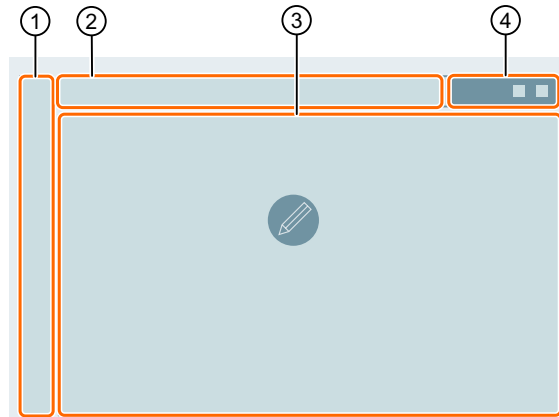
3.4.1.1 Information Server Web アプリケーションのユーザーインターフェースの操作

以下の参照先:

- ユーザーインターフェースのレイアウト

ユーザーインターフェースのレイアウト

ユーザーインターフェースには、以下のエレメントが含まれます。



- ① ナビゲーションエリア Web アプリケーションの個別のアプリへのアクセスを提供します。
- ② 階層リンク ナビゲーション Web アプリケーションメニューでの現在の位置を表示します。
- ③ ワークエリア メニューの位置に応じて、個々のアプリの概要またはアプリの作業領域が表示されます。
- ④ ヘッダー グローバル基本エレメントで、各領域で表示されます。

3.4.1.2 Information Server の Office アドインのユーザーインターフェースの操作

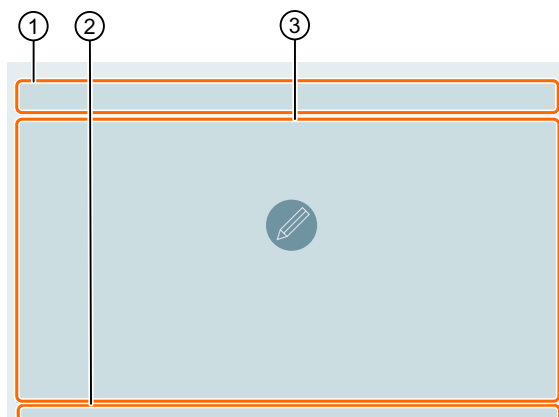
以下の参照先:

- ユーザーインターフェースのレイアウト

3.4 ファンクション

ユーザーインターフェースのレイアウト

ユーザーインターフェースには、以下のエレメントが含まれます。



- ① ツールバー Office アドインの機能へのアクセスを提供します。
 - ② フッター Office アドインの接続状態を表示します。
 - ③ ワークエリ 設定データを表示します。
- ア

3.4.2 Web アプリケーション

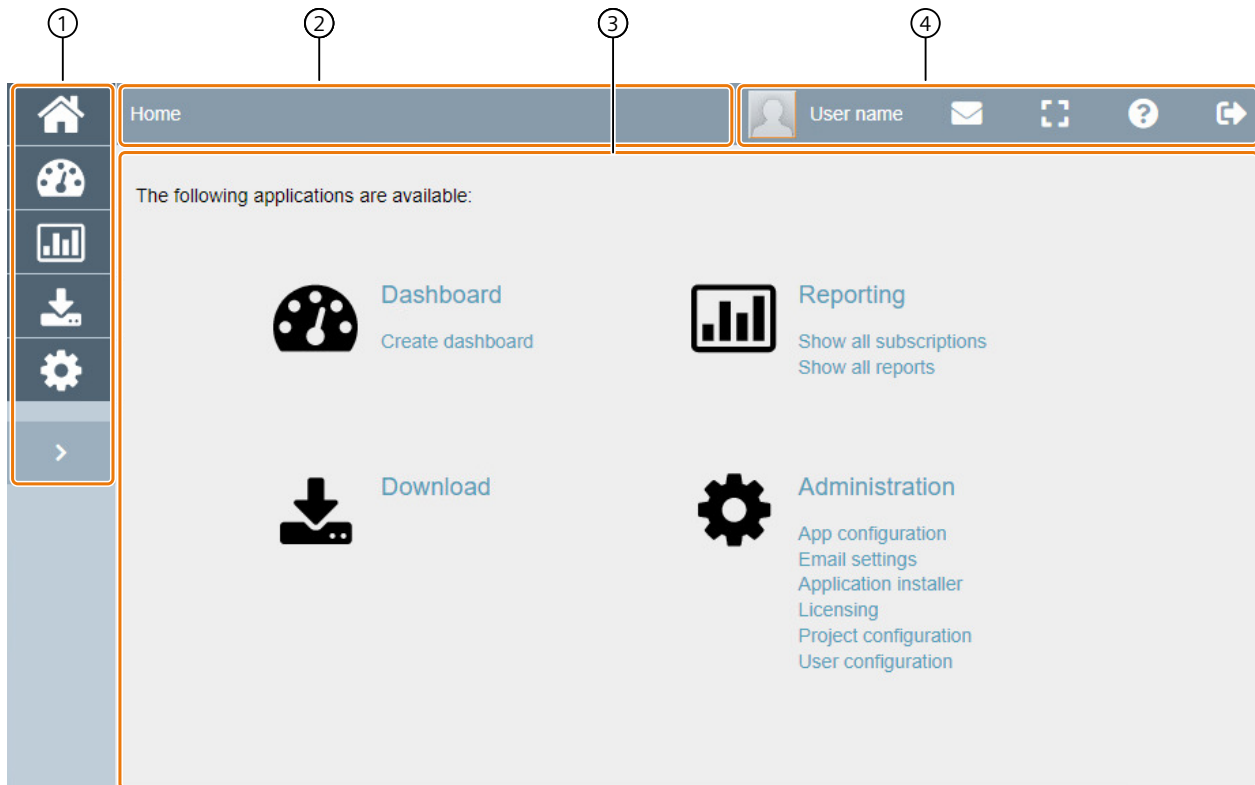
3.4.2.1 Web アプリケーション

定義

HTML 5 対応のブラウザで Information Server の Web アプリケーションにアクセスします。

構造

Web アプリケーションは、以下の領域から構成されます。



- ① ナビゲーションバー (ページ 117)
- ② 階層リンクナビゲーション (ページ 119)
- ③ Web アプリケーションの作業領域 (ページ 119)
- ④ ヘッダー (ページ 121)

3.4 ファンクション

3.4.2.2 順を追った説明

Web アプリケーションを開く

要件

以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。

- SIMATIC Report Publishers
- SIMATIC Report Users
- SIMATIC Report Administrators

手順

1. SIMATIC Web コンフィグレータのインストール時に、定義された URL をブラウザバーを入力します。

注記

ブラウザ選択

Information Server Web アプリケーションには、Google Chrome を使用することをお勧めします。

注記

ブラウザでは、**Information Server Web アプリケーションは表示されません。**

ブラウザで Information Server の Web アプリケーションが表示されない場合は、すべてのソフトウェア要件が満たされていることを確認します。必要な場合は、インストール手順の要件を確認してください。

注記

Web アプリケーションからログオフしてライセンスをリリースする

ログオフせずに Web アプリケーションを閉じた場合、期限切れになるまで 20 分間、ライセンスは無効なままになります。

結果

Web アプリケーションが開きます。

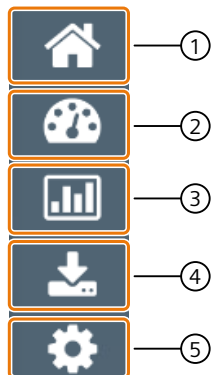
3.4.2.3 ナビゲーション領域

定義

ナビゲーション領域では、**Web** アプリケーションの主要な機能、つまり"アプリ"に迅速にアクセスできます。

構造

ナビゲーション領域は、以下の領域に分割されます。



- ① 開始ページ
• アプリの概要
• アプリの特定の機能への迅速なアクセス
- ② ダッシュボード
(ページ 131)
設定可能なコントロール
- ③ レポート
(ページ 177)
• レポート
• サブスクリプション
- ④ ダウンロード
(ページ 212)
Office アドインのダウンロード
- ⑤ 管理
• アプリの設定
• 電子メールの設定
• アプリケーションインストーラ
• ライセンス
• プロジェクトの設定
• ユーザー設定

3.4.2.4 階層リンクバー

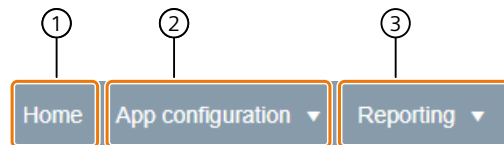
定義

階層リンクバーを使用して次を行うことができます:

- ナビゲーション
- 開始ページに至るまで、対応する上位階層レベルを含む Web アプリケーションメニューで、現在の位置を追跡できます。

構造

階層リンクナビゲーションは以下のような構造です。



- ① 階層レベル 1: Web アプリケーションの始点
- ② 階層レベル 2: いずれかのアプリ
- ③ 階層レベル 3: アプリのサブ領域

3.4.2.5 作業領域 Web アプリケーション

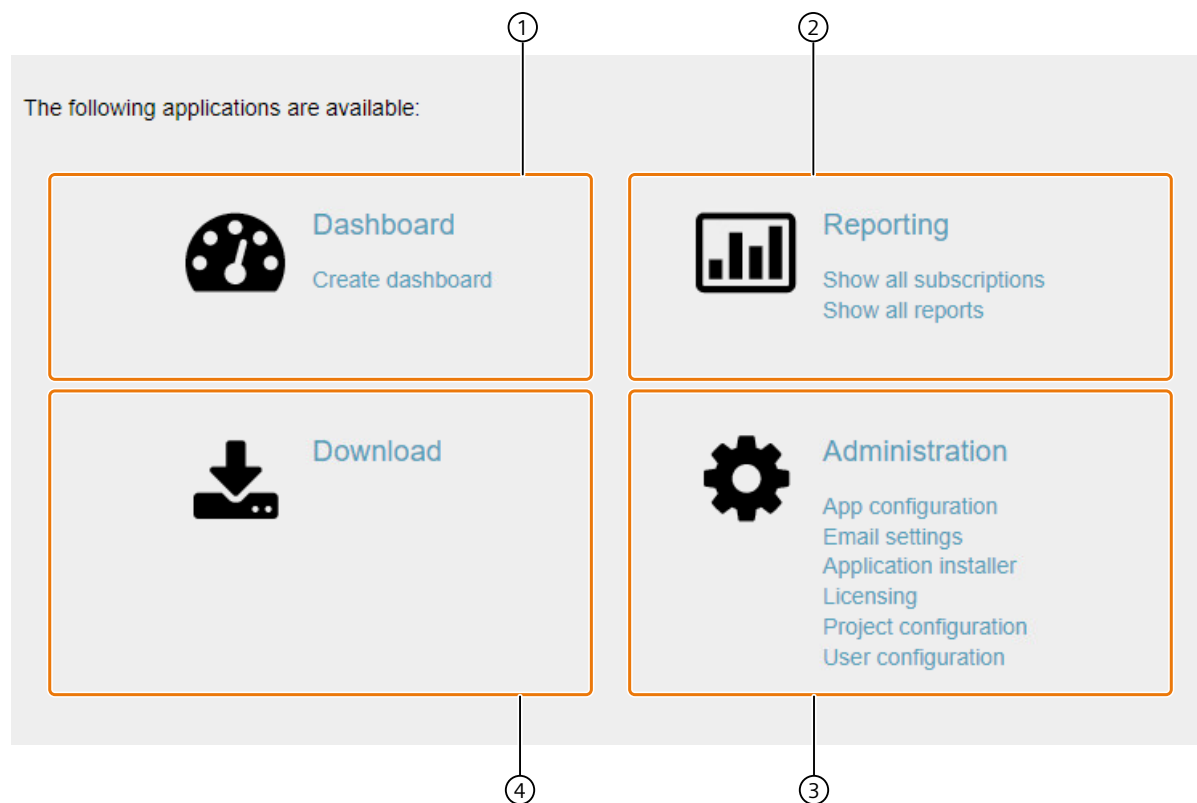
Web アプリケーションの作業領域

定義

作業領域は、Web アプリケーションの主領域です。個々のアプリの概要が開始ページに表示されます。アプリの固有の内容を直接選択できます。作業領域の区分は、アプリ内で異なることがあります。

構造

Web アプリケーションの作業領域は、以下のように分割されています。:



- ① ダッシュボード (ページ 131)
- ② ダウンロード
- ③ レポート (ページ 177)
- ④ 管理

順を追った説明

Web アプリケーションの作業領域を開く

要件

以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。

- SIMATIC Report Publishers
- SIMATIC Report Users
- SIMATIC Report Administrators

手順

1. インストール時に定義された URL をブラウザのアドレスバーに入力することにより、Information Server の Web アプリケーションを開きます。
2. 作業領域でアプリを選択します。

結果

選択したアプリの作業領域が開きます。

3.4.2.6 ヘッダー

ヘッダー

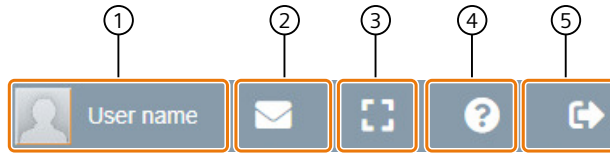
定義

現在ログインしているユーザーのログイン名がヘッダーに表示されます。

ヘッダーでユーザープロファイル、通知、およびヘルプを開くことができます。

構造

ヘッダーの構造は以下のとおりです:



- ① ユーザープロフ ユーザープロファイルを開きます。
ファイル (ページ 122)
- ② 通知 (ページ 123) 登録した通知が表示されます。
- ③ 全画面モード (ページ 131) 全画面モードを有効または無効にします。
- ④ ヘルプ (ページ 126) Information Server のヘルプを開きます。
- ⑤ ログアウト (ページ 130) ユーザーがログアウトします。

ユーザープロファイル

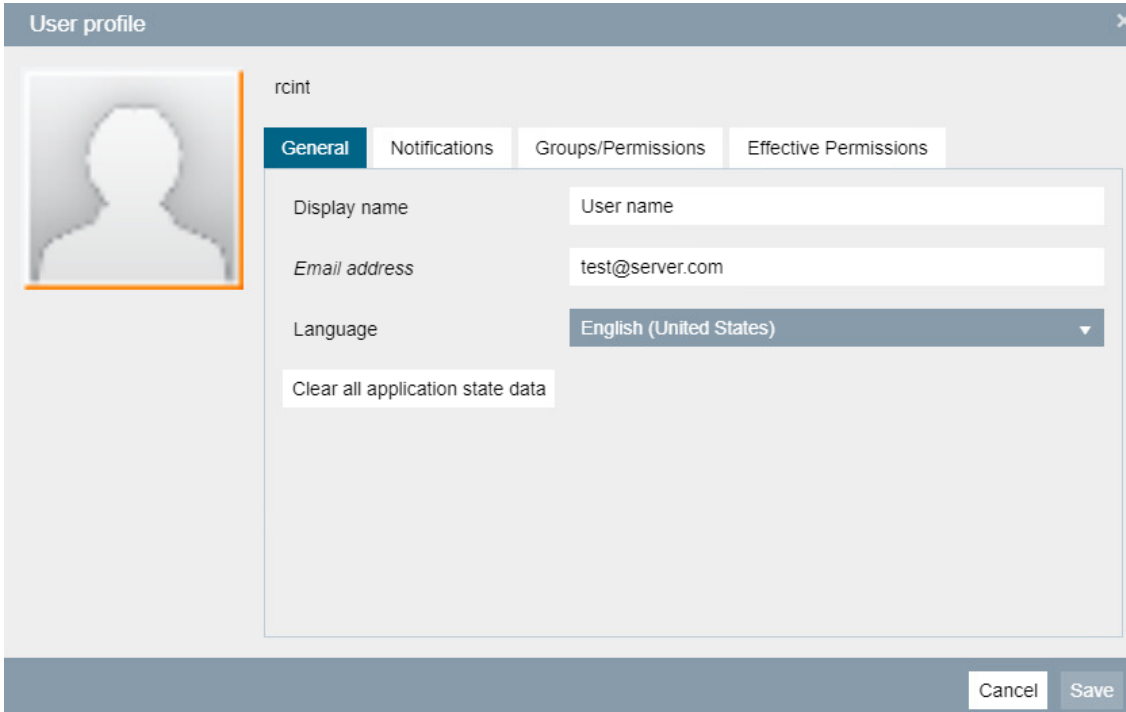
定義

ユーザープロファイルには、以下の情報および指定が含まれます。

- 全般:
 - 表示名の指定
 - プロファイルピクチャの選択
 - 電子メールアドレス
 - 表示言語の選択
 - アプリケーションのステータスデータの削除
- 送受信される通知タイプの選択
- 有効な認証:割り付けられた Windows ユーザーグループの現在の認証の概要

構造

ユーザープロファイルは、以下のような構造です。



- | | | |
|---|----------------------|--|
| ① | プロフィールピクチャ (ページ 125) | 新規プロフィールピクチャをアップロードします。 |
| ② | 概要 (ページ 127) | 言語切り替え等のユーザープロフィールに関する一般情報を表示します |
| ③ | 通知 (ページ 127) | 有効化できる通知のリストを表示します。 |
| ④ | グループ/権限 (ページ 129) | プロフィールに割り付けられているグループの概要を表示します。 |
| ⑤ | 有効な権限 (ページ 129) | プロフィールおよび役割に割り付けられているすべての権限のリストを確認します。 |

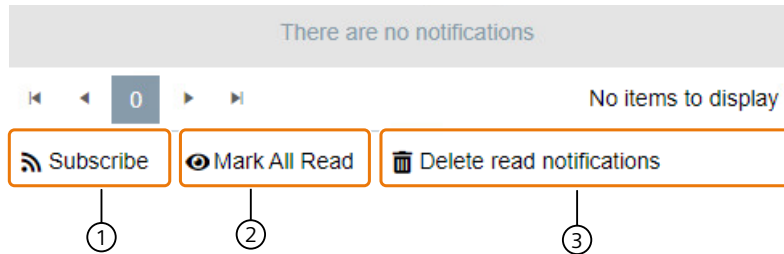
通知

定義

通知領域では、[通知]によりプロフィールで選択したニュースが表示されます。

構造

以下の機能が使用可能です。



- ① サブスクライブ (ページ 127) 新規サブスクリプションを作成します。
- ② すべて既読としてマーク (ページ 128) すべての通知を既読としてマークします。
- ③ すべての既読の通知の削除 (ページ 128) すべての既読の通知を削除します。

ヘルプ

Information Server のヘルプは、PUD Manager で表示されます。

このヘルプは、メタデータ(属性、製品プロパティ)に基づくフィルタ、および検索機能(同義語の考慮など)の使用に焦点を当てた最新のドキュメンテーションから構成されます。

ユーザーは、ネスト操作を通じて、必要な情報の詳細レベルを決定できます。ユーザーは特に、ユーザーグループ、アプリケーションフェーズ、またはソフトウェアエリアなどのメタデータを使用して、内容をフィルタできます。

順を追った説明

すべてのアプリケーション状態データをクリア

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ユーザープロファイルが開かれていること。

手順

1. [一般]タブを選択します。
2. [すべてのアプリケーション状態データをクリア]ボタンを選択します。

注記

このオプションを確定すると次のデータが削除されます:

- レポートの表の設定(ソート、フィルタ、表示されている列)。
 - タグ/メッセージ/バッチの選択:位置、サイズ、最後に選択されたフォルダ
-

結果

アプリケーション状態データが削除されました。

プロフィール写真のアップロード

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. ユーザープロフィールを開きます。
2. プロフィール写真のプレースホルダを選択します。
3. 必要なプロフィール写真を選択します。
4. 選択を確定します。

結果

プロフィール写真がアップロードされます。

3.4 ファンクション

オンラインヘルプを開く

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開いていて、PUD がインストールされている。

手順

[?]ボタンを選択します。

結果

PUD オンラインヘルプが開きます。

ユーザープロフィールを開く

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

[ユーザープロファイル]を選択します。

結果

[ユーザープロフィール]ダイアログが開きます。

言語の選択

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [ユーザープロフィール]を開きます。
2. [一般]タブを選択します。
3. ドロップダウンメニューから言語を選択します。
4. [保存]を選択します。

結果

表示言語が変更されます。

通知への登録

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [ユーザープロファイル]を選択します。
2. [権限]タブを選択します。
3. リストで、送受信したい通知タイプを選択します。
4. [保存]を選択します。

3.4 ファンクション

結果

通知が有効になります。

すべての通知を既読としてマーク

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [通知]を開きます。
2. [すべての通知を既読としてマーク]を選択します。

結果

すべての通知が既読としてマークされます。

すべての既読の通知の削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [通知]を開きます。
2. [既読の通知の削除]を選択します。

結果

すべての既読の通知が削除されます。

グループ/権限の確認

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [ユーザープロフィール]を開きます。
2. [グループ/権限]タブを選択します。
3. プロフィールに割り付けられているグループの概要を確認します。
4. [保存]を選択します。

結果

ユーザーがログオフします。

有効な権限の確認

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

3.4 ファンクション

手順

1. [ユーザープロフィール]を開きます。
2. [有効な権限]タブを選択します。
3. プロフィールおよび役割に割り付けられているすべての権限のリストを確認します。
4. [保存]を選択します。

結果

ユーザーがログオフします。

ユーザーのログアウト

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [ログアウト]を選択します。

注記

Information Server が PCS neo Portal から開いていない場合のみ、ログアウトが可能です。

結果

ユーザーがログアウトします。

全画面モードの有効化

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Web アプリケーションが開きます。

手順

1. [全画面モード]を選択します。

結果

全画面モードが有効化されます。

3.4.2.7 ダッシュボード

ダッシュボード

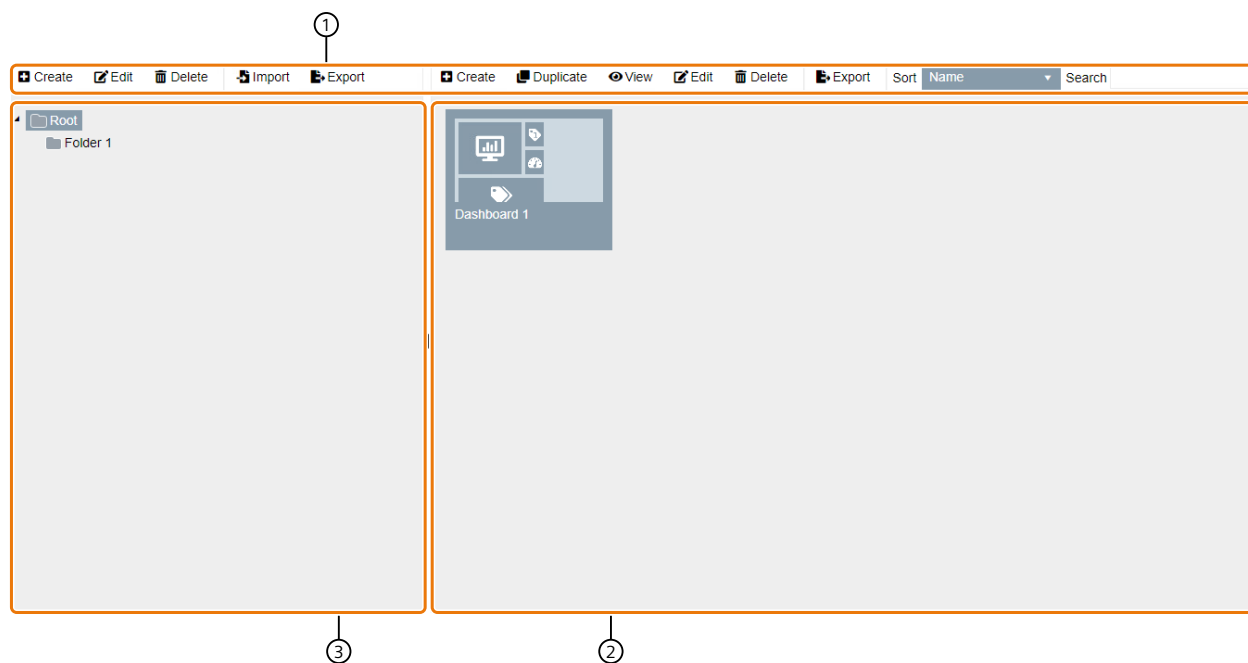
定義

さまざまなデータのビジュアライゼーションオプションが、設定可能なコントロールを使用してダッシュボードで使用できます。

3.4 ファンクション

レイアウト

「Dashboard」アプリは、次のように構成されています。



- ① ツールバー (ページ 132)
- ② 作成済みのダッシュボードの概要
- ③ フォルダ階層の概要

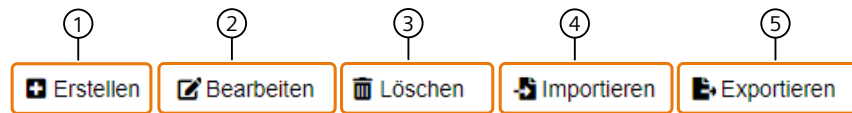
「Dashboard」アプリのツールバー

定義

ツールバーには、「Dashboard」アプリのすべての機能が含まれます。

構造

フォルダのツールバーで、以下の機能を使用できます。



- ① フォルダの作成 (ページ 134) 新しいフォルダを作成します。
- ② フォルダの編集 (ページ 134) 選択したフォルダを編集モードで開きます。
- ③ フォルダの削除 (ページ 135) 選択したフォルダを削除します。
- ④ フォルダ階層のインポート (ページ 135) 階層をインポートします。
- ⑤ フォルダ階層のエクスポート (ページ 136) 現在のフォルダ階層をエクスポートします。

ダッシュボードツールバーには、以下の機能があります。



- ① 作成 (ページ 137) ダイナミックに入力可能な新規のダッシュボードを作成します。
- ② 複製 (ページ 139) 選択したダッシュボードを複製します。
- ③ ビュー (ページ 138) 選択したダッシュボードを開いて表示します。
- ④ 編集 (ページ 139) 選択したダッシュボードを編集モードで開きます。
- ⑤ 削除 (ページ 140) 選択したダッシュボードを削除します。
- ⑥ エクスポート (ページ 140) 選択したダッシュボードをエクスポートします。
- ⑦ ソート (ページ 141) ドロップダウンメニューを使って[名前]または[更新日時]でソートします。
- ⑧ 検索 (ページ 141) ダッシュボード名を直接入力して検索します。

3.4 ファンクション

順を追った説明

フォルダの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

手順

1. フォルダ階層のツールバーで[作成]を選択します。
2. 名前を割り付けます。
3. [保存]を選択します。

結果

ダッシュボードのフォルダが作成されます。

フォルダの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

手順

1. 名前を変更するフォルダを選択します。
2. [編集]を選択します。

3. 名前を変更します。
4. [保存]を選択します。

結果

フォルダの名前が変更されました。

フォルダの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。
- フォルダが作成されている。

手順

1. 削除するフォルダを選択します。
2. "削除"を選択します。
3. 選択を確定します。

結果

フォルダとそれに含まれるすべてのダッシュボードが削除されます。

フォルダ階層のインポート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

3.4 ファンクション

手順

1. [インポート]を選択します。
2. インポートするファイルを選択します。
3. 選択を確認して、[インポート]をクリックします。

結果

フォルダ階層がインポートされます。

フォルダ階層のエクスポート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

手順

1. エクスポートするフォルダを選択します。
2. [エクスポート]を選択します。

注記

すべてのダッシュボードをエクスポートするには、ルートフォルダを選択して、ボタンをクリックしてエクスポートを確定します。ダッシュボードが指定された場所に Web アプリケーションのフォルダと同じ構成で作成されます。

結果

フォルダがローカルの指定されたターゲットディレクトリに保存されます。

ダッシュボードの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators

手順

1. [作成]を選択します。

注記

2014 SP2 バージョンとは異なり、ダイナミックなダッシュボードテンプレートは、選択したダッシュボードのセクションに静的にリンクされなくなりました。代わりに、目的のロケーションにドラッグアンドドロップすることができます。

2. 目的に応じてコントロールをダッシュボードにドラッグアンドドロップします。
コントロール (ページ 142)
3. [保存]を選択します。

注記

初めて保存するときは、自動的に[プロパティ]ダイアログが開きます。
このダイアログは、いつでも[プロパティ]ボタンで開くことができます。

4. ダッシュボードのプロパティを選択します。
ダッシュボードのプロパティの編集 (ページ 161)
5. ダッシュボードのレイアウト用に作成されたマスタページのいずれかを選択します。
マスタページ (ページ 216)

注記

時間フィルタ

ダッシュボードでコントロールをフィルタするために使用する 1 つまたは複数の時間フィルタを作成することができます。作成したフィルタはダッシュボードのヘッダーに表示されます。時間でダッシュボードをフィルタ

6. [保存]を選択します。

結果

ダッシュボードが作成され、「Dashboard」アプリの概要に表示されます。

3.4 ファンクション

下記も参照

時間でダッシュボードをフィルタ (ページ 161)

ダッシュボードの表示

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが作成されます。

手順

1. 表示したいダッシュボードを選択します。
2. [ビュー]を選択します。

注記

印刷機能

選択したダッシュボードを[表示]機能を使って開くと、表示を印刷することができます。コンピュータ側の印刷ダイアログが開きます。ダッシュボードの表示のプロポーションを印刷上でも再現するには、表示をレイアウトするか、スケーリングして、プレビューします。

結果

選択したダッシュボードが[表示]モードで開きます。

ダッシュボードの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが作成されます。

手順

1. 編集したいダッシュボードを選択します。
2. [編集]を選択します。

結果

選択したダッシュボードが[編集]モードで開きます。

ダッシュボードの複製

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが作成されます。

手順

1. 複製したいダッシュボードを選択します。
2. [複製]を選択します。

結果

選択したダッシュボードが複製されます。

3.4 ファンクション

ダッシュボードの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが作成されます。

手順

1. 削除したいダッシュボードを選択します。
2. "削除"を選択します。

結果

選択したダッシュボードが削除されます。

ダッシュボードのエクスポート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが作成されます。

手順

1. エクスポートしたいダッシュボードを選択します。
2. [エクスポート]を選択します。

結果

ダッシュボードがローカルのデフォルトの宛先ディレクトリに保存されました。

ダッシュボードの概要のソート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

手順

1. 作成済みダッシュボードのソート順を選択します。
 - 名前
 - 更新日時

結果

ダッシュボードが選択に応じてソートされて表示されます。

ダッシュボードの概要の参照

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 「Dashboard」アプリが開きます。

手順

探しているダッシュボードの名前を入力します。

結果

探しているダッシュボードがオーバービューに表示されます。

3.4 ファンクション

コントロール

コントロール

定義

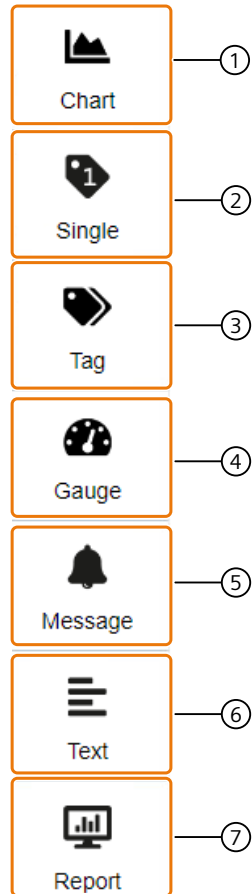
コントロールは、特性の値を可視化するためのオブジェクトです。各コントロールは、プロジェクトからのこれらの値を異なって表示します。

以下のオプションを使用できます。

- [ライブデータ]モードでの履歴値や最新の値の継続的な追加
- 単一のタグまたは複数のタグ、その値と品質コード
- ゲージとしてのタグ、ライブデータで更新
- 履歴メッセージ、現在保留中のメッセージとメッセージ統計
- テキストとプレースホルダの統合
- レポートの統合

レイアウト

以下のコントロールが使用可能です。



- ① [チャート]コントロール (ページ 144) ドラッグアンドドロップで作業領域に[チャート]コントロールのダイアログを開きます。
- ② [シングル]コントロール (ページ 148) ドラッグアンドドロップで作業領域に[シングル]コントロールのダイアログを開きます。
- ③ [タグ]コントロール (ページ 149) ドラッグアンドドロップで作業領域に[タグ]コントロールのダイアログを開きます。
- ④ [ゲージ]コントロール (ページ 151) ドラッグアンドドロップで作業領域に[ゲージ]コントロールのダイアログを開きます。
- ⑤ [メッセージ]コントロール (ページ 153) ドラッグアンドドロップで作業領域に[メッセージ]コントロールのダイアログを開きます。

3.4 ファンクション

- ⑥ [テキスト]コントロール ドラッグアンドドロップで作業領域に[テキスト]コントロールのロール (ページ 158) ダイアログを開きます。
- ⑦ [レポート]コントロール ドラッグアンドドロップで作業領域に[レポート]コントロールのロール (ページ 159) ダイアログを開きます。

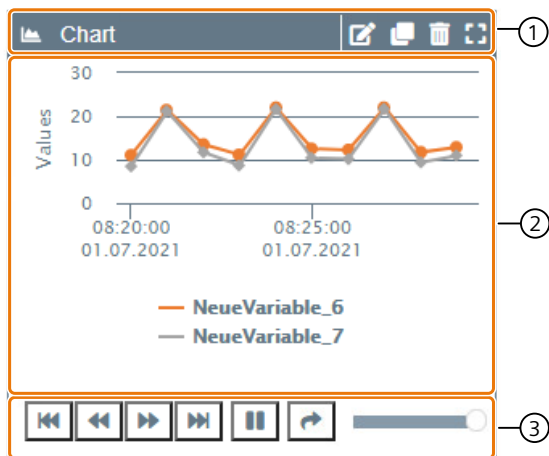
[チャート]コントロール

定義

[チャート]コントロールを使用して、タグの値をチャートとして表示できます。コントロールは、履歴クエリと最新の値をビューに継続的に追加する[ライブデータ]モードの両方に対応しています。タグは、異なる時間軸と値軸で表示できます。

レイアウト

[チャート]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア チャートが表示エリアに表示されます。
- ③ フッター 表示内で前方にジャンプ、後方にジャンプします。
ライブデータを有効にするか、時間内に特定のポイントへ表示内でジャンプします。

コントロールの設定

[全般]タブ	説明
プロジェクト	データソースの選択
タグの参照	新しいタグの選択、タグの編集、タグの削除
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
前/後に移動	秒数、分数、時間数、または日数を設定し、[前へ/戻る]ボタンを使用して、未来または過去にジャンプします。
値の最大数	クエリごとに、サーバーから読み取ることのできるタグ値の最大数を決めます。セキュリティ上の理由から、値を制限してサーバーのリソースを保護する必要があります。
凡例の位置	チャートの凡例の位置を決めます。
レイアウトの凡例	タグ名の凡例を横方向または縦方向に配置するかを決めます。
十字線	カーソルでグラフに触れると、追加の垂直線が表示されるモードがオンになります。

[エレメントの編集]ダイアログ	説明
タグ	タグ名
集計の有効化	集計された値と未処理値を切り替えます。
集計機能	[集計]が有効な場合、必要な集計機能はここで選択できます(設定間隔に基づいた要約または最大値の決定など)。
集計間隔	集計機能で使用するために間隔ゼロを決めます。
タイプ	タグ値を別のフォームで表示できます(折れ線グラフや棒グラフなど)。
データラベルの有効化	マウスをチャートの上に重ねると、タグの現在のデータポイントの時刻と値を持つウィンドウを表示させるかどうかを決めます。
線のスタイル	チャート内の線のグラフィックな表示形式。
線の幅(ピクセル)	チャート内の線の幅、ピクセル単位。
色	線の色
時間軸	コントロールは、複数の時間軸の同時表示に対応しています。そのため、たとえば、異なる日付の値はグラフで比較できます。現在のタグの時間軸は、ここで決めることができます。
値軸	コントロールは、複数の値軸の同時表示に対応しています。そのため、たとえば、異なる日付の値はグラフで比較できます。現在のタグの値軸は、ここで決めることができます。

3.4 ファンクション

[時間軸]タブ	説明
時間軸	個別のタグに割り付けることができ、チャートの下または上に表示される付加的な時間軸を追加できます。
オブジェクト名	設定内の時間軸の名前名前はチャートでは表示されず、識別のためにだけ使用されます。
軸タイトル(オプション)	時間軸のラベル付け、オプション
データモード	異なるクエリモードを切り替えます。
グリッド線の有効化	時刻別にチャートの細分割のための追加の垂直線を表示します。
位置	時間軸をチャートの上に表示するか、下に表示するかを決めます。

[値軸]タブ	説明
値軸	個々のタグに割り付けることができ、チャートの左または右のどちらかに表示できる付加的な値軸を追加できます。
オブジェクト名	設定内の値軸の名前この名前はチャートでは表示されず、識別のためにだけ使用されます。
軸タイトル(オプション)	値軸のラベル付け、オプション
グリッド線の有効化	値別にチャートの細分割のための追加の水平線を表示します。
制限の有効化	値軸に対して、自動的な値範囲の決定と静的な最小値および最大値を切り替えます。
マーキングの間の間隔	<ul style="list-style-type: none"> 自動:値軸の水平バーを自動的に割り振ります。 マニュアル:値軸の水平マーク間の距離を手動で定義します。
位置	時間軸をチャートの左に表示するか、右に表示するかを決めます。

データモード

定義

[チャート]コントロールを設定するときは、異なるデータモードから選択できます。

レイアウト

以下のデータモードを使用できます。

データモード	設定
開始日および終了日の指定	<p>指定した時間範囲のタグ値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 開始および終了時刻次から選択: <ul style="list-style-type: none"> デフォルト:日付と時刻情報 相対:相対時間情報(時間情報 (ページ 181)) リスト:作成済みのフィルタの選択
時間間隔	<p>指定した時刻に開始する間隔内のタグ値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 開始時刻次から選択: <ul style="list-style-type: none"> デフォルト:日付と時刻情報 相対:相対時間情報(時間情報 (ページ 181)) リスト:作成済みのフィルタの選択 時間間隔
ライブデータ	<p>最後の 10 分のタグ値を表示し、継続的に新しいタグ値をビューに追加します。間隔の大きさは変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間間隔

時間フィルタのリスト

[リスト]を選択して、すでに定義済みの時間フィルタの 1 つを選択するか、ダッシュボードをフィルタする新規フィルタを作成します。

選択した時間フィルタはダッシュボードのヘッダに表示され、選択されたダッシュボードのすべての[チャート]コントロールに適用されます。ダッシュボードには、[開始日および終了日の指定]または[時間間隔]がデータモードの[リスト]設定として選択されます。

選択したダッシュボードの異なる時間フィルタ間でヘッダを切り替えることができます。

ダッシュボードの時間フィルタの作成 (ページ 160)

時間でダッシュボードをフィルタ (ページ 161)

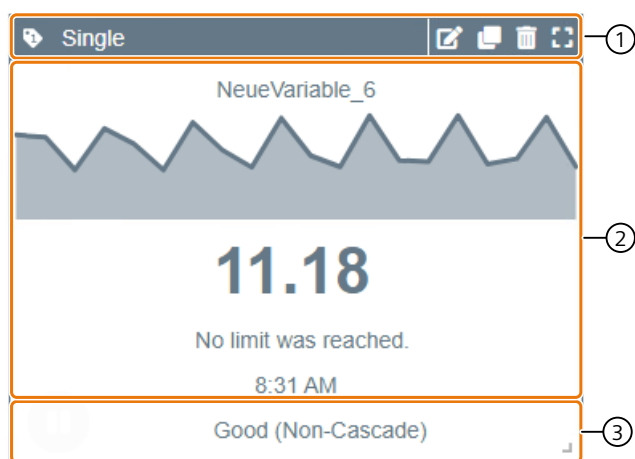
[シングル]コントロール

定義

[シングル]コントロールにより、シングルタグ、その現在値、およびその品質コードのライブデータを表示できます。さらに、制限を超過した場合、警告を設定できます。

レイアウト

[シングル]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア グラフィック表示の下で、制限値およびその品質コードに関する情報を参照できます。
[一時停止/再生]ボタンを使って、コントロールを一時停止または再開できます。

注記

コントロールを一時停止すると、値は一定の間隔で表示され、マウスポインタを重ねると対応するデータが表示されます。

構成された上限または下限を超過すると、値の表示は制限に対応する色になります。

コントロールの設定

[全般]タブ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
プロジェクト	データソースの選択
タグ	その値が表示されるタグ。
小数位の数	チャートの下に数値として表示される小数位の数。
品質コードの表示	品質コードの表示をオンにします。 品質コードは、最後のタグ値についての追加の情報を含む数値です。コードは、[品質コード]タブで説明されます。

[品質コード]タブ	説明
表	すべての品質コード、その意味、および設定された色の概要。 色は各品質コードごとに設定可能です。

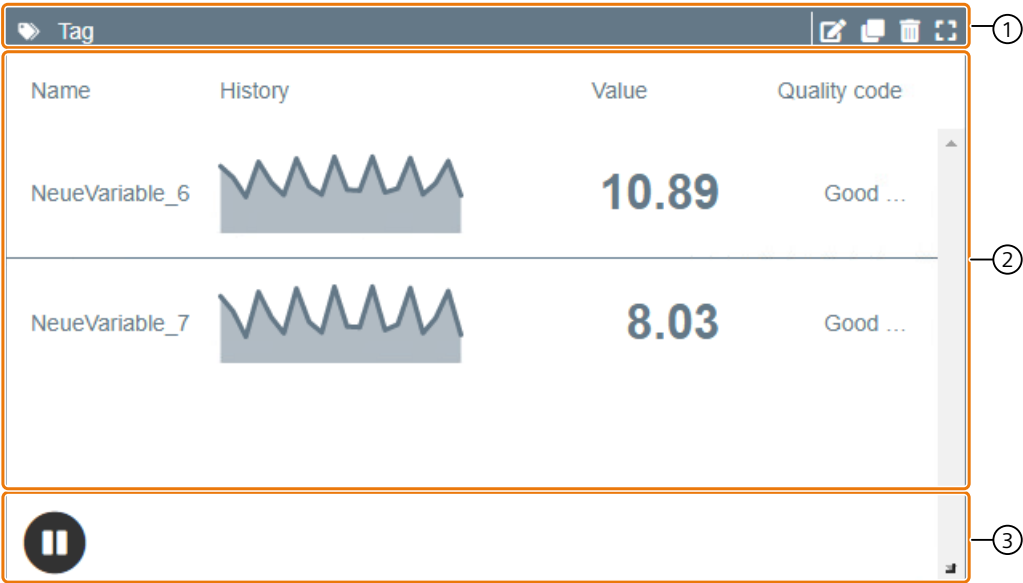
[タグ]コントロール

定義

[タグ]コントロールを使用して、表形式で複数のタグのライブデータ、およびその現在値、品質コードを表示できます。オプションで、過去の時間や追加の時間間隔の集計値も表示できます。

レイアウト

[タグ]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア 表示エリアは、値とチャートを表示します。
- ③ フッター [一時停止/再生]ボタンを使って、コントロールを一時停止または再開できます。

コントロールの設定

[全般]タブ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
プロジェクト	データソースの選択
タグ	その値が表形式で表示されるタグ。
小数位の数	チャートの下に数値として表示される小数位の数。
品質コードの表示	品質コードの表示をオンにします。品質コードは、最後のタグ値についての追加の情報を含む数値です。コードは、[品質コード]タブで説明されます。

[全般]タブ	説明
ファンクション	集計機能、追加の列として表示されます。それぞれの場合で、シングル集計値は指定された時間間隔で計算されます。
時間間隔	デフォルトでは、集計値は最後の時間に対して計算されます。間隔は設定可能です。

[品質コード]タブ	説明
表	すべての品質コード、その意味、および設定された色の概要。色は各品質コードごとに設定可能です。

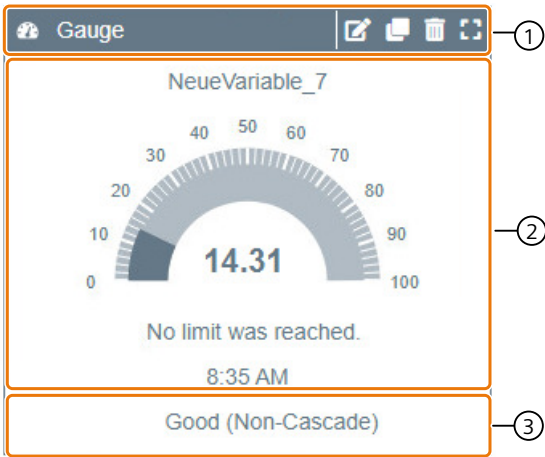
[ゲージ]コントロール

定義

[ゲージ]コントロールを使用して、設定可能な値範囲のあるゲージ形式でタグの現在値を可視化できます。値は、ライブデータで継続的に更新されます。コントロールは、品質コードの表示に対応しています。

レイアウト

[ゲージ]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア グラフィック表示の下で制限についての情報を参照できます。
- ③ フッター 品質コードの表示
[一時停止/再生]ボタンを使って、コントロールを一時停止または再開できます。

注記

構成された上限または下限を超過すると、値の表示は制限に対応する色になります。

コントロールの設定

[全般]タブ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
プロジェクト	データソースの選択
タグ	その値が表示されるタグ。
小数位の数	チャートの下に数値として表示される小数位の数。
品質コードの表示	品質コードの表示をオンにします。品質コードは、最後のタグ値についての追加の情報を含む数値です。コードは、[品質コード]タブで説明されます。

[全般]タブ	説明
最小値	測定表示の左側の最小値を決めます。.
最大値	測定表示の右側の最大値を決めます。.
マーキングの間隔	<ul style="list-style-type: none"> 自動:値軸の水平バーを自動的に割り振ります。 マニュアル:値軸の水平マーク間の距離を手動で定義します。

[品質コード]タブ	説明
表	すべての品質コード、その意味、および設定された色の概要。 色は各品質コードごとに設定可能です。

[メッセージ]コントロール

定義

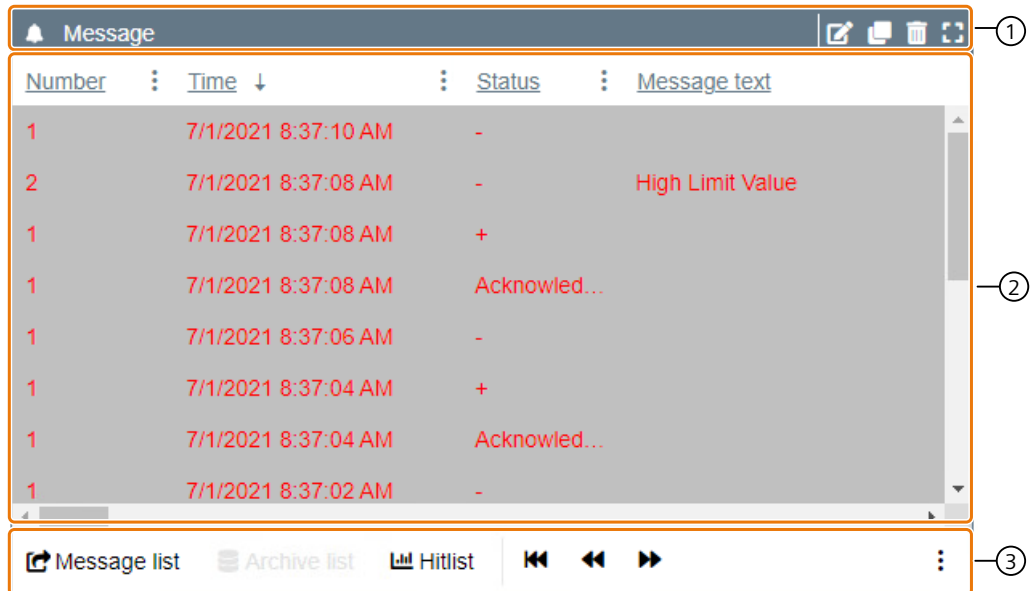
[メッセージ]コントロールは、履歴メッセージ、現在保留中のメッセージ、およびメッセージ統計(ヒットリスト)を表形式で表示できます。このコントロールは、特定のエラータイプや特定のロケーションなどに基づいて、フィルタを設定して読み出すべきメッセージを制限できます。

注記

メッセージだけが、このコントロールで表示できます。メッセージに確認応答したり、コメントすることはできません。

レイアウト

[メッセージ]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア 値が設定に従って表示エリアに表示されます。
列は、列の名前の横の矢印を使って降順または昇順にソートできます。
この表には属性を追加できます。
- ③ フッター フッターのテーブルを前後にスクロールします。
データソースに応じて次の 3 つのビューを切り換えることができます。
メッセージリスト(ライブモード)、アーカイブリスト(アーカイブモード)およびヒットリスト(統計分析モード)。

コントロールのビュー

コントロールは 3 つの異なるビューをサポートしています。コントロールのフッターの対応するボタンを使用してビューを切り替えることができます。

- メッセージバー: 現在保留中のメッセージの表示
- アーカイブリスト: 特定の時間間隔の履歴メッセージの表示
- ヒットリスト: メッセージの発生頻度に関連する統計の表示

制限

下記の表は、接続されたデータソースに従ったビューの制限を示しています。

データソース	メッセージバー	アーカイブリスト	ヒットリスト
PCS 7/WinCC OS	あり	あり	あり
PH PCS 7/WinCC	あり	あり	なし
PCS neo	あり	あり	なし

コントロールの設定

[設定]ダイアログ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
プロジェクト	そこからメッセージが表示されるデータソース。
ページ当たりのメッセージ数	表形式でページ当たりの表示されるメッセージの最大数を決めます。
フィルタ	<p>フィルタグループの作成と管理ができます。</p> <p>これらのグループのそれぞれは、読み取られるメッセージをさらに制限する多数のリンクされたフィルタ(論理 AND)で構成されます。グループは個別に有効または無効にでき、論理的にリンク(論理 OR)できます。</p> <p>新規グループを作成する場合、さまざまな有効性を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> このダッシュボードのみ:フィルタグループは、同じダッシュボードの[メッセージ]コントロールだけを使用できます。フィルタグループは、他のダッシュボードでは表示できません。 すべてのダッシュボード用:フィルタグループは、すべてのダッシュボードのすべての[メッセージ]コントロールで使用できます。

3.4 ファンクション

フィルタグループの追加	説明
名前	設定内のフィルタグループの名前 名前はデータ表示には影響しません。
プライベート	フィルタグループが現在のユーザーにだけ、またはすべてのユーザーに表示可能かどうかを決めます。
フィルタ	読み取られるメッセージの選択をさらに制限するフィルタ条件を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • フィルタ基準:それによってフィルタされるメッセージ属性。 • 演算子 メッセージ属性を値と比較するために使用する演算子。 • 設定:メッセージ属性が比較される値。

フィルタ条件

定義

[メッセージ]コントロールを設定するときは、異なるフィルタ条件を選択できます。

レイアウト

以下のフィルタ条件が使用可能です。

フィルタ	設定
日付/時刻	<ul style="list-style-type: none"> • 演算子: $= / > / \geq / < / \leq$ 次から選択: <ul style="list-style-type: none"> – デフォルト:日付と時刻情報 – 相対:相対時刻情報(セクション「時間情報 (ページ 181)」を参照) – リスト:作成済みのフィルタからの選択 • 入力:文字列または数値(選択による)
状態	<ul style="list-style-type: none"> • 演算子: $= / > / \geq / < / \leq$ • 入力:数値
番号	<ul style="list-style-type: none"> • 演算子: $= / > / \geq / < / \leq$ • 入力:数値
クラス	<ul style="list-style-type: none"> • 演算子:include = / • 入力:文字列

フィルタ	設定
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
AG 番号	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
CPU 番号	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
コンピュータ名	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
優先度	<ul style="list-style-type: none"> 演算子: = / > / ≥ / < / ≤ 入力:数値
メッセージテキスト	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
異常の場所	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
ブロック 3 からブロック 10	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
プロセス値 1 からプロセス値 10	<ul style="list-style-type: none"> 演算子: = / equal (テキスト) / include (テキスト) / > / ≥ / < / ≤ 入力:文字列または数値
名前	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
エリア	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
オリジン	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
イベントメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列
プロセス値(テキスト)からプロセス値 9 (テキスト)	<ul style="list-style-type: none"> 演算子:include = / 入力:文字列

注記

可能なフィルタ条件は、接続されているデータソースによって異なります。

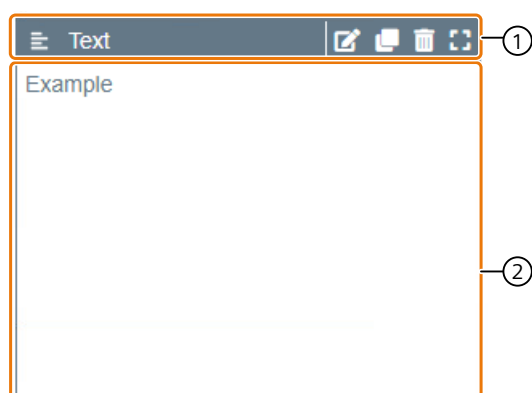
[テキスト]コントロール

定義

[テキスト]コントロールで、テキストと画像の表示とフォーマットができます。テキスト内で特別なプレースホルダを使用できます。このプレースホルダは後で動的に置換できます。

レイアウト

[テキスト]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア 表示エリアには統合された情報、グラフィックなどが表示されます。

コントロールの設定

[設定]ダイアログ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
内容	<p>コントロール内で表示されるテキスト。</p> <p>テキスト入力ボックスの上のボタンを使用して、テキストは太字、斜体、下線、左揃え、中央揃え、右揃えで、リストまたは一覧表として表示できます。特別なプレースホルダは、右側のドロップダウンメニューを使用して挿入できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • {name} – ダッシュボードの名前 • {description} – ダッシュボードの説明 • {currentdate} – 今日の日付
ヘッダーと境界の表示	コントロールの周囲のヘッダーと境界を表示するか決めます。

[レポート]コントロール

定義

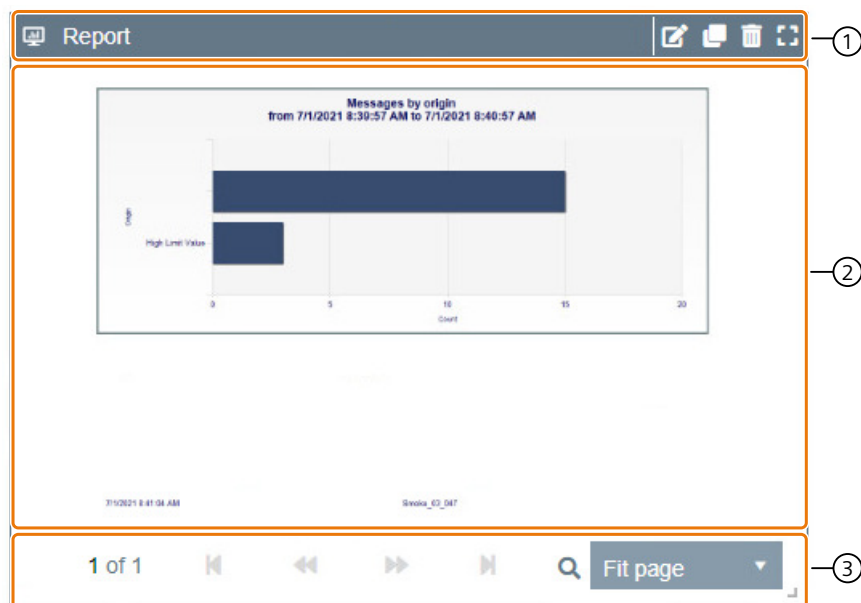
[レポート]コントロールにより、ダッシュボードの[レポート作成]アプリからレポートを含めることができます。レポートは、ダッシュボードが以前に設定されたパラメータで開いているときに一回生成されます。

注記

1 回にレンダリングされるのは 1 ページだけであるため、[レポート]コントロールとしてレポートをレンダリングする方がレポート機能より高速です。

レイアウト

[レポート]コントロールは、以下の領域に分割されます。



- ① ヘッダー ヘッダーで、コントロールを編集、複製、削除または全画面表示に拡大できます。
- ② 表示エリア プロセス値が設定に従って表示エリアに表示されます。
- ③ フッター フッターの表を前方、または後方にスクロールし、レポートの表示サイズを調整します。

3.4 ファンクション

コントロールの設定

[設定]ダイアログ	説明
タイトル	コントロールのヘッダー、オプション
レポートテンプレート	埋め込みのために使用されるレポートテンプレート。 選択は、[レポート作成]アプリと同じです。
パラメータ	レポートを生成するために使用されるパラメータ。 [パラメータの編集]を選択し、パラメータを設定するためのダイアログを開きます。ダイアログは機能的にアプリと同一です。

ダッシュボードの順を追った説明

ダッシュボードの時間フィルタの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開き、コントロールが作成されます。

手順

1. [プロパティ]ダイアログを開きます。
2. [追加]を選択します。
3. タイムフィルタの名前を割り付けます。
4. フィルタに使用する相対値または絶対値を入力します。
5. [保存]を選択します。

結果

時間フィルタはダッシュボードのヘッダーに表示されます。

時間でダッシュボードをフィルタ

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードの時間フィルタが作成されます。

手順

1. ダッシュボードのヘッダーに適用する時間フィルタを選択します。
2. [適用]を選択します。

結果

時間フィルタがダッシュボードに適用されます。

ダッシュボードのプロパティの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. [プロパティ]ダイアログを開きます。
2. 名前を割り付けます。
3. オプションの説明を追加します。
4. ダッシュボードのマスタページを選択します。
5. オプションで、時間フィルタを選択するか、新規の時間フィルタを作成します。
ダッシュボードの時間フィルタの作成 (ページ 160)
6. [保存]を選択します。

3.4 ファンクション

結果

ダッシュボードのプロパティが編集されます。

コントロールの順を追った説明の設定

[チャート]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[チャート]コントロールを配置します。
2. [全般]タブでプロジェクトを選択します。
3. [追加]を選択して、適切なタグを選択します。
表にタグが表示されます。

注記

複数のタグを同時に選択できます。オーバービューで異なる色が自動的に割り付けられます。

4. タグを選択します。
5. [編集]ボタンを選択します。
6. 必要に応じて、統合機能を有効にして、統合間隔を設定します。
7. ドロップダウンメニューからデータを表示するダイアグラムタイプを選択します。
8. 必要に応じて、[データラベルの有効化]を選択します。

注記

チャートにデータラベルが表示され、データの値を示します。データラベルは、フェードイン/アウトするか、透明で表示することができます。すなわち、ラベルはダイアグラムの該当位置にマウスポインタを重ねたときのみ表示されるようにできます。

9. ダイアグラムの表示およびダイアグラムのタグ値の表示を設定することができます。
10. 時間および値の軸を選択します。

- 11.それぞれのタグで設定を行い、[保存]で確定します。
- 12.以下の表示オプションを設定します。
 - 前/後に移動
 - 値の最大数
 - 凡例の位置
 - レイアウトの凡例
 - 十字線の有効化
- 13.[時間の軸]タブおよび[値の軸]タブで1つ以上の時間の軸および値の軸を設定します。

注記

縦軸

ダイアグラムでのデータの表示の最小および最大制限を指定します。マーキング間隔は、自動設定および手動設定が可能です。

データモード

以下のデータモードがコントロールのパラメータ割り付け時に使用できます。

データモード (ページ 146)

- 14.[保存]を選択します。

結果

[チャート]コントロールが設定されます。

[シングル]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[シングル]コントロールを配置します。
2. オプションで、コントロールのタイトルを入力します。
3. プロジェクトを選択します。
4. 接続済みアーカイブからタグを選択します。

3.4 ファンクション

5. [編集]を選択します。
6. オプションで、カスタムユニットを有効にします。
7. オプションで、1 つ以上の上限と下限を定義し、設定を保存します。

注記

コントロールの制限の表示

設定により、制限はコントロールで色で表示されます。制限を超過するか下回った場合は、この制限に選択した色の値が表示されます。

8. 表示される小数位の数を選択します。
9. 必要に応じて、品質コードを表示するチェックボックスを無効にします。

注記

初期設定では、品質コードは有効です。

- 10.[品質コード]タブで、品質コードの表示と説明を設定します。
- 11.[保存]を選択します。

結果

[シングル]コントロールが設定されます。

[シングル]コントロールの一時停止と再開

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- 設定された[シングル]コントロールを使用してダッシュボードが開かれていること。

手順

[再生/一時停止]ボタンを使って、[シングル]コントロールを一時停止または再開します。

注記

コントロールを一時停止すると、個別の値が表示されます。マウスを図の位置に移動すると、ラベルが表示されます。

結果

[シングル]コントロールが一時停止/再開されます。

[タグ]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[タグ]コントロールを配置します。
2. オプションで、コントロールのタイトルを入力します。
3. プロジェクトを選択します。
4. リンクされたアーカイブからタグを選択するか、タグを編集します。
5. オプションで、カスタムユニットを有効にします。
6. 小数位の数を選択します。
7. オプションで、品質コードを表示するチェックボックスを無効にします。

注記

初期設定では、品質コードは有効です。

8. オプションで、1 つ以上の統合機能を有効化します。
 - 合計
 - 最大
 - 最小
 - 標準
9. 時間間隔を選択します。
10. [品質コード]タブで、品質コードの表示と説明を設定します。
11. [保存]を選択します。

結果

[タグ]コントロールが設定されます。

[ゲージ]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[ゲージ]コントロールを配置します。
2. オプションで、コントロールのタイトルを入力します。
3. プロジェクトを選択します。
4. 接続済みアーカイブからタグを選択します。
5. [編集]を選択します。
6. オプションで、カスタムユニットを有効にします。
7. オプションで、1 つ以上の上限と下限を定義し、設定を保存します。

注記

コントロールの制限の表示

設定により、制限はコントロールで色で表示されます。制限を超過するか下回った場合は、この制限に選択した色の値が表示されます。

8. 小数位の数を選択します。
9. 必要に応じて、品質コードを表示するチェックボックスを無効にします。

注記

初期設定では、品質コードは有効です。

10. 最小と最大を入力することにより、コントロールの表示される値の範囲を定義します。
11. マーキング間隔を選択します。
12. [品質コード]タブで、品質コードの表示と説明を設定します。
13. [保存]を選択します。

結果

[ゲージ]コントロールが設定されます。

[メッセージ]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[メッセージ]コントロールを配置します。
2. オプションで、コントロールのタイトルを入力します。
3. 1 つ以上のプロジェクトを選択します。
4. 1 ページのメッセージ数を選択します。

注記

このコントロールにすでにフィルタを設定している場合、作成したフィルタをここで有効化/無効化できます。

5. [追加]と、[このダッシュボードのみ]か[すべてのダッシュボード]のいずれかを選択します。
 - [このダッシュボードのみ]では、ローカルのフィルタグループが作成されます。
 - [すべてのダッシュボード]では、グローバルのフィルタグループが作成されます。
6. 1 つ以上のフィルタを設定します。
フィルタグループの作成 (ページ 170)
フィルタグループの編集 (ページ 171)
7. このコントロールで適用したいフィルタを有効化します。
フィルタグループの有効化/無効化。 (ページ 170)
8. [保存]を選択します。

結果

[メッセージ]コントロールが設定されます。データソースに応じて次の 3 つのビューを切り換えることができます。メッセージリスト(ライブモード)、アーカイブリスト(アーカイブモード)およびヒットリスト(統計分析モード)。

列の表示/非表示 (ページ 173)

列を昇順または降順にソート (ページ 173)

表示の変更 (ページ 174)

[テキスト]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[テキスト]コントロールを配置します。
2. タイトルを選択します。
3. テキストを入力して、入力ウィンドウのツールを使ってコンテンツの書式を設定します。

注記

また、ここでハイパーリンク、グラフィックおよび表を挿入できます。

4. ドロップダウンメニューを使用して、ダッシュボードの名前、ダッシュボードの説明および現在の日付と時間を挿入することができます。
5. コントロールの内容だけを表示したい場合は、[ヘッダーおよびフレームの表示]オプションを無効にします。
6. [保存]を選択します。

結果

[テキスト]コントロールが設定されます。

[レポート]コントロールの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. ドラッグアンドドロップを使って、ダッシュボードに[レポート]コントロールを配置します。
2. タイトルを選択します。
3. レポートテンプレートを選択し、パラメータを設定します。

注記

個々のレポートテンプレートの設定の詳細については、「レポート機能」のセクションを参照してください。

レポート生成 (ページ 189)

4. [保存]を選択します。

注記

1 回にレンダリングされるのは 1 ページだけであるため、[レポート]コントロールとしてレポートをレンダリングする方がレポート機能より高速です。

結果

[レポート]コントロールが設定されます。

3.4 ファンクション

[メッセージ]コントロールの順を追った説明

フィルタグループの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。

手順

1. フィルタグループの名前を入力します。
2. フィルタグループをすべてのユーザーに対して表示しない場合、[プライベート]オプションを有効にします。
3. 指定された条件に基づいてフィルタを作成します。
フィルタ条件 (ページ 156)
4. フィルタグループを設定したら、[追加]を選択します。

結果

作成されたフィルタグループがリストに表示されます。

フィルタグループの有効化/無効化

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。
- [メッセージ]コントロールが編集モードで開かれており、少なくとも 1 つのフィルタが作成されていること。

手順

1. フィルタグループのオーバービューで、[有効化済み]列で有効化/無効化したいフィルタグループのフィルタグループのオプションを有効化/無効化します。

結果

フィルタグループが有効化/無効化されます。

フィルタグループの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。
- [メッセージ]コントロールが編集モードで開かれており、1つのフィルタグループが作成されていること。

手順

1. リストからフィルタグループを選択します。
2. [編集]を選択します。
3. フィルタグループを編集します。
4. 変更を保存します。

結果

フィルタグループが処理されます。

3.4 ファンクション

フィルタグループの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。
- [メッセージ]コントロールが編集モードで開かれており、1つのフィルタグループが作成されていること。

手順

1. リストからフィルタグループを選択します。
2. "削除"を選択します。

結果

フィルタグループが削除されます。

すべてのフィルタグループの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開いている。
- [メッセージ]コントロールが編集モードで開かれており、1つのフィルタグループが作成されていること。

手順

1. [すべて削除]を選択します。

結果

すべてのフィルタグループが削除されます。

列の表示/非表示

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開かれており、[メッセージ]コントロールが設定されていること。

手順

1. 表の列設定を開きます。
2. [列]を選択します。
3. 表示/非表示にしたい列を有効化/無効化します。

結果

列が有効化/無効化されます。

列を昇順または降順にソート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開かれており、[メッセージ]コントロールが設定されていること。

3.4 ファンクション

手順

1. ソートしたい列に移動します。
2. [列の設定]を選択します。
3. [昇順にソート]または[降順にソート]を選択します。

結果

列が昇順/降順でソートされます。

表示の変更

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開かれており、[メッセージ]コントロールが設定されていること。

手順

フッタでコントロールの表示を選択します。

- メッセージバー:ライブモード
- アーカイブリスト:アーカイブモード
- ヒットリスト:統計分析モード

結果

選択した表示にコントロールの内容が表示されます。

コントロール全般の順を追った説明

コントロールの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開き、コントロールが作成されます。

手順

コントロールで[コントロールの編集]を選択します。

結果

選択したコントロールの編集モードが開きます。

コントロールの複製

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開き、コントロールが作成されます。

手順

コントロールで[コントロールの複製]オプションを選択します。

結果

選択したコントロールが複製されます。

3.4 ファンクション

コントロールの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開き、コントロールが作成されます。

手順

コントロールで[コントロールの削除]を選択します。

結果

選択したコントロールが削除されます。

コントロールの拡大

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- ダッシュボードが開き、コントロールが作成されます。

手順

コントロールで[フルスクリーンモードの有効化]オプションを選択します。

注記

コントロールにズームすると、シングルおよびゲージコントロールに詳細情報が表示されます。

結果

選択したコントロールが拡大されます。

3.4.2.8 レポート

レポート

定義

"レポート機能"アプリによりレポートおよびサブスクリプションの作成が可能になります。

レポート生成 (ページ 189)

パラメータの割り付けにより、レポートやサブスクリプションの内容を定義します。

レポート機能には、レポートに関する以下の機能が含まれています。

- 作成
- 編集
- ビュー
- エクスポート
- 削除
- 再実行

レポート機能には、サブスクリプションに関する以下の機能が含まれています。

- 作成
- 編集
- 削除

レポートは、選択したレポートテンプレートに従って、チャート、表またはバッチレポートとして視覚化されます。

レポートテンプレートの概要および詳細は、ここで確認できます: レポートテンプレート (ページ 190)

3.4 ファンクション

構造

レポート機能は以下の領域に区分されます:

Duration until acknowledgment

Frequency distribution chart over specified time frame, that shows the number of messages requiring acknowledgment.

Created by: User name
Created: 6/29/2021 6:38 AM
Modified by: User name
Modified: 6/30/2021 11:54 AM

Reports (2)

Create report View Export Edit Remove Rerun Reset filter

Preview	Name	Processing	Created by	Created	Parameters
	Abonnement...	✓	User name	7/1/2021 8:50:07 AM	Project Start: 7/1/2021 8:4... Project End: 7/1/2021 8:4...
	Report	✓	User name	7/1/2021 8:49:25 AM	Project Start: 7/1/2021 8:4... Project End: 7/1/2021 8:4...

Subscriptions (1)

Create subscription Edit Remove Reset filter

Name	Last executed	Triggers	Parameters	Created
Abonnement_1	7/1/2021 8:50:07 AM	Time Trigger once on 7/1/2021 8:50 AM	Project Start: 7/1/2021 8:47 AM Project End: 7/1/2021 8:48 AM	7/1/2021 8:49:14

- ① レポート レポートの概要およびコンフィグレーションオプションを表示します。
- ② パラメータの事前設定 パラメータの事前設定を作成するか、すでに作成されたパラメータの事前設定を表示します。
- ③ サブスクリプション サブスクリプションの概要およびコンフィグレーションオプションを表示します。

概要テーブル

表の列は、初期設定で表示または非表示にできます。デフォルトでは一部の列は表示されません。

列の表示/非表示 (ページ 199)

レポート機能の表では、以下の情報について概要が提供されます。

表	列	説明
レポート	プレビュー	作成されたレポートのプレビュー
	名前	レポートの名前
	処理	現在の編集ステータス
	作成者	ユーザー
	コメント	このレポートにコメント、オプションのエントリ
	作成	作成日時
	修正済み	最終変更日
	パラメータ	プロジェクトパラメータ:プロジェクト名、開始日、終了日、選択されたメッセージクラス
	プライベート	すべての Information Server ユーザーか、またはレポートを作成したユーザーのみにレポートを表示するかどうかを示します。
	クリーンアップ	記憶域の自動リリースのためレポートが選択されているかどうかを示します。

3.4 ファンクション

表	列	説明
サブスクリプション	名前	サブスクリプションの名前
	前回の実行	前回の実行日
	トリガ	レポートは、指定したトリガ条件に基づいて、生成および送信されます。
	パラメータ	プロジェクト名、開始日、終了日
	コメント	このレポートにコメント、オプションのエントリ
	作成者	ユーザー
	作成	作成日時
	修正済み	最終変更日
	プライベート	すべての Information Server ユーザーか、またはサブスクリプションを作成したユーザーのみにサブスクリプションを表示するかどうかを示します。
	クリーンアップ	記憶域の自動リリースのためサブスクリプションが選択されているかどうかを示します。
	有効	サブスクリプションを有効にし、指定したトリガのレポートを作成/送信するかどうかを示します。
	プロジェクト	選択したプロジェクト
	開始	開始時刻
	終了	終了時刻

フィルタ

列ヘッダーの列タイプにより、ショートカットメニューから列ごとに 2 つまでの条件の別々のフィルタを使用できます。

フィルタの設定 (ページ 200)

フィルタのリセット (ページ 201)

ソート

列は、ショートカットメニューを使用して昇順または降順にソートできます。

列を昇順または降順にソート (ページ 199)

下記も参照

タグの参照 (ページ 184)

パラメータの事前設定 (ページ 186)

サブスクリプション (ページ 201)

時間情報

定義

レポート用の時間仕様定義:

- 開始日および終了日
- レポートを評価するためにデータにアクセスされる時間期間。

Information Server では、時間の絶対値と相対値を入力し、リストから事前定義された時間を選択することができます。

注記

異なるタイムゾーンの時間データ

Information Server および Information Server Client が異なる時間ゾーンに存在する場合、レポートには Information Server の現地時間ゾーンで表示されます。

Information Server Client の入力はクライアントのローカル時間になります。

Excel アドインではクライアントのローカル時間が常に表示されます。

例:IS クライアントがドイツ(UTC+1)で実行中で、IS サーバーは中国(UTC+8)で実行中です。Excel アドインのクエリは UTC+1 で出力されます。

例外

[作成]または[挿入]オプションを使用する場合、レポートにサーバーの時刻が表示されます。

絶対時間情報

絶対時間情報には、特定の時点が記述されます。

3.4 ファンクション

以下の表は、可能な絶対時間を示しています。

絶対時間情報	時間単位	Web アプリケーション
dd.mm.yyyy hh:mm:ss	日付と時間	✓

以下の表は、絶対時間の例を示しています。

例	説明
12/08/2012	指定された日付
12.08.2012 14:30:00	指定された日付の 14:30

相対時間情報

相対時間情報は、時間間隔のプレースホルダです。時間間隔には、絶対的な開始時間および終了時間は含まれません。相対時間では、基準時間が必要です。

基準時間は、絶対時間または相対時間のいずれでもかまいません。相対時間の先頭にプラス記号を付けた場合、指定した時間間隔は基準時間の後になります。相対時間の先頭にマイナス記号を付けた場合、指定した時間間隔は基準時間の前になります。

以下の表は、通常の相対時間を示しています。

相対時間情報	時間単位	Web アプリケーション
ms	ミリ秒	✓
s	秒	✓
m	分	✓
h	時	✓
d	日	✓
w	週	✓
mo	月	✓
y	年	✓

以下の表は、個別の相対時間を示しています。

相対時間情報	時間単位	Web アプリケーション
t	現在の日付	✓
y	昨日	✓

*	現在の時間	✓
1-31	現在の月の 1～31 日	✓

相対時間"y"の特殊機能:

相対時間"y"は、「年」および「昨日」の両方を意味します。「y」が使用されるコンテキストによって相対時間指定が決定されます:

- 時間期間の開始部分の「y」: 「y」は相対時間指定「昨日」を意味します。
- 数字に関連した「y」: 「y」は相対時間指定「年」を意味します。

相対時間"1-31"の特殊機能:

相対時間"1-31"には、1～31 のすべての数値が含まれます。

この数値のいずれかが他の相対時間と直接関連して使用されていない場合、その数値は当月の該当日を表わします。

以下の表は、相対時間の例を示しています。

例	説明
12.08.12 10:00:00+1d-2h+30m	12.08.12 10:00 プラス 1 日マイナス 2 時間プラス 30 分
*-24h+25m	現在の時間マイナス 24 時間プラス 25 分
d-3h	今日の 00:00 マイナス 3 時間
*-2y-3mo	現在の日付マイナス 2 年マイナスの 3 か月
y-15h	昨日マイナス 15 時間
12	当月の 12 日

注記**相対時間情報の使用**

相対時間の使用は、サブスクリプションのレポート機能で特に有効です。相対時間情報を使用して、サイクリックレポートを生成できます。

例:早番シフトの生産委員を表す必要があります。毎日 15:00 にサブスクリプションのためのレポートを生成し、開始時間として*-9h および終了時間*を入力します。

下記も参照

ダッシュボードの時間フィルタの作成 (ページ 160)

タグの参照

タグの参照

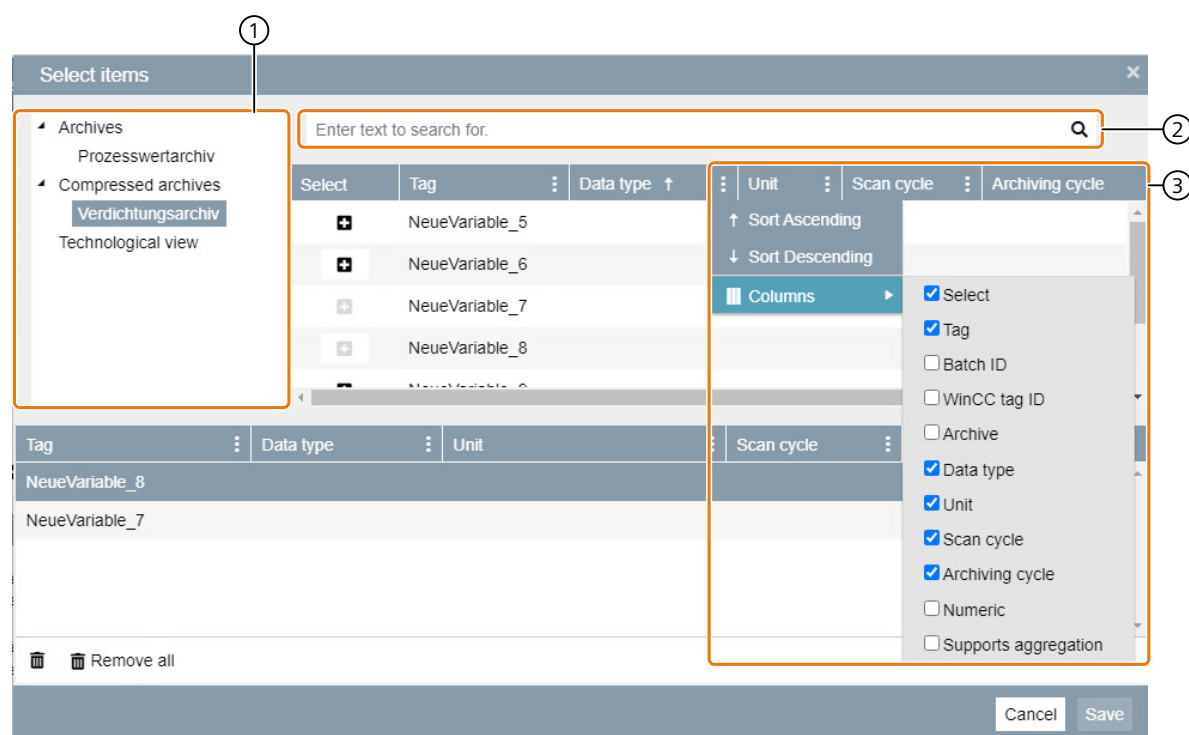
定義

タグを参照するためのダイアログは、以下の状況で呼び出すことができます。

- タグを使ったレポートを作成する場合
- タグを使ったサブスクリプションを作成する場合

構造

タグ参照のダイアログの構造を以下に示します。



- ① ディレクトリとサブディレクトリのタグ階層
- ② タグの検索
- ③ ソートおよび表の修正

フィルタリングおよび表示

ソートおよび表の修正

表のヘッダーのオプションから表のショートカットメニューを開きます。表は昇順または降順にソートでき、列の表示/非表示を切り換えることができます。

タグの検索

検索語を入力すると、タグ階層で選択したディレクトリが検索されます。ディレクトリまたはサブディレクトリを選択していない場合、すべてのディレクトリでタグが検索されます。ディレクトリを選択している状態で、すべてのディレクトリを検索したい場合、タグ表示の空のエリアをクリックすると、ステータスが復元されます。タグ名の一部として検索語が含まれる必要があります。複数の検索語の入力は許可されません。

順を追った説明

タグの参照

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- タグおよびプロジェクトが選択されたレポートテンプレートの[レポートの作成]または[サブスクリプションの作成]ダイアログが開きます。

手順

1. タグの選択のダイアログを開きます。
2. タグ階層を開いて、ディレクトリとサブディレクトリを展開します。
3. 1つ以上のタグを追加したいディレクトリを選択します。

3.4 ファンクション

4. ディレクトリオーバービューから、追加したいタグを選択します。

注記

タグのフィルタリング

このダイアログ内でのタグのフィルタリングに関する詳細情報は、「タグの参照 (ページ 184)」を参照してください。

5. 選択を保存します。

結果

選択したタグが追加されます。

パラメータの初期設定

パラメータの事前設定

定義

パラメータ事前設定は、新規のレポートが選択されたレポートテンプレートで生成される場合に適用される事前設定として保存されます。

事前設定を編集または削除できます。パラメータ事前設定は、レポートが作成されるレポートテンプレートに対して有効です。

順を追った説明

パラメータの事前設定の作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。

手順

1. テンプレートから適切なレポートテンプレートを選択します。
2. [レポートの作成]を選択します。
3. レポートのパラメータを割り付けます。
4. [パラメータの事前設定の作成]を選択します。
5. 名前を選択します。
6. 事前設定を自分だけが確認できるようにしたい場合、[プライベート]オプションを選択します。

注記

"SIMATIC Report Administrators"グループのユーザーは、プライベートなテンプレートを含めて、すべてのテンプレートを表示できます。

7. [保存]を選択します。

結果

パラメータの事前設定が作成されます。

パラメータの事前設定の再利用

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- パラメータの事前設定が作成されます。

手順

1. フォルダから、新しいレポートの作成基準となり、すでにパラメータの事前設定を作成済みのレポートテンプレートを選択します。
2. ドロップダウンリストを開きます。
3. 以前に作成されたパラメータの事前設定の 1 つを選択します。

3.4 ファンクション

結果

パラメータの事前設定が再利用され、[レポートの作成]ダイアログが格納済みの事前設定とともに開きます。

パラメータの事前設定の編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- パラメータの事前設定が作成されます。

手順

1. フォルダから、すでにパラメータの事前設定を作成したレポートテンプレートを選択します。
2. ドロップダウンメニュー[レポートの作成]を開きます。
3. [事前設定の管理]を選択します。
4. 編集したいパラメータの事前設定を選択します。
5. 保存された事前設定の編集、削除、増減が可能です。
6. [保存]を選択します。

結果

保存されたパラメータの事前設定が編集されました。

レポート生成

レポート生成

定義

レポート作成テンプレートは、メッセージ、タグ、詳細なレポート、アラーム統計およびバッチログのためのテンプレートに分かれます。テンプレートに応じて、さまざまな形式または表形式で表示されます。付属のテンプレートは、テンプレートのテンプレートとして想定されるもので、完了済みのレポートテンプレートを意図するものではありません。こうしたテンプレートは、レポート作成機能の概要を示すものです。

レポートテンプレート (ページ 190)

レポートテンプレートの設定方法について詳しくは、以下のリンクで参照できます。

レポート生成ツールバー (ページ 193)

注記

複数ページのレポートのオンラインプレビューの生成

複数ページのレポートのオンラインプレビューの生成時、最大ページの表示数は、レポートに表示された数と一時的に一致しない場合があります。

この動作はプレビューグラフィックスの生成メソッドにより引き起こされます。スケーリングのため、各ステップで 1000 ページまで生成されます。最初のページをすばやく表示するため、最初のステップには 25 ページだけ含まれます。

可能なデータソース

PCS 7 OS および WinCC の場合、OS サーバーおよび Process Historian のデータに直接アクセスが可能です。

PCS neo の場合、PCS neo Batch および Process Historian データへのアクセスは可能です。

注記

データソースに特有なレポートテンプレートの表示

接続されたデータソースと互換性のあるレポートテンプレートだけが、レポート機能に表示されます。

データレコードのフィールドの適応

"InfoServer"データソースを使用する SQL クエリを修正した後、Microsoft Report Builder は、フィールドの更新に関するエラーメッセージを表示します。Information Server により使用されている Custom Data Source ("ISRSE")に完全に対応していないためです。

クエリによる列の出力に変更がない場合、このエラーを無視して[OK]で確認します。変更がある場合は、最初にダイアログに表示されているフィールドを手動で調整し、列に適合するようにします。

レポートテンプレート

可能なデータソース

PCS 7 OS および WinCC の場合、OS サーバーおよび Process Historian のデータに直接アクセスが可能です。

PCS neo の場合、Process Historian データへのアクセスは可能です。

注記

データソースに特有のレポートテンプレートの表示

接続されたデータソースと互換性のあるレポートテンプレートだけがレポート機能に表示されます。

PCS neo データソースのメッセージやタグに対するレポート作成の制限

レポート作成の制限に準拠するために、レポートの時間範囲を小さくするか、集計されたタグの集計間隔を長くすることができます。

表形式のメッセージの制限:2500 のメッセージ

集計されていない表形式のタグの制限:10000 の値

集計されているタグの制限:10000 の間隔

メッセージのテンプレート

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
確認までの期間	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
1 日当たりのメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
発信元別のメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
優先度別のメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
10 分間ごとのメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo

優先度別のメッセージ数	円グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
確認までの平均時間	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
メッセージクラスによってフィルタされたメッセージ数	表	PCS 7 OS、WinCC
優先度別にソートされたメッセージ	表	PCS 7 OS、WinCC
タイムスタンプによりソートされたメッセージ	表	PCS 7 OS、WinCC
コメントされたメッセージ	表	PCS 7 OS、WinCC
メッセージクラス別のメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
確認までの全時間	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
終了までの全時間	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC

タグのテンプレート

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
トレンド	折れ線グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
集計マトリックス	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
マトリックス	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
集計表	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
表	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo

注記

集計の使用

集計値は、より迅速に表示でき、負荷がより小さいので、未処理値よりも扱いが簡単です。特により長期間にわたりレポートを作成する場合、未処理値よりも集計値の方がトレンドをよりよく認識できます。

注記

FAQ:Process Historian ベースのデータに関する Information Server 用のレポートテンプレートの作成

このアプリケーション例は、Process Historian (PH)および Information Server (IS)の基礎および動作原理について記述するものです。この例では、PH データベースからデータを迅速に読み取ることができるように各レポートを作成する方法について記述しています。さらに、Process Historian データベースを操作する方法について学習できます。

FAQ へのリンク (<https://support.industry.siemens.com/cs/document/64906050/creation-of-report-templates-for-the-information-server-based-on-process-historian-data-in-the-wincc-and-pcs-7-environment?dti=0&dl=en&lc=de-DE>)

詳細なレポート用のテンプレート

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
メッセージシーケンス	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
アナログ表	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
アナログ間隔	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
アナログ間隔(詳細)	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
アナログ手順	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
動作手順	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
動作時間	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
開閉周期	表	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo
トレンド	折れ線グラフ	PCS 7 OS、WinCC、PCS neo

注記

[運転時間]と[開閉周期]のテンプレート

[運転時間]と[開閉周期]のレポートテンプレートは、PCS neo 標準コンポーネントライブラリの[cntohsc]カウンタブロックのみで使用できます。

アラーム統計値のテンプレート

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
時間間隔ごとのメッセージ数	棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
領域別のメッセージ数	円グラフ	PCS 7 OS、WinCC

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
メッセージクラス別のメッセージ数	円グラフ	PCS 7 OS、WinCC
数量別のメッセージ数	表	PCS 7 OS、WinCC
状態別のメッセージ数	円グラフ	PCS 7 OS、WinCC
チャタリングメッセージ	表	PCS 7 OS、WinCC
1 日当たりのメッセージ数	表/棒グラフ	PCS 7 OS、WinCC
優先度別のメッセージ数	円グラフ	PCS 7 OS、WinCC

PCS neo Batch テンプレート

テンプレート	表示形式	可能なデータソース
PCS neo Batch バッチログ	バッチログ	PCS neo Batch

レポート作成のための時間制限

定義

初期設定では、レポート作成に対する時間制限が定義され、定義された時間間隔の後、レポートの作成は中断されます。

特に大きなレポートを作成している場合、時間制限による中断を避けるために、この時間制限を延長できます。

このためには、以下のインターネットサイトについてこの手順を実行します。<https://technet.microsoft.com/en-us/library/jj969577.aspx> (<https://technet.microsoft.com/de-de/library/jj969577.aspx>)

注記

「レポート実行タイムアウト期間の指定」および「ユーザーセッションタイムアウト期間の指定」の各説明について、特に注意してください。1 つのレポートまたはすべてのレポートの時間制限を調整できます。

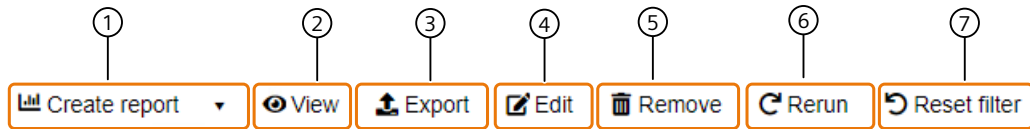
レポート生成ツールバー

定義

レポートツールバーには、レポートを編集できるあらゆる機能が含まれます。

構造

以下の機能が使用可能です。



- ① レポートの作成 (ページ 194) 新しいレポートを作成します。
- ② レポートの表示 (ページ 196) 表示モードで選択したレポートを開きます。
- ③ レポートのエクスポート (ページ 196) 選択したレポートをエクスポートします。
- ④ レポートの編集 (ページ 197) 選択したレポートを編集モードで開きます。
- ⑤ レポートの削除 (ページ 198) 選択したレポートを削除します。
- ⑥ (ページ 198)の再度実行 作成したレポートの概要を更新します。
- ⑦ フィルタのリセット (ページ 201) 選択したフィルタをリセットします。

順を追った説明

レポートの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。

手順

1. レポートテンプレートを選択します。
2. [レポートの作成]を選択します。
3. レポートテンプレートのパラメータを割り付けます。

注記

時間情報

レポートを作成する場合、[時間範囲]で[標準]または[相対]オプションを有効にすることで、絶対時間情報または相対時間情報を入力できます。選択可能な時間仕様とその例については、「時間仕様 (ページ 181)」を参照してください。

4. [レポートの作成]を選択します。
5. 名前とオプションでコメントを割り当てます。
6. 以下のオプションを有効/無効にします。
 - プライベート:このオプションを無効にすると、Information Server のすべてのユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。
 - オンラインレポート:このオプションを無効にすると、Web ブラウザで表示可能なオンラインレポートは生成できなくなります。
これによって、レポートサーバーの負荷が軽減し、したがってデータベースで使用する記憶域が減少します。
レポートを表示するには、レポートをダウンロードする必要があります。
 - クリーンアップ:データベースで使用可能な記憶域が小さすぎる場合に、レポートのクリーンアップ機能をリリースします。
 - エクスポートタイプ:このレポートのエクスポートフォーマットを選択します。
7. レポートを保存します。

結果

レポートが作成されます。

3.4 ファンクション

レポートの表示

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- レポートが作成されます。

手順

1. 表でレポートを選択してください。
2. [ビュー]を選択します。

結果

レポートが表示モードで表示されます。

レポートのエクスポート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- レポートが作成されます。

手順

1. 表でレポートを選択してください。
2. [エクスポート]を選択します。

注記**複数選択**

"Ctrl+Shift"キーを同時に押すと、概要で複数のレポートを同時に選択し、[エクスポート]ボタンを使用して、.zip ファイルとしてエクスポートできます。

結果

レポートがエクスポートされます。

注記

ファイル名には、レポートが作成された日付と時刻が含まれます。

レポートの編集**要件**

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- レポートが作成されます。

手順

1. 表でレポートを選択してください。
2. [編集]を選択します。
3. 変更を加えます。
4. [保存]を選択します。

結果

レポートが編集、保存されました。

3.4 ファンクション

レポートの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- レポートが作成されます。

手順

1. 表でレポートを選択してください。
2. [削除]を選択します。
3. [はい]を選択します。

注記

複数選択

"Ctrl+Shift"キーを同時に押すと、概要で複数のレポートを同時に選択し、[削除]ボタンを使用して同時に削除できます。

結果

レポートが削除されます。

レポートの再度実行

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- レポートが作成されます。

手順

1. 表でレポートを選択してください。
2. [繰り返す]を選択します。

結果

レポートが再度実行され、概要に表示されます。

列の表示/非表示

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

手順

1. 表の列設定を開きます。
2. [列]を選択します。
3. 表示/非表示にしたい列を有効化/無効化します。

結果

列が有効化/無効化されます。

列を昇順または降順にソート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

3.4 ファンクション

手順

1. ソートしたい列に移動します。
2. [列の設定]を選択します。
3. [昇順にソート]または[降順にソート]を選択します。

結果

列が昇順/降順でソートされます。

フィルタの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

手順

1. フィルタしたい列に移動します。
2. [列の設定]を選択します。
3. 最大 2 つの条件で選択した列に対してフィルタを設定します。

結果

フィルタが有効です。

フィルタのリセット

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- 1 つ以上のフィルタが、テーブルでパラメータ化されています。

手順

1. [フィルタのリセット]を選択します。

結果

テーブルのフィルタリングがリセットされます。

サブスクリプション

サブスクリプション

定義

サブスクリプションは、設定パラメータに従って定期的に生成されるレポートです。

- データを取得する
- データを評価する
- 指定したイベントの発生時にレポートをトリガする

サブスクリプションでは、相対時間が使用され、たとえば毎週または毎月など、特定のデータと比較できます。

時間情報 (ページ 181)

3.4 ファンクション

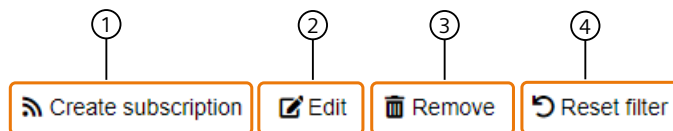
サブスクリプションツールバー

定義

ツールバーには、サブスクリプションを設定するためのすべての機能が含まれます。

構造

以下の機能が使用可能です。



- ① サブスクリプショ サブスクリプションを作成します。
ンの作成 (ページ 202)
- ② サブスクリプショ 選択したサブスクリプションを編集モードで開きます。
ンの編集 (ページ 204)
- ③ サブスクリプショ 選択したサブスクリプションを削除します。
ンの削除 (ページ 204)
- ④ フィルタのリセッ 選択したフィルタをリセットします。
ト (ページ 207)

順を追った説明

サブスクリプションの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。

手順

1. サブスクリプションを作成しているレポートテンプレートを選択します。
2. [サブスクリプションの作成]を選択します。
3. サブスクリプションの名前を入力します。

注記

名前が斜体で表示されているテキストフィールドはオプションです。

4. 必要に応じて以下の設定を無効にします。
サブスクリプションの設定 (ページ 211)
5. サブスクリプションに対してパラメータを選択します。

注記

対応するタグトリガ

タグに対してサブスクリプションを作成するとき、[サブスクリプションの作成]ダイアログで対応するタグトリガを定義されたパラメータに追加できます。これは[トリガ]タブで表示されます。これは、手順 6～8 と置き換えるものです。

6. [トリガ]タブを選択します。
7. [追加]によりトリガのリストを開きます。
8. トリガを使用して、レポートを作成する時期を指定します。
サブスクリプションのトリガ (ページ 207)
9. エクスポート形式を選択します。以下の形式が使用可能です。
 - PDF
 - Microsoft Excel
 - Microsoft Word
 - XML
 - Microsoft HTML
10. [パラメータ]タブでレポートパラメータを定義します。
11. [出力方法]タブで出力方法を選択します。
出力方法 (ページ 211)
12. [保存]を選択します。

結果

サブスクリプションが作成され、リストに表示されます。

3.4 ファンクション

サブスクリプションの編集

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- サブスクリプションが作成されます。

手順

1. サブスクリプションのリストで編集したいサブスクリプションを選択します。
2. サブスクリプションを編集します。
3. [保存]を選択します。

結果

サブスクリプションが編集されます。

サブスクリプションの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- サブスクリプションが作成されます。

手順

1. 作成したサブスクリプションのリストで削除したいサブスクリプションを選択します。
2. [サブスクリプションの削除]を選択します。

注記**複数選択**

Ctrl+Shift キーを同時に押して複数のサブスクリプションを選択し、[削除]ボタンを使用することで複数のサブスクリプションを同時に削除できます。

結果

サブスクリプションが削除されます。

列の表示/非表示**要件**

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

手順

1. 表の列設定を開きます。
2. [列]を選択します。
3. 表示/非表示にしたい列を有効化/無効化します。

結果

列が有効化/無効化されます。

3.4 ファンクション

列を昇順または降順にソート

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

手順

1. ソートしたい列に移動します。
2. [列の設定]を選択します。
3. [昇順にソート]または[降順にソート]を選択します。

結果

列が昇順/降順でソートされます。

フィルタの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- レポート機能が開いています。

手順

1. フィルタしたい列に移動します。
2. [列の設定]を選択します。
3. 最大 2 つの条件で選択した列に対してフィルタを設定します。

結果

フィルタが有効です。

フィルタのリセット

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- [レポート機能|レポートテンプレート|テンプレート]が開きます。
- サブスクリプションの表がフィルタされます。

手順

[サブスクリプション]エリアで、[フィルタのリセット]を選択します。

結果

表のフィルタがリセットされ、すべての作成済みのサブスクリプションがフィルタされずに表示されます。

サブスクリプションのトリガ

定義

トリガは、事前定義された操作を開始するために発生することが求められる事前定義されたイベントです。

サブスクリプションは次によってトリガされることがあります。

- 時間トリガ
- タグトリガ
- メッセージトリガ

注記

メッセージトリガは、MICREX-NX および WinCC データソース用にのみ利用できます。

時間トリガ

1 つ以上の固定時間によりサブスクリプションがトリガします。

1 回限りの時間トリガ

この時間トリガは、指定した時点で 1 回だけ起動します。

定期的な時間トリガ

定期的な時間トリガは、定義された時間パラメータによって周期的に起動されます。

以下の定期的なトリガを設定できます。

- "毎日"の頻度:

選択	説明
毎日	番号を入力します
1 日あたりの頻度	"1 回"または"定期的"
1 日あたりの頻度>1 回	時刻を選択します
1 日あたりの頻度>定期的	<ul style="list-style-type: none"> • 分または時間単位で遅延を指定します • 開始時と、オプションで終了時を定義します

- "毎週"の頻度:

選択	説明
毎週	番号を入力します
平日	曜日を選択します(複数選択可)
1 日あたりの頻度	"1 回"または"定期的"
1 日あたりの頻度>1 回	時刻を選択します
1 日あたりの頻度>定期的	<ul style="list-style-type: none"> • 分または時間単位で遅延を指定します • 開始時と、オプションで終了時を定義します

- "絶対"オフセットの"毎月"の頻度:

選択	説明
オフセット	"絶対"
月内の日付	1-31
毎月	番号を入力します
1 日あたりの頻度	"1 回"または"定期的"
1 日あたりの頻度>1 回	時刻を選択します
1 日あたりの頻度>定期的	<ul style="list-style-type: none"> • 分または時間単位で遅延を指定します • 開始時と、オプションで終了時を定義します

- "相対"オフセットの"毎月"の頻度:

選択	説明
オフセット	"毎月"
月内の週	週を選択します。第 1、第 2、第 3、第 4、または最終
平日	月内の週を選択します
1 日あたりの頻度	"1 回"または"定期的"
1 日あたりの頻度>1 回	時刻を選択します
1 日あたりの頻度>定期的	<ul style="list-style-type: none"> • 分または時間単位で遅延を指定します • 開始時と、オプションで終了時を定義します

注記

終日の定期的なサブスクリプション

定期的なレポートを 24 時間生成するサブスクリプションを作成したい場合は、00:00 を開始時間として定義します。

タグトリガ

選択したタグによりサブスクリプションがトリガします。

タグに対して以下のいずれかのイベントタイプを選択します。

- 変更時
- 上限

3.4 ファンクション

- 下限
- 上限値および下限値

注記**対応するタグトリガ**

タグに対してサブスクリプションを作成するとき、[サブスクリプションの作成]ダイアログで対応するタグトリガを定義されたパラメータに追加できます。これは[トリガ]タブで表示されます。

メッセージトリガ

選択したメッセージによりサブスクリプションがトリガします。

サブスクリプションの認証マトリックス**サブスクリプションの認証マトリックス**

パブリックサブスクリプションの認証マトリックス:

ユーザー	読み取り	書き込み	削除
オーナー	あり	あり	あり
管理者	あり	あり	あり
発行者	あり	あり	あり
ユーザー	なし	なし	なし
ビューア	なし	なし	なし

プライベートサブスクリプションの認証マトリックス:

ユーザー	読み取り	書き込み	削除
オーナー	あり	あり	あり
管理者	あり	あり	あり
発行者	なし	なし	なし
ユーザー	なし	なし	なし
ビューア	なし	なし	なし

出力方法

定義

[出力方法]タブで、作成したサブスクリプションの出力方法のいずれかを選択します。

レイアウト

以下のオプションが使用可能です。

- データベース内のみ:レポートは、データベース内にのみ保存されます。
- フォルダ:レポートは、ローカルに、またはネットワーク共有を通じてフォルダ内に保存されます。

注記

パラメータ%-ts%

ターゲットフォルダのファイル名は、指定ファイル名とタイムスタンプで構成されます。ファイル名を指定しない場合、サブスクリプション名とタイムスタンプが使用されます。指定したトリガを使用した後、レポートがターゲットフォルダに保存されます。常にそのファイルを現在のレポートで上書きする場合、ファイル名に<file name>%-ts%のキーを追加します。

このキーは、ターゲットフォルダのファイルのみを置き換えます。

- 電子メール:この電子メールには、添付ファイルとしてレポートが含まれます。電子メールの優先度は初期設定で[ノーマル]に指定されます。
- 電子メール(リンク):この電子メールには、指定したターゲットディレクトリ内のレポートへのリンクが含まれます。

注記

出力後の削除

オプション[出力後に削除]を選択した場合、レポートは正常出力後にデータベースから削除されます。[オンラインレポート]オプションは自動的に無効になります。

サブスクリプションの設定

定義

サブスクリプションの作成時に、記憶域のプライバシー、出力、または使用に関連する設定を行うことができます。

設定

設定	説明
プライベート	このオプションを無効にした場合、Information Server のすべてのユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。
有効	このオプションを無効にした場合、このサブスクリプションではレポートを提供できなくなります。
オンラインレポート	このオプションを無効にした場合、Web ブラウザで表示可能なオンラインレポートは生成できなくなります。 これによって、レポートサーバーの負荷が軽減し、したがってデータベースで使用される記憶域が減少します。 レポートを表示するには、レポートをダウンロードする必要があります。
レポートのクリーンアップ	データベースで使用可能な記憶域が小さすぎる場合に、レポートのクリーンアップ機能を提供します。

3.4.2.9 ダウンロード

ダウンロード

"ダウンロード"アプリにより Information Server Office アドインをコンピュータにインストールできます。

インストールで、以下のオプションを使用できます。

- SIMATIC Information Server をインストールしたときに Microsoft Office アドインをインストールした。
- Web アプリケーションの[Download]アプリから直接アドインをインストールする。
Office アドインのインストール (ページ 213)

注記

インストール要件に注意してください。

Office アドインのインストール要件 (ページ 65)

順を追った説明

Web アプリケーションで Office アドインをインストール

必要条件

Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。

手順

1. アドインをインストールするためのすべての必要条件を満たしていることを確認します。
Office アドインをインストールするための必要条件 (ページ 65)

注記

Office アドイン用にセットアップを実行する前に、すべての Windows プログラムを閉じます。

2. Web アプリケーションから Office アドインをダウンロードします。
Web アプリケーションからの Office アドインのダウンロード (ページ 82)
3. アドインのインストールのセットアップを実行します。
4. Office アドインを Information Server に接続します。
Office アドインと Information Server に保存された証明書との接続 (ページ 83)

結果

Office アドインがアンインストールされました。

3.4 ファンクション

Office アドインを開く (ページ 264)

注記

HTTP プロキシ

HTTP プロキシを要求し、Information Server web アプリケーションまたは Information Server Excel アドインを使用するすべてのコンピュータに対してこの設定を追加で実行する必要があります。

1. スタートメニューから[インターネットオプション]ダイアログを開きます。
 2. [インターネットのプロパティ]ダイアログで、[接続]タブを選択します。
 3. [LAN 設定]を選択します。
 4. オプション[プロキシサーバー]を有効にします。
 5. [詳細]を選択します。
 6. [拡張]で、Information Server コンピュータの完全な FQDN 名を入力します。
この名前は、HTTPS 証明書の CN と一致します(上記参照)。
 7. 入力を確認します。
-

3.4.2.10 管理

管理

定義

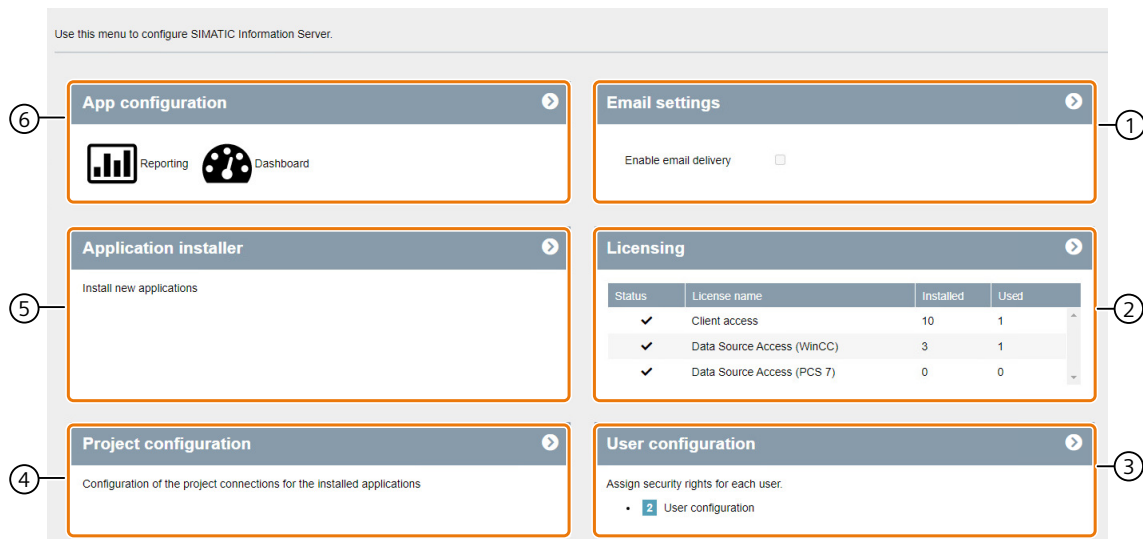
管理アプリで Information Server の中央設定を行います。

管理は以下の領域から構成されます。

- プロジェクトの設定
- ユーザー設定
- アプリの設定
- 電子メールの設定
- ライセンス
- アプリのインストール

構造

管理の構造は以下のとおりです:



- ① 電子メールの設定 電子メールの設定を開きます。
(ページ 231)
- ② ライセンス (ページ 242) ライセンスの概要を開きます。
- ③ ユーザー設定 (ページ 253) ユーザー設定を開きます。
- ④ プロジェクトの設定 プロジェクト設定を開きます。
(ページ 245)
- ⑤ アプリのインストール アプリのインストールを開きます。
(ページ 241)
- ⑥ アプリの設定 レポート作成のための設定で、以下を編集:
 - レポートテンプレート
 - レポートのクリーンアップ (ページ 224)
 ダッシュボードのために設定でマスタページを編集します。
 - マスタページ (ページ 216)

3.4 ファンクション

Information Server のドメインへの後続の統合

必要条件

- ドメイン内で管理者権限を持っていること。
- ローカル Windows ユーザーグループで管理者として入力されていること。

手順

1. Information Server がインストールされているコンピュータをドメインに追加します。
2. 新しいドメインユーザーを作成します。

注記

データソースにアクセスできる Information Server を実行するための指定されたサービスユーザーがすでに存在する場合、この手順は必要ありません。

3. 新しいドメインユーザーを "SIMATIC Report Administrators" および "SIMATIC Report Services" グループに追加します。
4. SIMATIC Web Configurator を起動します:
C:\Program Files\Siemens\InformationServer\ConfigurationManager
ConfigurationManager.exe
5. サービス構成ダイアログで、ステップ 2 のドメインユーザー資格情報を指定します。
6. システムを再起動します。
7. ドメインユーザーの資格情報を使用してログインし、Web ブラウザーの設定を構成します。
Information Server のためのブラウザ設定 (ページ 72)

結果

最初のログオン操作は、Windows ユーザーグループと組み合わせて、データベースに新しいプロファイルを作成します。

ダッシュボードアプリの設定

マスタページ

定義

選択したマスタページで、ダッシュボードのレイアウトを定義します。

ダッシュボードレイアウトに対して任意の数のマスターページを作成、設定、割り付けできます。

マスターページのツールバー

定義

ツールバーには、ダッシュボードのマスターページを設定するためのすべての機能が含まれます。

構造

[管理|設定|ダッシュボード]には、以下の機能が含まれます。



- ① マスターページの作成 マスターページを作成します。
成 (ページ 218)
- ② マスターページの削除 選択したマスターページを削除します。
除 (ページ 218)
- ③ マスターページの保存 マスターページを保存します。
存 (ページ 219)
- ④ マスターページの複製 選択したマスターページを複製します。
製 (ページ 219)
- ⑤ マスターページのエクスポート 選択したマスターページをエクスポートします。
クスポート (ページ 220)
- ⑥ マスターページのインポート 既存のマスターページをインポートするためのダイアログを開きます。
ンポート (ページ 220)

3.4 ファンクション

順を追った説明

マスタページの作成

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。

手順

1. [作成]を選択します。
2. タイトルを割り付けます。
3. オプションで背景色を選択します。
4. オプションでフォント色を選択します。
5. オプションでヘッダを設定します。
マスタページのヘッダの設定 (ページ 221)
6. オプションでフッタを設定します。
マスタページのフッタの設定 (ページ 221)

結果

マスタページが作成されます。

マスタページの削除

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。
- マスタページが作成されます。

手順

削除するマスタページを選択します。

結果

選択したマスタページが削除されます。

マスタページの保存

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。
- マスタページが編集されます。

手順

[保存]を選択して、マスタページの変更を保存します。

結果

マスタページへの変更が保存されます。

マスタページの複製

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。
- マスタページが作成されます。

手順

1. 複製するマスタページを選択します。
2. [複製]を選択します。

結果

選択したマスタページが複製されます。

3.4 ファンクション

マスターページのエクスポート

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。
- マスターページが作成されます。

手順

1. エクスポートしたいマスターページを選択します。
2. [エクスポート]を選択します。

結果

マスターページがローカルの保存場所にエクスポートされます。

マスターページのインポート

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード]が開いている。
- マスターページがローカルに保存されます。

手順

1. [インポート]を選択します。
2. [ファイルの選択]を使って、インポートするファイルを選択します。
3. 選択を確認して、[インポート]をクリックします。

結果

マスターページがインポートされ、オーバービューに表示されます。

マスタページのヘッダの設定

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード|再生]が開いている。

手順

1. マスタページのデフォルトヘッダにグラフィックを追加したい場合は、[イメージを使用]を有効にします。

注記

ヘッダー行が不要な場合、[ヘッダーなし]を有効化します。

初期設定では、ヘッダーにはタイトルと説明のプレースホルダが含まれます。

2. イメージのフィールドを選択し、ダイアログでアップロードする対応するイメージを開き、イメージをヘッダにアップロードします。
3. ヘッダーのカスタムレイアウトを作成したい場合、[ユーザー定義ヘッダーを使用]を有効化します。
4. ヘッダーのテキストを入力し、入力ウィンドウのツールを使ってテキストの書式を設定します。
 - 太字、斜体または下線
 - 右に揃える、中央揃え、左に揃える
 - リストまたは列挙型
 - インデント
 - ハイパーリンク、イメージまたは表
 - ダッシュボードのタイトル、説明、および現在の日付のプレースホルダ

結果

マスタページのヘッダが設定されます。

マスタページのフッタの設定

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|ダッシュボード|再生]が開いている。

3.4 ファンクション

手順

1. マスタページのフッターにユーザー定義のレイアウトを使用したい場合、[ユーザー定義のフッターを使用]ボタンを選択します。

注記

フッターが不要な場合、[フッターなし]を有効化します。

初期設定では、フッターは非表示です。

2. イメージのフィールドを選択し、ダイアログでアップロードする対応するイメージを開き、イメージをフッターにアップロードします。
3. フッターにユーザー定義のレイアウトを使用したい場合、[ユーザー定義のフッターを使用]ボタンを有効にします。
4. フッターのテキストを入力し、入力ウィンドウのツールを使ってテキストの書式を設定します。
 - 太字、斜体または下線
 - 右に揃える、中央揃え、左に揃える
 - リストまたは列挙型
 - インデント
 - ハイパーリンク、イメージまたは表
 - ダッシュボードのタイトル、説明、および現在の日付のプレースホルダ

結果

マスタページのフッターが設定されます。

レポート機能アプリの設定

レポート機能(管理)

定義

レポート生成では、メッセージ、タグ、拡張レポート、アラーム統計およびバッチレポートのための **Web** アプリケーションで、異なるレポートテンプレートを使用できます。

次の機能は、[管理|レポート機能]エリアで、既存のレポートテンプレート用に使用できます。

- ソート
- エクスポート/インポート
- 表示/非表示

- レポートテンプレートのフォルダの作成/削除
- レポートテンプレートのフォルダの表示/非表示

Report Clean Up により、最適なストレージの使用の設定を行うことができます。

レポートのクリーンアップ (ページ 224)

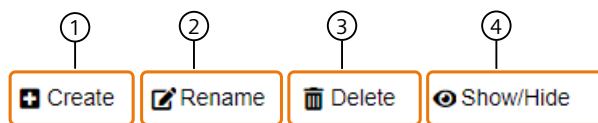
レポート機能のツールバー(管理)

定義

ツールバーには、レポートテンプレートの設定に対応する機能がすべて含まれます。

構造

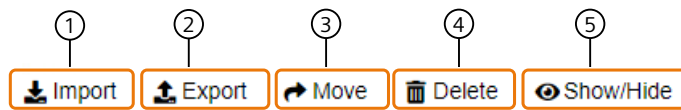
次の機能はフォルダで使用できます。



- | | | |
|---|-----------------------|----------------------------|
| ① | フォルダの作成 (ページ 225) | 新しいフォルダを作成します。 |
| ② | フォルダ名の変更 (ページ 225) | 選択したフォルダの名前に対して編集モードで開きます。 |
| ③ | フォルダの削除 (ページ 226) | 選択したフォルダを削除します。 |
| ④ | フォルダの表示/非表示 (ページ 226) | 選択したフォルダの表示/非表示 |

次の機能は、レポートテンプレート用に使用できます。

3.4 ファンクション



- ① レポートテンプレートのインポート レポートテンプレートをインポートします。
ト。(ページ 227)
- ② レポートテンプレートのエクスポート 選択したレポートテンプレートをエクスポートし
ト (ページ 228) ます。
- ③ レポートテンプレートの移動 (ページ 228) 選択したレポートテンプレートを移動します。
- ④ レポートテンプレートの削除 (ページ 229) 選択したレポートテンプレートを削除します。
- ⑤ レポートテンプレートの表示/非表示 選択したレポートテンプレートの表示/非表示
表示 (ページ 229)

下記も参照

記憶域の設定 (ページ 230)

レポートのクリーンアップ

定義

レポートのクリーンアップでは、レポートを格納するための制限を設定できます。この制限に到達した場合、データベースまたはディスク領域は、レポート機能を停止するか、またはレポートをエクスポートもしくは削除することにより、自動的に解放されます。

アプリケーションの推奨値

記憶域の設定 (ページ 230)

順を追った説明

フォルダの作成

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. [作成]を選択します。
2. 新規フォルダの名前を入力します。
3. [保存]を選択します。

結果

フォルダが作成されている。

フォルダ名の変更

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 名前を変更するフォルダを選択します。
2. [名前の変更]を選択します。
3. 新規の名前を入力します。
4. [保存]を選択します。

結果

フォルダの名前が変更されます。

3.4 ファンクション

フォルダの削除

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 削除するフォルダを選択します。
2. "削除"を選択します。
3. [はい]でセキュリティプロンプトを確認します。

結果

フォルダが削除されます。

フォルダの表示/非表示

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 表示/非表示にするフォルダを選択します。
2. [表示/非表示]を選択します。

結果

フォルダが表示/非表示になります。

レポートテンプレートのインポート。

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

注記

レポートテンプレートのインポート

これは、SQL インジェクションに関連するセキュリティ上のリスクに結びつく可能性があるために、自身で作成したレポートテンプレートであること、または外部から取得するレポートテンプレートに自由形式のテキストパラメータが含まれないことを確認してください。

手順

1. [インポート]を選択します。
2. [ファイルの選択]フォルダでローカルの保存場所からファイルを選択します。

注記

ファイル形式

レポートテンプレートは以下の形式のファイルに格納できます。

- SQL Server Reporting Services のレポート用の.rdl (.rdl = レポート定義)
- Excel レポート用の.ert (.ert = Excel レポートテンプレート)

同名のレポートテンプレートのインポート

Web アプリケーションに同名のレポートテンプレートがすでに存在するレポートテンプレートをインポートすると、Web アプリケーション内のレポートテンプレートは確認なしでインポートしたレポートテンプレートによって上書きされます。

3. 選択を確認して、[開く]をクリックします。

結果

レポートテンプレートがインポートされます。

3.4 ファンクション

レポートテンプレートのエクスポート

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. エクスポートしたいテンプレートを選択します。
2. [エクスポート]を選択します。

結果

レポートテンプレートがローカルの保存フォルダにエクスポートされます。

レポートテンプレートの移動

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 移動するテンプレートを選択します。
2. [移動]を選択します。
3. [テンプレートの移動]ダイアログで新しいロケーションを選択します。
4. [OK]をクリックして確認します。

結果

レポートテンプレートが新たなロケーションに移動します。

レポートテンプレートの削除

要件

- SIMATIC Report Administrators Windows ユーザーグループのメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 削除するテンプレートを選択します。
2. "削除"を選択します。
3. [はい]でセキュリティプロンプトを確認します。

結果

レポートテンプレートが削除されます。

レポートテンプレートの表示/非表示

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|テンプレート]が開きます。

手順

1. 表示/非表示にするテンプレートを選択します。
2. [表示/非表示]を選択します。

結果

レポートテンプレートが表示/非表示になります。

3.4 ファンクション

記憶域の設定

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|設定|レポート機能|レポートのクリーンアップ]が開きます。

手順

1. "レポートのクリーンアップ"の有効化
2. 時間トリガ、サイズ制限、または双方に到達した場合に、レポートのクリーンアップをトリガするかどうかを指定します。

トリガ	設定
時間	<ul style="list-style-type: none"> • 1 回:レポートのクリーンアップの 1 回限りのトリガ • 定期的:レポートのクリーンアップについて以下を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> – 開始 – 終了(オプション) – 頻度
データベースのサイズ制限	<ul style="list-style-type: none"> • 最大サイズを MB 単位で入力します

3. トリガの開始時に実行されるアクションを選択します。

アクション	設定
レポート生成の停止	-
レポートの削除/ レポートのエクスポート	<ul style="list-style-type: none"> • クリーンアップの対象を選択: 作成時に、レポートのクリーンアップの優先順位についてレポートおよびサブスクリプションを選択できます。これによって、重み付けによるレポートのクリーンアップが可能になります。 • すべて: レポートのクリーンアップですべてのレポートが同一に扱われます。

4. "エクスポートレポート"アクションでレポートをエクスポートできるフォルダのパスを指定します。

注記

フォルダは、データベースが配置されているドライブ上になくてもかまいません。

5. [レポートの削除]および[レポートのエクスポート]アクションで、レポートが削除またはエクスポートされる日数を指定します。

注記

"0"を入力すると、レポートのクリーンアップを継続的に実行します。

6. [保存]を選択します。

結果

記憶域が設定されました。

電子メールの設定**電子メールの設定****定義**

電子メールにより Information Server レポートを送信するための SMTP サーバーの設定を指定します。

アプリケーションの推奨値

電子メールの設定 (ページ 231)

電子メール設定の試験 (ページ 240)

電子メール設定の工場出荷時設定へのリセット (ページ 241)

順を追った説明**電子メールの設定****要件**

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。

3.4 ファンクション

手順

1. 電子メール送信を有効にします。
2. 電子メールプロバイダをリストから選択します。
3. 選択に必要な情報を入力します。
 - 汎用電子メール設定の構成 (ページ 232)
 - Gmail アカウントの電子メール設定 (ページ 234)
 - Office 365 アカウントの電子メール設定 (ページ 233)
4. [保存]を選択します。

結果

電子メール設定が作成されます。

注記

[設定のテスト]ボタンを押すことにより、入力をテストできます。テスト用の電子メールが格納済みの電子メールアドレスに送信されます。[リセット]を使用すると、元の状態に戻り、再度設定を入力できます。

電子メール設定のテスト (ページ 240)

電子メール設定の工場出荷時設定へのリセット (ページ 241)

汎用電子メール設定の構成

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理]電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[汎用]が選択されていること。

手順

1. 電子メールを送信するサーバーのサーバー IP アドレスまたはホスト名を入力します。
2. 選択:
 - ポート
 - ユーザー名およびパスワード
 - 電子メールアドレスは、電子メールの受信者に対して送信者として表示される電子メールアドレスです。
3. [保存]を選択します。

結果

汎用電子メールアカウントの電子メール設定が作成されました。

テスト電子メールを送信して、設定をテストできます。

Office 365 アカウントの電子メール設定

要件

- Windows ユーザーグループ "SIMATIC Report Administrators" のメンバーである。
- [管理|電子メール設定] が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで [Office 365] が選択されていること。
- [Microsoft 365 Developer Program] に登録されていること。
Developer Program (<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-365/dev-program>)

手順

1. アプリケーションを作成します。
アプリケーションの作成 (ページ 234)
2. クライアントの秘密を生成します。
クライアントの秘密の生成 (ページ 235)
3. API 権限を追加します。
API 権限の追加 (ページ 236)
4. Information Server で電子メール設定を構成します。
IS で電子メール設定を構成 (Office 365) (ページ 237)

結果

Office 365 の電子メール設定が作成されました。

テスト電子メールを送信して、設定をテストできます。

Gmail アカウントの電子メール設定

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Gmail]が選択されていること。
- [Google API およびサービス (<https://console.developers.google.com//XmlEditor.InternalXmlClipboard:4384213f-03bd-06e4-c704-bf7e9539203d>)]ページが開き、既存の Gmail アカウントを使用してログインします。

手順

1. Gmail API タームを有効にします。
Gmail API の有効化 (ページ 238)
2. [OAuth 同意画面]を設定します。
[OAuth 同意画面]の設定 (ページ 238)
3. [資格情報]を作成します。
[資格情報]を作成します。 (ページ 239)
4. Information Server で電子メール設定を構成します。
IS で電子メール設定を構成(Gmail) (ページ 240)

結果

Gmail アカウントの電子メール設定が作成されました。

テスト電子メールを送信して、設定をテストできます。

注記

[設定のテスト]ボタンを押すことにより、入力をテストできます。テスト用の電子メールが格納済みの電子メールアドレスに送信されます。[リセット]を使用すると、元の状態に戻り、再度設定を入力できます。

アプリケーションの作成

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。

- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Office 365]が選択されていること。
- [Microsoft 365 Developer Program]に登録されていること。
Developer Program (<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-365/dev-program>)

アプリケーションの作成

1. Azure スタートページへの以下のリンクを開きます。
Azure ホームページ (<https://portal.azure.com>)
2. メニューの[Azure Active Directory]を選択します。
3. [アプリの登録]メニューで、[アプリケーションの登録]オプションを選択します。
4. 登録のためフィールドに入力します。
 - アプリケーションに名前を割り付けます。
 - [組織ディレクトリのアカウント(Azure AD ディレクトリマルチテナント)および個人の Microsoft アカウント(Skype 等)]を選択します。
 - ドロップダウンメニューの[リダイレクト URI]の下で、オプション[Web]をアプリケーションタイプとして選択します。
 - Information Server の Web アプリケーションのアプリ管理の[電子メール設定]ダイアログの最後の行から必要なアドレスをコピーします。
5. データ生成に対する[登録]を確認します。

注記

概要で、Information Server Web アプリケーションの電子メール設定を完了するために、以降の手順で必要なクライアント ID およびテナント ID を参照できます。

結果

アプリケーションが作成されます。

クライアントの秘密の生成

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。

3.4 ファンクション

- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Office 365]が選択されていること。
- [Microsoft 365 Developer Program]に登録されていること。
Developer Program (<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-365/dev-program>)

クライアントの秘密の生成

1. [Azure Active Directory]管理[アプリ登録]所有アプリケーション]で、作成したアプリケーションを開きます。
アプリケーションの概要が開きます。
2. [証明書および秘密]メニューエントリで、[新しいクライアントの秘密]を選択します。
[クライアントの秘密の追加]ページが開きます。
3. 説明を入力し、[期限]オプションを選択します。
4. [追加]で確認します。
作成された生成ドキュメントが概要に表示されます。
5. 生成されたドキュメントの値を Information Server の電子メール設定にコピーします。

結果

クライアントの秘密が生成されます。

API 権限の追加

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理]電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Office 365]が選択されていること。
- [Microsoft 365 Developer Program]に登録されていること。
Developer Program (<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-365/dev-program>)

API 権限を追加

1. [Azure Active Directory]管理[API 権限]を開きます。
2. [権限を追加]を選択します。

3. [Microsoft Graph]を選択します。
4. [権限を削除]を選択します。
5. 次の権限を追加します:
 - Mail.Send:ユーザーとしてメールを送信
 - openid:ユーザーサインイン
 - User.Read:サインインしユーザープロフィールを読み取る

結果

API 権限が追加されます。

IS で電子メール設定を構成(Office 365)

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Office 365]が選択されていること。
- [Microsoft 365 Developer Program]に登録されていること。
Developer Program (<https://developer.microsoft.com/en-us/microsoft-365/dev-program>)

IS で電子メール設定を構成

1. [管理|電子メール設定]を開きます。
2. 設定を有効にします。
3. Azure を使用して以前の手順で作成した必須情報を挿入します。
4. [認証トークンの取得]を選択します。
5. 必要な Microsoft 資格情報を入力します。
6. 必要な認証を受け入れます。
7. [保存]を選択します。

結果

IS の電子メール設定が構成されました。

Gmail API の有効化

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理]電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Gmail]が選択されていること。
- [Google API およびサービス (<https://console.developers.google.com//XmlEditor.InternalXmlClipboard:4384213f-03bd-06e4-c704-bf7e9539203d>)]ページが開き、既存の Gmail アカウントを使用してログインします。

Gmail API の有効化

1. サイドバーで[ダッシュボード]を選択します。
2. [プロジェクトの作成]を選択します。
プロジェクトが既に作成されている場合、既存のプロジェクトを選択します。手順 4 に進みます。
3. 必要なデータを入力し、[作成]を選択します。
4. 作成したプロジェクトをメニューバーから選択します。
5. [API およびサービスを有効化]を選択します。
6. [Gmail API]をリストから選択します。
7. [有効化]で、Gmail API の選択を確定します。

結果

Gmail API が有効になりました。

[OAuth 同意画面]の設定

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理]電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Gmail]が選択されていること。
- [Google API およびサービス (<https://console.developers.google.com//XmlEditor.InternalXmlClipboard:4384213f-03bd-06e4-c704-bf7e9539203d>)]ページが開き、既存の Gmail アカウントを使用してログインします。

[OAuth 同意画面]の設定

1. サイドバーで、[OAuth 同意画面]を選択します。
2. [ユーザータイプ|外部]を選択し、[作成]で確定します。
3. 下記では、[アプリ名]および[ユーザーサポート電子メール]を入力します。
4. [開発者連絡先情報]に電子メールアドレスを入力します。
5. [保存して続行]で確定します。

結果

作成されたアプリケーションは、[OAuth 同意画面]ページの概要で表示できます。

[資格情報]を作成します。

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Gmail]が選択されていること。
- [Google API およびサービス (<https://console.developers.google.com//XmlEditor.InternalXmlClipboard:4384213f-03bd-06e4-c704-bf7e9539203d>)]ページが開き、既存の Gmail アカウントを使用してログインします。

[資格情報]の作成

1. サイドバーで[資格情報]を選択します。
2. メニューバーから[資格情報を作成]を選択し、[OAuth クライアント ID]を選択します。
3. 次のフィールドに記入します:
 - アプリケーションタイプ:Web アプリケーション
 - 名前
 - 認証されたリダイレクト URI:[電子メール設定ダイアログ|リダイレクト URI]からコピーします。
4. [作成]をクリックして確認します。

結果

クライアントデータ[ClientID]および[ClientSecret]が[資格情報]に作成されます。

IS で電子メール設定を構成(Gmail)

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開かれていること。
- 電子メール送信が有効にされ、電子メールプロバイダで[Gmail]が選択されていること。
- [Google API およびサービス (<https://console.developers.google.com//XmlEditor.InternalXmlClipboard:4384213f-03bd-06e4-c704-bf7e9539203d>)]ページが開き、既存の Gmail アカウントを使用してログインします。

IS で電子メール設定を構成

1. [管理|電子メール設定]を開きます。
2. 設定を有効にします。
3. Azure を使用して以前の手順で作成した必須情報を挿入します。
4. [認証トークンの取得]を選択します。
5. 必要な Microsoft 資格情報を入力します。
6. [詳細|siemens.net に進む(安全ではありません)|許可]で必要な認証を受け入れます。
7. [許可]で認証を確定します。
8. [保存]を選択します。

結果

IS の電子メール設定が構成されました。

電子メール設定の試験

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開きます。
- 電子メール設定が作成されます。

手順

[テストの設定]ボタンを選択します。

結果

テスト用の電子メールが格納済みの電子メール アドレスに送信されます。

電子メール設定の工場出荷時設定へのリセット

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|電子メール設定]が開きます。
- 電子メールが設定されました。

手順

[リセット]を選択します。

結果

電子メール設定が元の状態に復帰し、再度設定を入力できます。

アプリケーションインストーラ

アプリケーションインストーラ

定義

アプリケーションインストーラは、Web アプリケーションでアプリを更新するためのウィザードです。Web アプリケーションを開いたときに、アプリが最新でない場合、アプリケーションインストーラの開始ページに自動的に転送されます。

すべてのアプリが最新である場合、概要はアプリの現在のバージョンに関する情報を提供します。

3.4 ファンクション

順を追った説明

アプリケーションインストーラの使用

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|アプリケーションインストーラ]が開きます。

手順

[アプリケーションのインストールまたは更新]を選択します。

結果

アプリケーションインストーラのアプリケーションがインストールまたは更新されます。

ライセンス

ライセンス

ライセンスの種類

以下の製品を使用できます。

PCS 7 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS 7 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server 基本パッケージ	6ES7652-7EX68-2YB0 6ES7652-7EX68-2YH0
Information Server (1 クライアント)	6ES7652-7YA00-2YB0 6ES7652-7YA00-2YH0
Information Server (3 クライアント)	6ES7652-7YB00-2YB0 6ES7652-7YB00-2YH0

製品	注文番号(MLFB)
Information Server (5 クライアント)	6ES7652-7YC00-2YB0 6ES7652-7YC00-2YH0
Information Server データソースアクセス(1 ソース)	6ES7652-7YE00-2YB0 6ES7652-7YE00-2YH0
Information Server データソースアクセス(3 ソース)	6ES7652-7YF00-2YB0 6ES7652-7YF00-2YH0
パッケージ Process Historian と Information Server を V9.0 から V9.1 にア ップグレード	6ES7652-8AX68-2YE0 6ES7652-8AX68-2YH0

WinCC 向け製品

SIMATIC Information Server は WinCC 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Process Historian と Information Server 2020 SP1、 ソフトウェアメディアパッケージ	6ES7652-7AX68-0YT8 6ES7652-7AX68-0YH8

注記**MLFB 番号**

2YB0/2YE0/2YT8 で終わる MLFB 番号は商品の配送です。

2YH0/0YH8 で終わる MLFB 番号は OSD 配送(ダウンロード)です。

PCS neo 向け製品

SIMATIC Information Server は PCS neo 向けに以下の製品を提供します。

製品	注文番号(MLFB)
Information Server	6DL8906-0AC10-0AB5
Information Server クライアントアクセス	6DL8906-0BC10-0AB5

クライアントのリスト

クライアントには以下が含まれます。

- Information Server に接続する任意のブラウザ

クライアントアクセス用のライセンスカウント

Information Server の個々のアクティブクライアント接続で、ライセンスが必要です。クライアントの数は PC の数に依存し、PC で開いているアプリケーションの数ではありません。複数のレポートクライアントが PC から Information Server に接続しても、必要なのはライセンス 1 つです。

クライアントライセンスの割り付け:

- インターネットブラウザ/Web アプリケーションを介した Information Server との接続
- サーバーが 1 つのソースとして識別できない様々な URL の使用

クライアントライセンスのリリース:

- Web アプリケーションからログアウトした
- 操作がない状態で 20 分経過した

トライアルライセンス

Information Server のセットアップも、トライアルライセンスをインストールします。トライアルライセンスは、ライセンスクエリで選択できます。

- 14 日間の有効期間
- 初めて使用する日から 14 日間

フルライセンスをインストールすると評価版は完全版になります。再インストールは必要ありません。

順を追った説明

ライセンスの確認

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ライセンス]が開いている。

手順

有効なサーバーライセンス情報を使用しているか確認するために、表のステータスをチェックします。

結果

現在のライセンスがチェックされます。

プロジェクトの設定

プロジェクトの設定

定義

プロジェクト設定で、レポート機能およびダッシュボードでデータソースとして使用する既存のプロジェクトを編集するか、新規プロジェクトを作成します。フォルダ構造でデータソースを選択すると、作業領域内のデータソースのメタデータ(作成日、バージョン、プロジェクトタイプなど)が表示されます。

以下の機能が使用可能です。

- 新しいフォルダを作成します
- プロジェクトの追加
- プロジェクト名の変更
- プロジェクトの削除

注記

プロジェクトアーカイブ

たとえば使用可能なプロジェクトを選択すると、プロジェクトタイプを確認できます。PCS neo

レポート作成時にデータソースを割り当てることができるよう、同じ名前のプロジェクトにエイリアスを割り当てます。

同期

同期することで、Information Server データベースに保存されているデータソースの DataHost サービスへの手動転送をトリガします。DataHost サービスには、このデータに対する独立したデータアーカイブがあります。

例えば、Webframe データベースの設定データが手動で変更されたか DataHost 設定が壊れた場合などに、同期が必要になります。

診断の実行

診断実行は、次の情報を提供します。

- **DataHost:Information Server** にインストールされた **DataHost** サービスが正常に動作しているかを確認します。このサービスは、変数の参照などに使用されます。
- **トリガサービス:データソース** にインストールされた **IS Ready** トリガサービスが正常に動作しているかを確認します。このサービスは、変数トリガの作成などに使用されます。
- **更新サービス:データソース** にインストールされた **IS Ready** 更新サービスが正常に動作しているかを確認します。これは、**DataHost** サービスへの通信に必要なデータソースでの設定変更の検出を行います。
- **RuntimeData** サービス:データソースにインストールされた **IS Ready** ランタイムデータサービスが正常に動作しているかを確認します。これは、ダッシュボードの特定のランタイムデータの問い合わせ時に使用されます。
- **診断サービス:データソース** にインストールされた診断サービスが正常に動作しているかを確認します。これは、エラー状態の評価と問い合わせに対応します。
- **バッチ:DataHost** によって要求された **Information Server** バッチのストアードプロシージャが **HistorianStorage** データベースに正常にインストールされたかどうかを確認します。
- **組織構造の一貫性:参照されたプロジェクト** が **HistorianStorage** データベースに依然として存在するかどうかを確認します。
- **特性モニタのストアードプロシージャ:特性モニタ DataHost プラグイン** によって要求されたストアードプロシージャが正常にインストールされているかどうかを確認します。

ホストの変更

PH や WinCC などのプロジェクトを別のコンピュータに移動する場合、ホストをそれに応じて調整する必要があります。

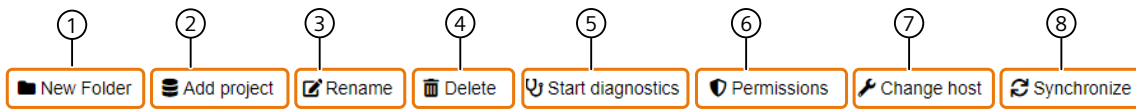
プロジェクト設定のツールバー

定義

ツールバーには、プロジェクト設定のすべての機能が含まれます。

構造

以下の機能が使用可能です。



- ① 新しいフォルダを作成します 新しいフォルダを作成します。
(ページ 248)
- ② プロジェクトの追加 (ページ 248) 新しいプロジェクトを追加します。
- ③ プロジェクト名の変更 (ページ 249) 選択したプロジェクトの名前を変更します。
- ④ プロジェクトの削除 (ページ 250) 選択したプロジェクトを削除します。
- ⑤ 診断の開始 (ページ 251) 診断を開始します。
- ⑥ 認証の割り付け (ページ 251) 認証を設定するためのダイアログが開きます。
- ⑦ ホストの変更 (ページ 252) ホストを変更するためのダイアログボックスが開きます。
- ⑧ シミュレーションの開始 (ページ 247) 入力を同期します。

順を追った説明

シミュレーションの開始

要件

- Information Server の管理権限を持っていること。
- [管理|プロジェクト設定]が開いている。

手順

[同期]を選択します。

結果

同期化が完了します。

3.4 ファンクション

新しいフォルダを作成します

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Publishers"のメンバーである。これによってデータソース、たとえば Process Historian データベースに接続できます。
- "SIMATIC Report Services"グループのユーザーは、Information Server およびデータソースが位置する PC の両方に作成する必要があります。
ユーザーは、データソースのある PC 上で SIMATIC HMI 権限を持つ必要があります。
- Process Historian が有効化済みである。
- [管理|プロジェクト構成]が開いている。

手順

1. [新規フォルダ]を選択します。
2. 名前を割り付けます。
3. [保存]を選択します。

結果

プロジェクトの新規フォルダが作成され、階層に表示されます。

プロジェクトの追加

要件

- Information Server の管理権限を持っていること。
- [管理|プロジェクト設定]が開いている。

手順

1. [プロジェクトの追加]を選択します。
2. データソースタイプを選択し、ホスト名を入力します。

注記

WinCC プロジェクトに関連する、正しいデータソースを選択するよう注意してください。

設定例	使用するデータソースタイプ	サーバー名
PCS 7/WinCC、Process Historian なし	SIMATIC PCS 7/WinCC	プライマリ OS のサーバー名
PCS 7/WinCC、Process Historian あり	SIMATIC Process Historian	Process Historian のサーバー名

3. [プロジェクトの選択]を選択します。

データソースタイプ	
SIMATIC PCS 7/WinCC	データソースの名前を選択します。
他のデータソースタイプ	追加したいプロジェクトを選択し、名前を入力します。

4. [追加]を選択します。

結果

- 1 つまたは複数のプロジェクトが追加されました。

プロジェクト名の変更

要件

- Windows ユーザーグループ "SIMATIC Report Administrators" または "SIMATIC Report Publishers" のメンバーである。これによってデータソース、たとえば Process Historian データベースに接続できます。
- "SIMATIC Report Services" グループのユーザーは、Information Server およびデータソースが位置する PC の両方に作成する必要があります。
ユーザーは、データソースのある PC 上で SIMATIC HMI 権限を持つ必要があります。

3.4 ファンクション

- Process Historian が有効化済みである。
- [管理|プロジェクト構成]が開いている。

手順

1. 名前を変更するプロジェクトを選択します。
2. [名前の変更]を選択します。
3. 新規の名前を割り付けます。
4. 入力を保存します。

結果

プロジェクトの名前が変更されます。

プロジェクトの削除

要件

- Windows ユーザーグループ"SIMATIC Report Administrators"または"SIMATIC Report Publishers"のメンバーである。これによってデータソース、たとえば Process Historian データベースに接続できます。
- "SIMATIC Report Services"グループのユーザーは、Information Server およびデータソースが位置する PC の両方に作成する必要があります。
ユーザーは、データソースのある PC 上で SIMATIC HMI 権限を持つ必要があります。
- Process Historian が有効化済みである。
- [管理|プロジェクト構成]が開いている。

手順

1. 削除するプロジェクトを選択します。
2. [プロジェクトの削除]を選択します。
3. 選択を確定します。

結果

選択したプロジェクトが削除されます。

診断の起動

要件

- Information Server の管理権限を持っていること。
- [管理|プロジェクト設定]が開いている。

手順

1. プロジェクトを選択します。
2. [診断の開始]を選択します。

注記

[ログファイルのダウンロード]を使用して、診断実行のログファイルをローカルに保存できます。

結果

診断実行の結果を含む表が開きます。この表には、機能とそのステータスの概要が表示されます。

診断実行が完了します。

認証の割り付け

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|プロジェクト構成]が開いている。

手順

1. プロジェクトを選択します。
2. [認証]を選択します。
3. 役割の形式でこのプロジェクトに対応して認証を割り当てたいユーザーを選択します。テキストフィールドをクリックすると、すべてのユーザーが提示されるドロップダウンメニューが開きます。

3.4 ファンクション

4. リストから、選択したユーザーに割り当てたい役割を選択します。テキストフィールドをクリックすると、割り当て可能なすべての役割を提示するドロップダウンメニューが開きます。

注記

ユーザーから認証を取り消したい場合は、役割から対応するチェックマークを削除します。

5. [保存]を選択します。

結果

ユーザーの認証が割り当てられます。

ホストの変更

要件

- Information Server の管理権限を持っていること。
- [管理|プロジェクト設定]が開いている。

手順

1. ホストを変更するためにプロジェクトを選択します。
2. [ホストの変更]を選択します
3. フィールド[ホスト名]にホスト名を入力します。
4. [OK]を選択します。

結果

ホストが調整されました。

選択したプロジェクトの概要で、変更されたメタデータを確認できます。

ユーザー設定

ユーザー設定

定義

ユーザー管理を使用して、ユーザーおよびグループのプロパティを定義します。

作成済みユーザーのための概要に以下の情報があります。

- 格納された電子メールアドレス
- 言語設定
- 関連する Windows ユーザーグループ

以下の機能が使用可能です。

- 新規ユーザーを作成する。
- 新規ユーザーを編集する。
- Windows ユーザーグループのグループ認証を設定する。

注記

ユーザーを管理し、Windows ユーザーグループに割り当てるためには、Windows のコンピュータの管理を使用します。

Information Server では、以下のローカル Windows ユーザーグループを使用します。

Windows ユーザーグループ	権限
SIMATIC Report Services	このグループは、Information Server サービスが実行するユーザーにのみ割り当てる必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• Information Server スケジューラ• Datahost• IIS ワーカープロセス。
SIMATIC Report Administrators	Information Server のすべての機能に対する無制限のアクセス
SIMATIC Report Users	レポートおよびダッシュボードを作成および設定します

3.4 ファンクション

Windows ユーザーグループ	権限
SIMATIC Report Publishers	レポートおよびダッシュボードを作成およびロードします
SIMATIC Report Viewers	レポートおよびダッシュボードに対する読み取りアクセス

注記

"SIMATIC Report Services" Windows ユーザーグループのメンバーである場合は、Information Server を使用するために別のユーザーグループに自身を割り付けてください。

PCS neo の UMC と Windows グループのマッピング

PCS neo の Information Server のユーザーグループ

以下の説明は、PCS neo から Information Server への最初のログインのシナリオに適用されます。

このステップ中、UMC ユーザーが割り付けられた UMC グループは、IS の対応するグループへ 1 度マップされます。したがって"SIMATIC PCS neo Runtime Management Engineer"は、"SIMATIC Reporting User"になります。適用する複数の UMC グループが存在する場合、IS グループは追加で割り付けられます。このプロセスは、ユーザーを複数のグループに割り付けられるようにし、最高レベルの権限が適用されます。

注記

"SIMATIC Report ..."グループははじめは存在しません。これらのグループは管理者が作成する必要があります。

ユーザー管理のトピックに関するすべての情報と関連するリンクは、次のセクションにあります:

プロジェクト管理 > ユーザー管理 > ユーザーの管理の作業

グループのマッピング

ユーザーが次の UMC グループのうちの 1 つのメンバーである場合、ユーザーは対応する IS グループに適用されます。

UMC グループ	対応する IS グループ	説明
SIMATIC PCS neo システム管理者	SIMATIC Report Administrators	事前定義された UMC グループ
SIMATIC PCS neo デバイス統合エンジニア	SIMATIC Report Users	事前定義された UMC グループ
SIMATIC PCS neo プロジェクト管理エンジニア	SIMATIC Report Administrators	事前定義された UMC グループ
SIMATIC PCS neo ランタイム管理エンジニア	SIMATIC Report Users	事前定義された UMC グループ
SIMATIC Report Administrators	SIMATIC Report Administrators	このグループは UMC 管理者が作成する必要があります。
SIMATIC Report Publishers	SIMATIC Report Publishers	このグループは UMC 管理者が作成する必要があります。
SIMATIC Report Users	SIMATIC Report Users	このグループは UMC 管理者が作成する必要があります。
SIMATIC Report Viewers	SIMATIC Report Viewers	このグループは UMC 管理者が作成する必要があります。

ユーザー設定のツールバー

定義

ツールバーには、ユーザー設定のすべての機能が含まれます。

構造

以下の機能が使用可能です。



- ① ユーザーの作成 ユーザーを作成します。
(ページ 256)
- ② ユーザーの編集 選択したユーザーを編集モードで開きます。
(ページ 257)
- ③ ユーザーの削除 選択したユーザーを削除します。
(ページ 258)
- ④ グループの管理 グループ管理のダイアログが開きます。
 - ユーザーグループの作成 (ページ 258)
 - ユーザーグループの編集 (ページ 259)
 - ユーザーグループの削除 (ページ 259)

順を追った説明

ユーザーの作成

必要条件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. [ユーザーの作成]を選択します。
2. 作成したいユーザーを選択します。
3. [保存]を選択します。

注記

また、コンピュータ上の SIMATIC Report グループにユーザーを追加することにより、ユーザーを作成することもできます。ユーザーが最初にログオンすると、Information Server ユーザーとして作成されます。これによってユーザーは、Web アプリケーションの他のグループに割り付けることができます。

結果

ユーザーが作成され、オーバービューに表示されます。

ユーザーの編集

必要条件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. 設定を編集したいユーザーを選択します。
2. ユーザーに対して必要な設定を行います。

タブ	設定
全般	<ul style="list-style-type: none">• 表示名• 電子メールアドレス• 言語• ロック• アプリケーションのステータスデータをすべて削除します
通知	通知の選択
グループ/権限	<ul style="list-style-type: none">• グループ• 追加の権限
有効な権限	権限の概要

3. [保存]を選択します。

3.4 ファンクション

結果

ユーザーが編集されます。

ユーザーの有効化/無効化

要件

- Windows ユーザーグループのメンバーであるか、ドメインのローカルユーザーとして登録されている。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. 有効化/無効化するユーザーを選択します。
2. [ユーザーの有効化/無効化]を選択します。
3. 選択を確認して、[続ける]をクリックします。

結果

ユーザーが有効化/無効化されます。

ユーザーグループの作成

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. [グループの管理]を選択します。
2. [追加]を選択します。
3. グループの名前と説明を入力します。
4. グループに対する権限を有効にします。
5. [保存]を選択します。

結果

ユーザーグループが作成され、概要に表示されます。

ユーザーグループの編集

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. [グループの管理]を選択します。
2. グループを選択します。
3. [編集]を選択します。
4. グループの名前および説明を編集します。
5. 選択したグループの権限を有効または無効にします。
6. [保存]を選択します。

結果

ユーザーグループが編集されます。

ユーザーグループの削除

要件

- Windows ユーザーグループ SIMATIC Report Administrators のメンバーである。
- [管理|ユーザー設定]が開いている

手順

1. [グループの管理]を選択します。
2. グループを選択します。
3. "削除"を選択します。
4. [保存]を選択します。

3.4 ファンクション

結果

ユーザーグループが削除されます。

3.4.3 Office アドイン

3.4.3.1 Excel Office アドイン

定義

Excel Office アドインでは、レポートを挿入、作成および編集できます。

構造

Excel Office アドインは、以下の領域から構成されます。

3.4 ファンクション

	A	B	C	D	E	F	G
1	Time	Value [kg]					
2	Di, 28 Apr 2020 13:01:28,108	-4983,00					
3	Di, 28 Apr 2020 13:01:28,608	-4983,00					
4	Di, 28 Apr 2020 13:01:29,108	-4983,00					
5	Di, 28 Apr 2020 13:01:29,608	-4983,00					
6	Di, 28 Apr 2020 13:01:30,108	8532,00					
7	Di, 28 Apr 2020 13:01:30,608	8532,00					
8	Di, 28 Apr 2020 13:01:31,108	8532,00					
9	Di, 28 Apr 2020 13:01:31,608	8532,00					
10	Di, 28 Apr 2020 13:01:32,108	7344,00					
11	Di, 28 Apr 2020 13:01:32,608	7344,00					
12	Di, 28 Apr 2020 13:01:33,108	7344,00					
13	Di, 28 Apr 2020 13:01:33,608	7344,00					
14	Di, 28 Apr 2020 13:01:34,108	-6848,00					
15	Di, 28 Apr 2020 13:01:34,608	-6848,00					
16	Di, 28 Apr 2020 13:01:35,108	-6848,00					
17	Di, 28 Apr 2020 13:01:35,608	-6848,00					
18	Di, 28 Apr 2020 13:01:36,108	8362,00					
19	Di, 28 Apr 2020 13:01:36,608	8362,00					
20	Di, 28 Apr 2020 13:01:37,108	8362,00					
21	Di, 28 Apr 2020 13:01:37,608	8362,00					
22	Di, 28 Apr 2020 13:01:38,108	-7362,00					

Connected to <https://phis2020:443/>

- ① ツールバー Excel Office アドインの機能へのアクセスを提供します。
(ページ 264)

- ② フッター (ページ 296) Office アドインの接続状態を表示します。
- ③ ワークエリア 追加されたレポート、メッセージおよびタグを表示します。

3.4.3.2 Office アドインのレポートタイプ

定義

Office アドインのレポートには 2 つのタイプがあります。

- レポートテンプレート
Information Server でレポートを作成でき、それを Excel ファイルにグラフィックとして挿入できます。レポート作成は、Information Server での Web アプリケーションの手順と同じです。
- Excel レポートテンプレート
Excel のレポートテンプレートを作成することができます。プロセス値またはメッセージが Excel のワークシートのセルに挿入されます。相対時間を使用すると、セルの内容を更新できます。Excel の機能を使ってデータを処理できます。たとえば、Excel の画像機能を使って、プロセス値のトレンドを視覚化することができます。

3.4.3.3 Excel でのレポートテンプレートのサブスクリプション

定義

Excel で作成したレポートテンプレートからレポートをサブスクライブして、Information Server に保存できます。レポートに含まれる計算式およびダイアグラムは自動的に更新されます。

Excel で作成したテンプレートと、Web アプリケーションのテンプレートの違いは、Information Server の Excel テンプレートは、MS Excel または Open XML で作成し、Web アプリケーションのテンプレートは MS Report Server で作成することです。

注記

計算式とチャートの自動更新をサポートするために、MS Excel をサーバーにインストールする必要があります。Information Server は、MS Excel で Excel レポートを作成します。サーバーに Excel がない場合、Open XML でレポートを作成し、一部の計算式とダイアグラムは自動的に更新されない場合があります。

3.4 ファンクション

3.4.3.4 順を追った説明

Office アドインを開く

必要条件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。

手順

1. Office アドインを開きます。
2. [Information Server]タブに移動します。

結果

Office アドインが開いています。

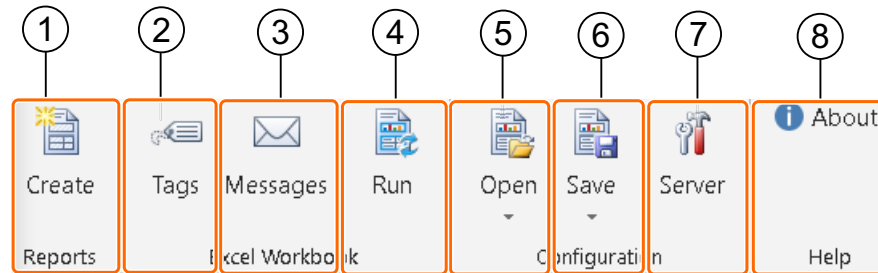
3.4.3.5 Excel のツールバー

定義

このツールバーは、Office アドインの機能へのアクセスを提供します。

レイアウト

ツールバーは以下の領域から構成されます。



- | | |
|------------------|--|
| ① 作成 (ページ 266) | Excel でレポートを作成します。 |
| ② タグ | <ul style="list-style-type: none"> • タグを作成します。 • タグを設定します。 • タグを削除します。 |
| ③ メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> • メッセージを作成します。 • メッセージを設定します。 • メッセージを削除します。 |
| ④ 更新 (ページ 283) | Excel ワークブックを更新します。 |
| ⑤ 開く | <ul style="list-style-type: none"> • ローカルに保存した Excel レポートを開きます。 • Information Server から Excel レポートを開きます。 |
| ⑥ 保存 | <ul style="list-style-type: none"> • Excel レポートテンプレートをローカルに保存します。 • Excel レポートテンプレートを Information Server に保存します。 |
| ⑦ サーバー (ページ 285) | サーバー設定を開きます。 |
| ⑧ バージョン情報/ヘルプ | Information Server アドインに関する情報を開きます。 |

順を追った説明

Excel でのレポートの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。

手順

1. [レポート]セクションで、[作成]を選択します。
2. [レポートの作成]ダイアログのフォルダツリーで、[レポートテンプレート|テンプレート]に移動します。
3. レポートを作成するために使用するレポートテンプレートを選択します。
4. レポートテンプレートを設定するか、使用できる場合は[パラメータのデフォルト]で保存済みのパラメータのデフォルトを適用します。

注記

パラメータのデフォルトの作成、適用または削除

ここでは、Web アプリケーションで作成済みのパラメータの事前設定を受け付ける、[+] ボタンを使って新規のパラメータの事前設定を作成する、または、既存のパラメータの事前設定を削除できます。

パラメータの事前設定の作成に関する詳細情報は、Excel の「Excel のパラメータのデフォルト (ページ 294)」を参照してください。

パラメータの事前設定の作成に関する詳細情報は、Web アプリケーションの「パラメータの事前設定の作成 (ページ 186)」を参照してください。

5. [レポートの作成]を選択します。

注記

複数のページ結果での照会の表示

複数のページ結果での照会の場合、最初のページのみ表示されます。

結果

レポートが作成されます。

ローカルに保存した Excel レポートを開く

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。

手順

1. [設定]エリアで[ローカルファイルを選択]を選択します。
2. ローカルに保存されたレポートを選択して、ダイアログを確定します。

注記

ファイル形式

インポートするには.ert ファイル形式が必要です。

フォルダの作成

"Ctrl+N"のキーボードショートカットを使うか、コンテキストメニューを使って階層に新規のフォルダを作成できます。

フォルダの削除

"Del"キーまたはコンテキストメニューを使って、階層で選択したフォルダを削除できます。この場合、フォルダが空であることが必要です。

結果

レポートテンプレートが開きます。

3.4 ファンクション

Information Server から Excel レポートを開きます。

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [設定]エリアで[開く]を選択します。
2. Information Server の保存場所で、インポートするレポートを選択して、ダイアログを確定します。

注記

ファイル形式

インポートするには.ert ファイル形式が必要です。

フォルダの作成

"Ctrl+N"のキーボードショートカットを使うか、コンテキストメニューを使って階層に新規のフォルダを作成できます。

フォルダの削除

"Del"キーまたはコンテキストメニューを使って、階層で選択したフォルダを削除できます。この場合、フォルダが空であることが必要です。

結果

レポートテンプレートがインポートされます。

Excel レポートテンプレートのローカルへの保存

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- レポートテンプレートが設定されます。

手順

1. [設定]エリアで[ローカルに保存]オプションを選択します。
2. レポートの保存場所を選択し、保存のためにダイアログを確定します。

注記

フォルダの作成

"Ctrl+N"のキーボードショートカットを使うか、コンテキストメニューを使って階層に新規のフォルダを作成できます。

フォルダの削除

"Del"キーまたはコンテキストメニューを使って、階層で選択したフォルダを削除できます。この場合、フォルダが空であることが必要です。

結果

レポートテンプレートが保存されます。

3.4 ファンクション

Excel レポートテンプレートを Information Server に保存します。

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- レポートテンプレートが設定されます。

手順

1. [設定]エリアで[保存]を選択します。
2. Information Server でレポートの保存場所を選択し、ダイアログを確定します。

注記

フォルダの作成

"Ctrl+N"のキーボードショートカットを使うか、コンテキストメニューを使って階層に新規のフォルダを作成できます。

フォルダの削除

"Del"キーまたはコンテキストメニューを使って、階層で選択したフォルダを削除できます。この場合、フォルダが空であることが必要です。

結果

レポートテンプレートがエクスポートされます。

Excel でのサブスクリプションの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [保存]を選択します。
2. [保存]ダイアログで、テンプレートを保存するフォルダを選択します。
3. テンプレートに名前を付けます。
4. テンプレートの説明を入力します。
5. [保存]を選択します。
6. Information Server の Web アプリケーションを開きます。
7. レポート機能で、選択したテンプレートの場所に移動します。
8. Excel レポートテンプレートの編集モードを開きます。
9. Excel レポートテンプレートを設定します。
10. [サブスクリプションの作成]を選択します。

注記

これらのサブスクリプションは、Microsoft Excel 形式のみでレポートを作成します。作成されたレポートは、レポート機能で作成されたテンプレートの[レポート]オーバービューに表示されます。

サブスクリプション設定の詳細情報:

サブスクリプションの作成 (ページ 202)

11. 入力を保存します。

結果

サブスクリプションが作成されます。

3.4 ファンクション

タグの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [Excel ワークブック]エリアで[タグ]を選択します。
2. [タグの追加/編集]ダイアログで、プロジェクトを選択します。

注記

プロジェクトの選択

次回このダイアログを開くと、最後に選択したプロジェクトが自動的に選択されます。
ドロップダウンリスト内のプロジェクトの選択を更新するには、[更新]ボタンを選択します。

3. アーカイブに移動し、ダブルクリックするか、ドラッグアンドドロップして 1 つ以上のタグを[選択済みタグ]オーバービューに追加します。

注記

新しく追加されたタグの表示

選択内容に新しいタグを追加しており、それを編集する場合は、Excel ワークシートを閉じてタグを作成または編集するダイアログを再度開きます。

4. [OK]で入力を確定します。

結果

タグが作成されます。

タグの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [Excel ワークブック]エリアで[タグ]を選択します。
2. [タグの追加/編集]ダイアログで、プロジェクトを選択します。

注記

プロジェクトの選択

次回このダイアログを開くと、最後に選択したプロジェクトが自動的に選択されます。

ドロップダウンリスト内のプロジェクトの選択を更新するには、[更新]ボタンを選択します。

タグ

最後に構成されたタグが表に表示されます。

3. [選択済みタグ]オーバービューで編集するタグを選択します。

注記

新しく追加されたタグの表示

選択内容に新しいタグを追加しており、それを編集する場合は、Excel ワークシートを閉じてタグを作成または編集するダイアログを再度開きます。

4. タグ行で選択されているモードとは関係なく、以下の標準パラメータを設定します。
タグの標準パラメータの編集 (ページ 274)

3.4 ファンクション

5. [モード]列では、設定モードのいずれかを選択し、選択したモードの設定を行います。
タグの設定モードの設定 (ページ 276)
 6. [OK]で入力を確定します。
-

注記

最大数の有効化

値の最大数を設定すると、値が時間間隔の開始時から最大数まで出力されます。最大数
がその時間間隔に存在する値の数より大きい場合、[最大数]設定は無視されます。

結果

タグが設定されます。

下記も参照

時間情報 (ページ 181)

タグの標準パラメータの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- [選択済みタグ]オーバービューで編集するタグが選択されている。

手順

以下の標準パラメータをタグ行で直接設定します。

パラメータ	説明
開始	タグの開始日を選択します。 絶対時刻および相対時間を入力できます。リリースされた時間情報および例は、「時間情報 (ページ 181)」セクションを参照してください。
終了	タグの終了日を選択します。 絶対時刻および相対時間を入力できます。リリースされた時間情報および例は、「時間情報 (ページ 181)」セクションを参照してください。
セル参照	Excel ワークシートでタグのターゲットセルを選択します。 [セル参照]行のボタンをクリックできます。セルを直接選択して、値を入力できるよう、ダイアログが最小化されます。代わりに、セルの値を直接入力します。
シートの向き	用紙の向きを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 水平 • 垂直
ラベル	Excel ワークシートでセルにラベルを付けるか、どのラベルを付けるか指定します。ラベルの位置は、シートの向き(横置き/縦置き)によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • ラベルなし • 上に(縦方向):列の名前は値の上に表示されます。 • 下に(縦方向):列の名前は値の下に表示されます。 • 右(横方向):列の名前は値の右に表示されます。 • 左(横方向):列の名前は値の左に表示されます。
タイムスタンプ	値にタイムスタンプを適用するか指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ラベルなし • 左:タイムスタンプは値の左に表示されます。 • 右:タイムスタンプは値の右に表示されます。
品質コード	品質識別子の位置を選択します。

結果

タグのデフォルトパラメータが設定されました。

タグの設定モードの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開き、[タグの追加/編集]ダイアログが表示されている。

手順

[モード]列では、以下のコンフィグレーションモードのいずれかを選択し、選択したモードの設定を行います。

- 単一の値:1 つのタグ値は、選択されたモードに応じて表示されます。
- 時系列:タグ値は、変更なしで表示されるか、時系列で補間して表示されます。

コンフィグレーションモード	値モード	説明
単一の値	オリジナル	[バック]制限モード:[バック]モードでは、指定時間より前で最初に発生した単一の値を検索します。指定時間は、ミリ秒単位で指定する必要があります。この機能は、指定時間から前の 30 分間検索します。この時間間隔に値がない場合、空の行が出力されます。
		[次へ]制限モード:[次へ]モードでは、指定時間から先で最初に発生した単一の値を検索します。この機能は、指定時間から最大 30 分後まで検索します。この時間間隔に値がない場合、空の行が出力されます。
	補間	[補間]モードは、選択した時刻の前後の値から、値を計算します。選択した時刻に値がある場合、このモードを選択する必要はありません。
	現在	[現在]モードでは、指定サイクル(秒単位)で表の固定値を更新します。この値を[0]に設定した場合、[実行]で値が更新されます。

コンフィグレーションモード	値モード	説明
時系列	オリジナル	[内側]制限モード:指定された時間間隔に値が含まれます。
		[外側]制限モード:時間間隔の開始前の最後の値と、時間間隔の終了後の次の値を含みます。
		[バック]制限モード:[バック]モードでは、指定時間より前で最初に発生した単一の値を検索します。指定時間は、ミリ秒単位で指定する必要があります。この機能は、指定時間から前の 30 分間検索します。この時間間隔に値がない場合、空の行が出力されます。
		[次へ]制限モード:[次へ]モードでは、指定時間から先で最初に発生した単一の値を検索します。この機能は、指定時間から最大 30 分後まで検索します。この時間間隔に値がない場合、空の行が出力されます。
	補間	[補間]モードは、選択した時刻の前後の値から、値を計算します。選択した時刻に値がある場合、このモードを選択する必要はありません。たとえば、時間間隔が 1 分で、補間の時間間隔が 10 秒である場合、10 秒ごとに 1 つの値で、6 つの補間値となります。
	計算	[最大]計算メソッド:間隔あたりの最大値を特定します。[タイムスタンプ]でいずれかのモードを選択します。間隔の最小/最大タイムスタンプの開始。
		[最小]計算メソッド:間隔あたりの最小値を特定します。[タイムスタンプ]でいずれかのモードを選択します。間隔の最小/最大タイムスタンプの開始。
		[平均値]計算メソッド:算術平均を求めます。
		[積分(線形)]計算メソッド:タグの線形補間機能によって積分を求めます。
		[積分(サンプルホールド)]計算メソッド:タグのサンプルホールド補間機能によって積分を求めます。
		[合計]計算メソッド:間隔あたりのすべてのタグ値の合計を計算します。

結果

設定モードが設定されます。

3.4 ファンクション

タグの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- レポートテンプレートが開き、タグが含まれている。

手順

1. [タグ]を選択します。
[タグの追加/編集]ダイアログが開きます。
2. [選択済みタグ]オーバービューから、削除するタグを選択します。
3. [削除]ボタンを選択します。

結果

タグが削除されます。

メッセージの作成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [Excel ワークブック]エリアで、[メッセージ]オプションを選択します。
2. [メッセージの追加/編集]ダイアログで、プロジェクトを選択します。

注記

プロジェクトの選択

次回このダイアログを開くと、最後に選択したプロジェクトが自動的に選択されます。

ドロップダウンリスト内のプロジェクトの選択を更新するには、[更新]ボタンを選択します。

-
3. メッセージのデフォルトフィルタを作成するために、[メッセージ設定の追加]ボタンを選択します。

注記

[メッセージ設定]リストにメッセージのフィルタが表示されます。Excel ワークシートにフィルタごとに 1 つの出力が表示されます。[メッセージ設定]オーバービューでメッセージのフィルタを選択すると、行で直接フィルタを設定できます。

-
4. すべての目的のメッセージフィルタを挿入し終わるまで、ステップ 3 からの手順を繰り返します。
 5. [OK]でダイアログを確定します。

注記

Excel ワークシートで、マウスポインタを値のテキストフィールドに重ねると、ツールヒントにメッセージブロックの名前が表示されます。

結果

メッセージが作成されます。

メッセージの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

3.4 ファンクション

手順

1. [Excel ワークブック]エリアで、[メッセージ]オプションを選択します。
2. [メッセージの追加/編集]ダイアログで、プロジェクトを選択します。

注記

プロジェクトの選択

次回このダイアログを開くと、最後に選択したプロジェクトが自動的に選択されます。ドロップダウンリスト内のプロジェクトの選択を更新するには、[更新]ボタンを選択します。

メッセージ

最後に構成されたメッセージが表に表示されます。

3. [メッセージ構成]オーバービューから、編集するメッセージのフィルタを選択します。
4. メッセージ行で選択されているモードとは関係なく、以下の標準パラメータを設定します。メッセージの標準パラメータの設定 (ページ 281)
5. [選択した属性]列で、メッセージの 1 つ以上の属性を選択します。

注記

これらの属性は、プロジェクトに依存します。表の属性の順序は、選択の順序に参照されます。順序を変更する場合、選択全体を削除してから、任意の順序で再度有効化します。

6. メッセージフィルタを使って、メッセージの追加のフィルタ条件を選択します。メッセージフィルタの設定 (ページ 286)

注記

メッセージフィルタを使って、メッセージの属性の追加条件を定義します。この条件で、表示されるメッセージの数が制限されます。

フィルタは、任意の数、設定できます。1 行に 1 つのフィルタの属性、オペランドおよび値を選択します。選択ボックスを使って、個々のフィルタの依存を定義することもできます。

7. 必要に応じて、[最大数]オプションを有効化して、数値を入力します。

注記

値の最大数を設定すると、値が時間間隔の開始時から最大数まで出力されます。最大数がある時間間隔に存在する値の数より大きい場合、[最大数]設定は無視されます。

8. すべての目的のメッセージフィルタを挿入し終わるまで、ステップ 5 からの手順を繰り返します。

注記

Excel ワークシートで、マウスポインタを値のテキストフィールドに重ねると、ツールヒントにメッセージブロックの名前が表示されます。

9. [OK]で、変更を確定します。

結果

メッセージが設定されます。

下記も参照

時間情報 (ページ 181)

メッセージの標準パラメータの設定**要件**

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- 編集したいメッセージを[メッセージ設定]オーバービューで選択します。

3.4 ファンクション

手順

以下の規格パラメータをメッセージ行で直接編集します。

パラメータ	説明
名前	メッセージ設定の名前です。
開始	メッセージの開始日を選択します。 絶対時刻および相対時間を入力できます。リリースされた時間情報および例は、「時間情報 (ページ 181)」セクションを参照してください。
終了	通知の終了日を選択します。 絶対時刻および相対時間を入力できます。リリースされた時間情報および例は、「時間情報 (ページ 181)」セクションを参照してください。
セル参照	Excel ワークシートでメッセージのターゲットセルを選択します。 [セル参照]行のボタンをクリックできます。セルを直接選択して、値を入力できるよう、ダイアログが最小化されます。代わりに、セルの値を直接入力します。
シートの向き	用紙の向きを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 水平 • 垂直
ラベル	Excel ワークシートでセルにラベルを付けるか、どのラベルを付けるか指定します。ラベルの位置は、シートの向き(横置き/縦置き)によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • ラベルなし • 上に(縦方向):列の名前は値の上に表示されます。 • 下に(縦方向):列の名前は値の下に表示されます。 • 右(横方向):列の名前は値の右に表示されます。 • 左(横方向):列の名前は値の左に表示されます。

結果

メッセージの標準パラメータが編集されます。

メッセージの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

手順

1. [メッセージ]を選択します。
[メッセージの追加/編集]ダイアログが開きます。
2. [メッセージの追加/編集]ダイアログで、[選択されたメッセージ]オーバービューから削除したいメッセージを選択します。
3. [選択されたメッセージ]オーバービューで、[削除]ボタンを選択します。

結果

メッセージが削除されます。

Excel ワークブックの更新

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- タグまたはメッセージが Excel ワークシートに挿入されている。

3.4 ファンクション

手順

[Excel ワークブック]エリアで、[実行]オプションを選択してアーカイブデータをリトリートブします。

結果

設定したタグおよび/またはメッセージに、接続されたデータソースがリトリートブされ表示されます。

プロセス値の画像表示

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- プロセス値が使用できる Excel ワークシートが開いている。

手順

1. 画像で評価するプロセス値と対応するタイムスタンプを選択します。
2. [挿入]タブに移動します。
3. [チャート]エリアで、プロセス値を画像で表示するチャートタイプを選択します。
4. 挿入したチャートを目的の位置に配置します。

注記

選択した相対時間データを使用している場合、[実行]を選択するとチャートのプロセス値が更新されます。

結果

プロセス値が画像で表示されます。

サーバー設定の構成

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server タブが開いている。

手順

1. [設定]エリアで[サーバー]オプションを選択します。
2. Information Server 名または IP アドレスを入力します。
3. [保存]を選択します。

結果

サーバー設定が構成されます。

3.4.3.6 メッセージフィルタ

メッセージフィルタ

定義

定義された時間レンジから選択したメッセージをメッセージフィルタでさらに絞り込むことができます。これらは、[メッセージフィルタ]列で[追加]ボタンを使って、メッセージ設定で作成できます。次のダイアログで、個々のメッセージ属性にフィルタを指定できます。比較演算子および比較値は、これらそれぞれの属性に保存されます。

論理演算

初期設定では、これらのフィルタは論理"AND"でリンクされます。または、"And/Or"列で2つのフィルタのリンクのタイプを調整して、論理"OR"を選択できます。

3.4 ファンクション

グルーピング

一連のフィルタを論理的にグルーピングすることもできます。そのためには、最初の列で必要なフィルタにチェックマークを入れて、列見出しで[=]のラベルが付いたボタンを押します。

注記

グルーピングは、直上/直下のフィルタ同士のみで可能です。

グルーピングは、色付きグループマーカーで[X]ボタンを押すことでキャンセルできます。

メッセージフィルタの順を追った説明

メッセージフィルタの設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Information Server への接続が確立されている。
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- [メッセージの追加/編集]ダイアログが開いていて、メッセージが作成されている。

手順

1. [メッセージフィルタ]列でダイアログを開きます。
2. [属性]列で、属性をフィルタ条件として選択します。
3. [演算子]および[値]列に任意に入力します。
4. 複数の属性をオペランドでリンクします。

注記

条件を使って、出力される属性を制限します。

5. [適用]を選択して、メッセージブロックのフィルタ設定を適用します。

結果

メッセージフィルタが設定されます。

(=	And/Or	Attribute	Operator	Value
<input type="checkbox"/>		Status	=	
<input type="checkbox"/>	And			
<input type="checkbox"/>	And	Process value: 1	=	50

Add new clause

Filter preview:

Statustext = " AND PValue1 = 50

3.4.3.7 操作を容易にする

操作を容易にする

定義

以下に、[タグの追加/編集]および[メッセージの追加/編集]ダイアログで表の操作を容易にするヒントを示します。

[メッセージ構成]および[選択済みタグ]の表のフィルタ

表を名前、セル参照またはプロジェクトでフィルタするオプションがあります。

表のフィルタ (ページ 288)

タグの置換

リストの以前に追加されたタグは、概要からの選択されたタグによって置換されます。

タグの置換 (ページ 289)

3.4 ファンクション

複数のメッセージタグの選択

同時に複数のメッセージおよびタグを選択するいくつかの方法があります。

複数のメッセージタグの選択 (ページ 293)

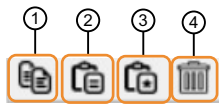
表の複数のフィールドへのパラメータの転送

複数のメッセージタグのパラメータを 1 ステップで一致させることができます。

パラメータの適用 (ページ 290)

操作を容易にするボタンのレイアウト

[タグの追加/編集]および[メッセージの追加/編集]ダイアログのボタンは、表の下に配置され、以下の領域から構成されます。



- | | |
|-------------------|--|
| ① コピー (ページ 290) | メッセージタグまたはその設定が削除されます。 |
| ② 貼り付け (ページ 291) | 完全にコピーしたメッセージタグが挿入されている。 |
| ③ 設定の転送 (ページ 292) | コピーしたメッセージタグの設定が選択したメッセージタグに転送されます。メッセージタグ名は保持されます。 |
| ④ 削除 (ページ 292) | メッセージタグが削除されます。SHIFT キーを押しながら複数行を選択し、それらを一度にすべて削除できます。 |

容易な操作の順を追った説明**表のフィルタ****要件**

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

行にフィルタしたい語を入力します。

- 名前
- セル参照
- プロジェクト

結果

フィルタした結果が表に表示されます。

タグの置換

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- 少なくとも 1 つのタグが[タグの追加/編集]ダイアログで作成されます。

手順

1. すでに追加されたタグのリストからタグを選択します。
2. 概要で、リストで選択したタグと置換するために使用したい新規のタグを選択します。
3. [置換]をクリックします。

結果

リストの以前に追加されたタグは、概要からの選択されたタグによって置換されます。

3.4 ファンクション

パラメータの適用

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

1. パラメータを調整したい表の行を選択します。
2. メッセージ/タグのパラメータを変更し、右下で同じ値を取得するすべてのフィールドの周囲に青のフレームを描画します。

結果

選択したフィールドに入力値がコピーされます。

メッセージ/タグまたはそれらの設定のコピー

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

1. メッセージ/タグを選択します。

注記

複数選択

SHIFT キーを押したままで複数行を選択して、この操作を行うことができます。

2. [コピー]ボタンを選択します。

結果

メッセージ/タグまたはその設定がコピーされます。

コピーしたメッセージ/タグの挿入

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

1. メッセージ/タグを選択します。

注記

複数選択

SHIFT キーを押したままで複数行を選択して、この操作を行うことができます。

2. [貼り付け]ボタンを選択します。

結果

完全にコピーしたメッセージ/タグが挿入されている。

3.4 ファンクション

コピーしたメッセージ/タグの設定の転送

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

1. メッセージ/タグを選択します。

注記

複数選択

SHIFT キーを押したままで複数行を選択して、この操作を行うことができます。

2. [内容の挿入]ボタンを選択します。

結果

コピーしたメッセージ/タグの設定が選択したメッセージ/タグに転送されます。メッセージ/タグ名は保持されます。

メッセージ/タグの削除

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

1. メッセージ/タグを選択します。

注記

複数選択

SHIFT キーを押したままで複数行を選択して、この操作を行うことができます。

2. [削除]ボタンを選択します。

結果

メッセージ/タグが削除されます。

複数のメッセージ/タグの選択

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。
- [タグの追加/編集]または[メッセージの追加/編集]で複数のメッセージ/タグが作成されている。

手順

以下のようにして、同時に複数のメッセージ/タグを選択できます。

- SHIFT キーを保持して一度で複数の行を選択します。
- マウスでラバーバンド選択を使用して行をマークします。

3.4 ファンクション

結果

複数のメッセージ/タグが選択されます。

3.4.3.8 Excel のパラメータのデフォルト

Excel のパラメータのデフォルト

定義

以下のオプションがあります。

- Web アプリケーションで既に作成されたパラメータデフォルトを受け入れる
- [+]ボタンを使用して新しいパラメータ事前設定を作成する
- 既存のパラメータ事前設定を削除する

アプリケーションの推奨値

以下の機能が使用可能です。

Excel でのパラメータの事前設定 (ページ 295)

Excel でのパラメータの事前設定の再利用 (ページ 295)

パラメータの事前設定の作成に関する詳細情報は、Web アプリケーションの以下を参照してください。

パラメータの事前設定 (ページ 186)

Excel でのパラメータの事前設定の順を追った説明

Excel でのパラメータの事前設定

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。
- Information Server への接続が確立されている。

手順

1. [レポートの作成]ダイアログのフォルダツリーで、[レポートテンプレート|テンプレート]に移動します。
2. パラメータの事前設定を作成するレポートテンプレートを選択します。
3. レポートを設定します。
4. [追加]を選択します。
5. 名前を選択します。
6. [OK]を選択します。

結果

パラメータの事前設定が作成されます。

Excel でのパラメータの事前設定の再利用

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators
- Microsoft Excel で Information Server タブが開いている。

3.4 ファンクション

- Information Server への接続が確立されている。
- レポートにデフォルトパラメータ設定が作成されている。

手順

1. [レポートの作成]ダイアログのフォルダツリーで、[レポートテンプレート|テンプレート]に移動します。
2. パラメータ設定を作成するレポートテンプレートを選択します。
3. [パラメータの事前設定]の横のドロップダウンリストボックスから事前設定を選択します。
4. 選択を確定します。

結果

パラメータの事前設定が Excel に含まれます。

3.4.3.9 Excel のフッター

接続ステータス

フッターは、Office アドインの接続状態を表示します。

次の 3 つの状態があります。

- 接続中:接続を確立中です。
- 接続済み:接続が確立されています。
- 接続失敗:接続が切断されました。

Excel のフッター

定義

フッターは、Office アドインの接続状態を表示します。

次の 3 つの状態があります。

- 接続中:接続を確立中です。
- 接続済み:接続が確立されています。
- 接続失敗:接続が切断されました。

レイアウト

フッターの左で接続状態を確認します。

Connected to https://phis2020:443/

接続状態の確認 (ページ 297)

順を追った説明

接続状態の確認

要件

- 以下のいずれかの Windows ユーザーグループのメンバーである。
 - SIMATIC Report Publishers
 - SIMATIC Report Users
 - SIMATIC Report Administrators

手順

フッターで接続状態を確認します。

- 接続中:接続を確立中です。
- 接続済み:接続が確立されています。
- 接続失敗:接続が切断されました。

注記

Information Server への接続なし

Information Server への接続がない場合、適切なライセンスがあるか、またはネットワークの問題がないか確認します。必要に応じて、接続手順を繰り返します。

Information Server への既存の接続がない場合、マルチファンクションツールバーのコマンドは有効になりません。

結果

接続状態を確認します。

3.4 ファンクション